

明日香村  
地域福祉計画・地域福祉活動計画  
中間評価報告書

令和5年3月  
明日香村  
社会福祉法人 明日香村社会福祉協議会



# 目 次

<b>第 1 章 明日香村地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要</b> .....	<b>1</b>
1 計画の位置付け .....	1
2 計画の期間 .....	2
3 計画の理念と施策体系 .....	3
<b>第 2 章 中間評価の目的と方法</b> .....	<b>5</b>
1 中間評価の背景 .....	5
2 中間評価の体制 .....	6
<b>第 3 章 計画の取り組み状況と村の現状調査</b> .....	<b>7</b>
1 各取り組み目標における進捗状況 .....	7
2 アンケート調査結果からみる地域福祉の現状と課題 .....	11
<b>第 4 章 中間評価の結果</b> .....	<b>16</b>
1 計画の後期に向けた課題 .....	16
2 今後の方向性 .....	19
<b>資料</b> .....	<b>23</b>
1 明日香村地域福祉計画等評価委員会要綱 .....	23
2 用語解説 .....	26
3 アンケート調査結果 .....	28







# 第 1 章

## 明日香村地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要

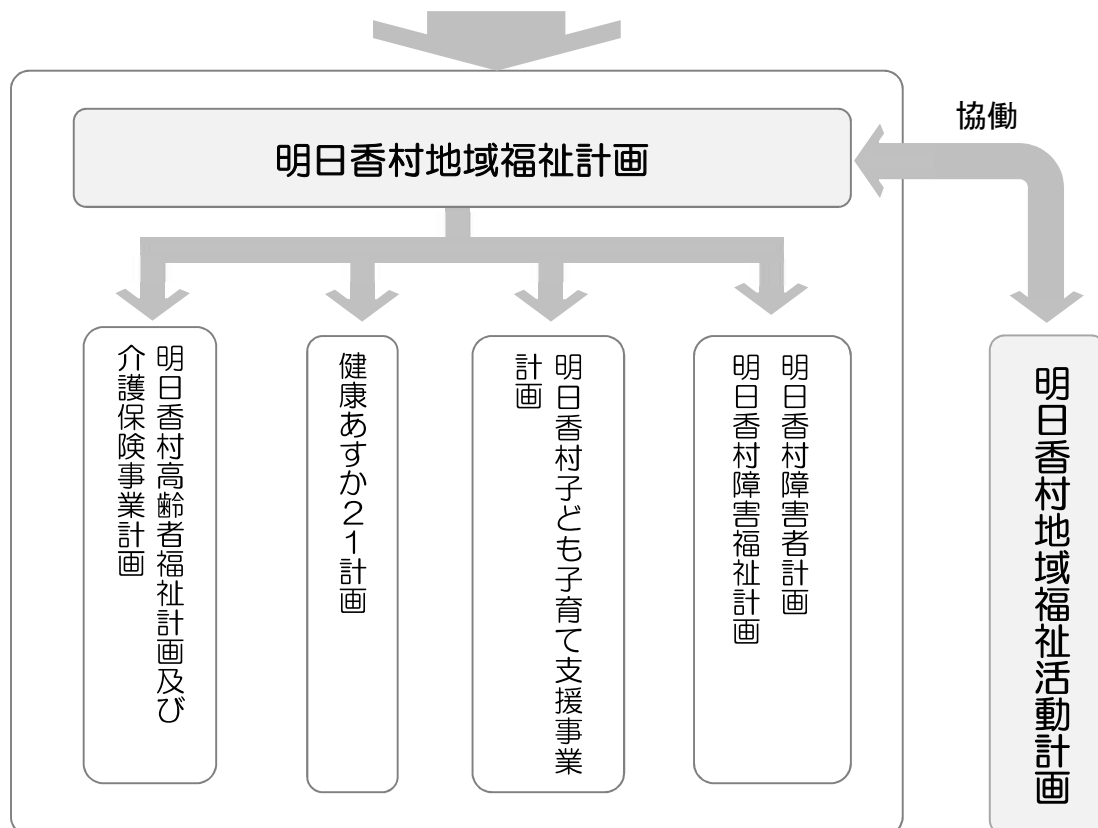
### 1 計画の位置付け

「地域福祉計画」は、明日香村が行政計画として策定するものであり、保健・福祉分野の総合計画として位置づけされるものです。この計画は、地域の福祉課題を明らかにし、村民参加によって中長期的な視野で解決策やビジョンを考えていく、いわば「我がむらの地域福祉をデザインする総合計画」といえます。

一方、「地域福祉活動計画」は、民間組織である社会福祉協議会が活動計画として策定するものであり、村民や保健・福祉等の関係団体が、地域福祉の推進に主体的に関わるための具体的な内容をまとめた実践的な計画です。

本村では、行政と社会福祉協議会が、同じ理念や方向性のもとで協働して地域福祉を推進するために、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体的に策定しています。

#### 第5次明日香村総合計画（令和2年度から令和11年度）



注 【地域福祉計画】  
地域福祉計画は、社会福祉法第107条に基づき、市町村が策定する計画  
【地域福祉活動計画】  
地域福祉活動計画は、市町村社会福祉協議会が策定する計画

## 2 計画の期間

本計画の計画期間は、平成30年度から令和9年度までの10年間としています。なお、国、奈良県等の動向を踏まえるとともに、社会情勢の変化や関連計画との調整を考慮して、必要に応じて見直しを行います。

	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
総合計画	第4次総合計画		第5次総合計画							
地域福祉計画	第1期地域福祉計画									
障害者計画	第3期障害者計画					第4期障害者計画				
障害福祉計画	第5期障害福祉計画			第6期障害福祉計画		第7期障害福祉計画			第8期 障害福 祉計画	
障害児福祉計画	第1期障害児福祉計画			第2期障害児福祉計画		第3期障害児福祉計画			第4期 障害児 福祉計画	
子ども・子育て 支援事業計画	第1期計画		第2期計画				第3期計画			
高齢者福祉計画 介護保険事業計画	第7期計画			第8期計画			第9期計画		第10 期計画	
健康あすか21 計画	第2期計画					第3期計画				

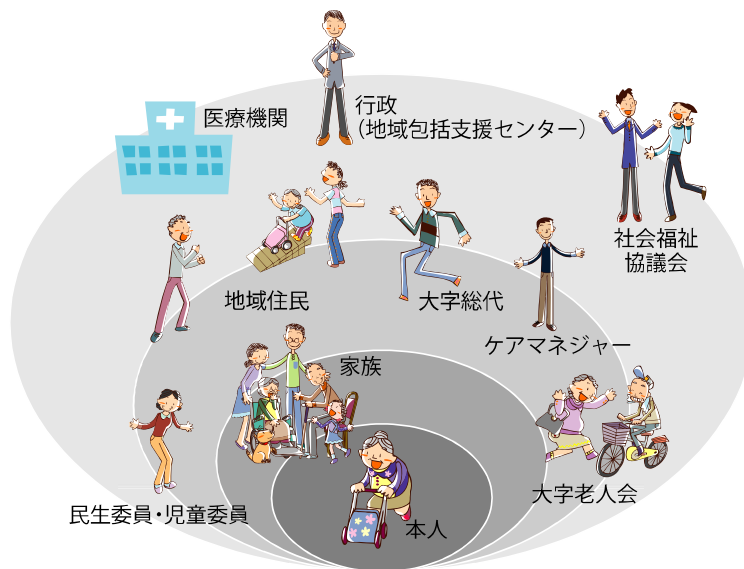
### 3 計画の理念と施策体系

地域福祉を進めるためには、本村の強みである地域のつながりの強さを活かしながら、若い人の多様な形での参加を促していき、新たな活動への参加の仕組みや支援の枠組みをつくっていくことが重要です。

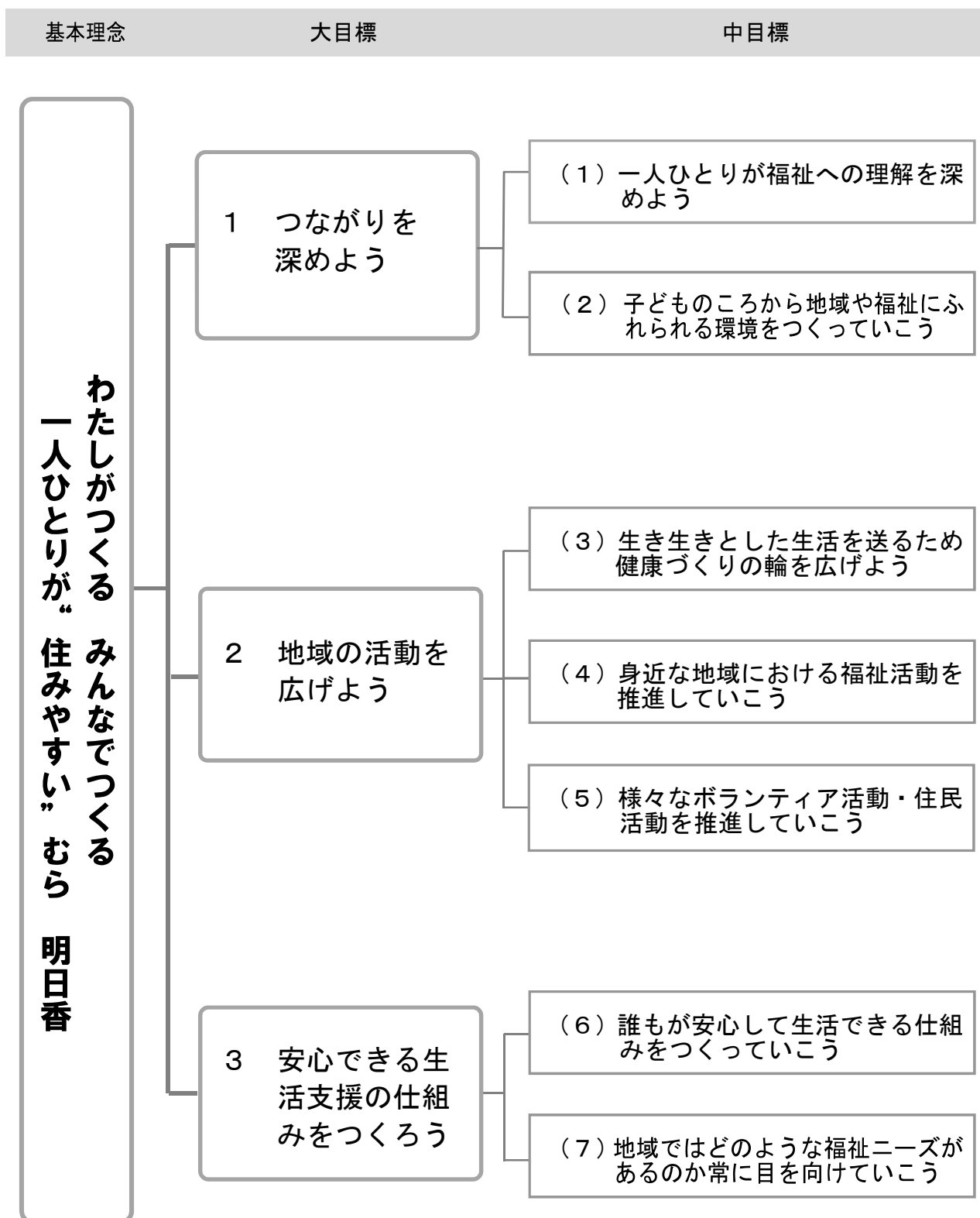
村民一人ひとりが地域の問題に関心を持ち、活動を広げていくことで、村民一人ひとりが“住みやすい”幸せを感じることができる暮らしを次世代へ受け継いでいくことができると考え、計画の基本理念を『わたしがつくる みんなでつくる 一人ひとりが“住みやすい”むら 明日香』としています。

#### 基本理念

わたしがつくる みんなでつくる 一人ひとりが  
“住みやすい”むら 明日香



## <計画の体系>





## 中間評価の目的と方法

### 1 中間評価の背景

少子高齢化・人口減少社会の進行、産業構造の変化、ライフスタイルの多様化と核家族化の進行により、家庭内の扶養機能や地域での相互扶助機能が低下し、高齢者の孤独死、子育てに悩む保護者の孤立、子どもや高齢者に対する虐待や自殺者の増加、80代の親が50代の子どもの生活を支えるという8050問題等、これまでの高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉など分野別の対応では解決することが難しい新たな問題が多く発生しています。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、外出や地域での活動が制限され、従来のさまざまな活動が停滞し、社会的な孤立感が高まる等、住民の生活に大きな影響を及ぼしました。しかしその一方で、社会とのつながりや人と会うことの大切さを意識するきっかけにもなりました。

こうした中、「地域共生社会」の実現に向け、行政だけでなく、企業・ボランティアやNPO、住民団体など多様な民間の主体が担い手となり、行政と協働しながら、きめ細かな活動により、地域生活課題を解決することが求められています。

本村においても、「明日香村地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定し、住民一人ひとりが地域の問題に関心を持ち、活動を広げていくことで、一人ひとりが住みやすい幸せを感じることができる暮らしの実現をめざして、施策を推進してきました。

地域福祉の充実と推進は、今まで以上に重要になってきており、多様化した地域生活課題に対し、地域づくりの基盤を整え、住民と地域に協力の輪を広げていくことが必要です。

高齢者、障がいのある人、子ども等、誰もが地域の中で安心して生き生きと暮らしていけるようにするためには、他人事になりがちな地域づくりを、住民一人ひとりが「我が事」として捉えていく仕組みづくりが重要であると考えられます。

この度、「明日香村地域福祉計画・地域福祉活動計画」の策定から5年が経過したことから、近年の福祉を取り巻く動向の変化を踏まえ、今後の取り組みの方向性を見直すため、計画の中間評価を行いました。

## 2 中間評価の体制

### (1) 明日香村地域福祉計画等評価委員会による協議

計画の中間評価にあたり、「明日香村地域福祉計画等評価委員会」を設置し、各委員の専門的な見地から、計画の課題や方向性について意見・提言を受け、その意見を反映させています。

#### ■実施概要

回数	実施日	内容
第1回	令和4年11月28日	・地域における福祉に関するアンケート調査について ・地域アセスメントについて
第2回	令和5年2月22日	・明日香村地域福祉計画・地域福祉活動計画の中間評価について

### (2) 村民等のニーズの把握

地域福祉に関する課題やニーズ調査のため、住民を対象に「明日香村地域福祉計画及び地域福祉活動計画に関するアンケート調査」（以下、「アンケート調査」という。）を実施し、意見や課題を反映させています。

#### ■実施概要

調査対象	明日香村在住の18歳以上の村民500人を無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和4年8月24日から9月9日
回収結果	有効回答数：262件 有効回答率：52.4%

### (3) 関係部署及び社会福祉協議会へのヒアリング

計画の推進状況や今後の施策展開に関する課題を把握するため、庁内の関係部署及び社会福祉協議会を対象に計画の取り組み状況についてのヒアリングを実施し、意見を反映させています。

#### ■実施概要

実施対象	健康づくり課、総合政策課、総務財政課、教育課、社会福祉協議会
------	--------------------------------



## 計画の取り組み状況と村の現状調査

### 1 各取り組み目標における進捗状況

---

計画の進捗状況の評価を行うため、計画に示された方向性に対して、具体的な事業の状況や取組の成果、今後の課題などについて庁内の関係部署及び社会福祉協議会に照会及びヒアリングを行いました。

その結果から、実施事業の進捗状況を4段階で評価し、施策の方向性ごとに整理しました。

＝評価基準＝

3点：できている

2点：概ねできている

1点：できていない

0点：実施していない

## (1) 大目標 1 つながりを通り抜けて

### 【施策の実施状況】

令和4年度時点での評価においては、全体の45.0%(全20事業のうち9事業)が「できている」、全体の20.0%(全20事業のうち4事業)が「概ねできている」と評価されています。

各方向性の事業数における「評価3点」の割合をみると、『情報提供・啓発活動の推進』が75.0%で最も高く、『地域活動の参加による福祉への理解の促進』が50.0%となっています。

村ホームページ等において、ボランティア活動などを情報発信し、地域福祉関係者として民生委員に情報提供を行ってきました。ハード面においても国の補助を受けて屋外Wi-Fiの設置を行い、避難所などで使用できるようになりました。小学校や中学校では社会福祉協議会とも連携しながら高齢者との交流をはじめ、ボランティア活動を継続しています。生活支援体制整備事業とも連動し子どもの居場所づくりとして、主任児童委員の方を中心に民生委員・児童委員の方々に活動をはじめました。

方向性	事業数	評価(令和4年度)			
		3点	2点	1点	0点
<b>1 一人ひとりが福祉へ理解を深めよう</b>					
① 情報提供・啓発活動の推進	5	4	1	0	0
② 地域活動の参加による福祉への理解の促進	2	1	0	1	0
<b>2 子どものころから地域や福祉にふれられる環境をつくっていこう</b>					
① 学校や福祉施設での体験学習や多様な人々(高齢者、障害者)との交流	7	2	1	3	1
② ボランティアの体験学習、福祉体験学習	6	2	2	1	1
計	20	9	4	5	2

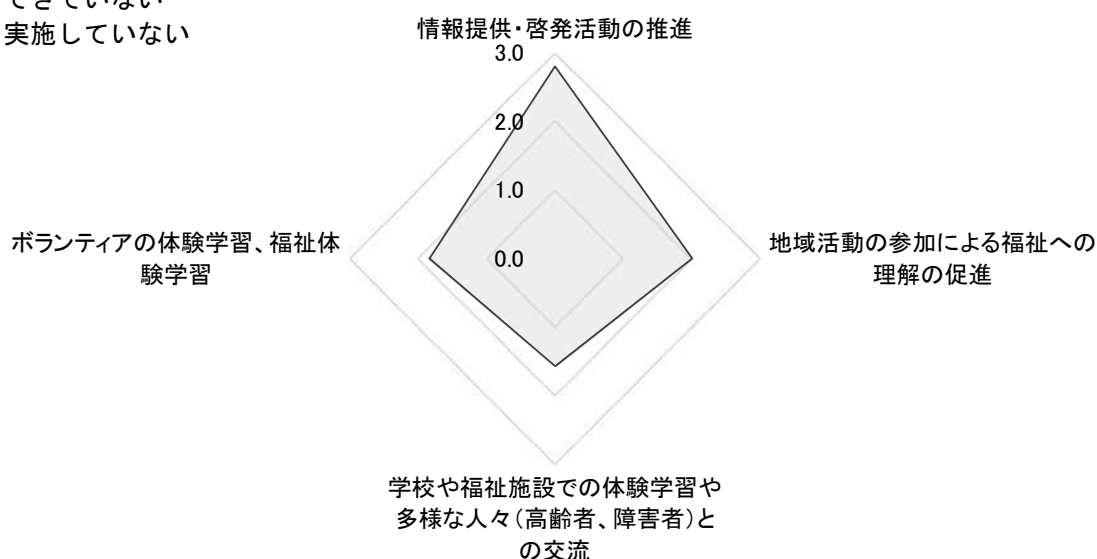
※進捗について、以下の4段階での評価を求めました。

3点：できている

2点：概ねできている

1点：できていない

0点：実施していない





## (2) 大目標 2 地域の活動を広げよう

### 【施策の実施状況】

令和4年度時点での評価においては、全体の79.3%(全29事業のうち23事業)が「できている」と評価されています。

各方向性の事業数における「評価3点」の割合をみると、『ボランティアへの参加のきっかけづくり』、『活動促進の仕組みづくり』『ふれあいいいききサロンの充実』などが100.0%となっています。

サロン活動を実施している地域では医大とも連携しながら健康の維持向上を目的とした協力事業を進めています。また、健康福祉センターに健康ステーションの拠点を置き、各大字へ出張型の健康ステーションを実施しています。

見守り配食事業や認知症等の身元が分かるQRコードシール等の利用促進など、見守りに係る取組については、ニーズとのミスマッチから、見直しが必要となっています。

見守りの人材育成として認知症サポーター養成講座の実施にも取り組みました。また、ボランティア活動の拠点として令和2年度よりボランティアセンターを設置しました。

方向性	事業数	評価(令和4年度)			
		3点	2点	1点	0点
<b>3 生き生きとした生活を送るため健康づくりの輪を広げよう</b>					
① 活動促進の仕組みづくり(生活支援コーディネーターの充実)	3	3	0	0	0
② ふれあいいいききサロンの充実	6	6	0	0	0
③ 予防活動・健康づくりの輪の拡大	2	2	0	0	0
<b>4 身近な地域における福祉活動を推進していこう</b>					
① 地域福祉に必要な人材の育成	2	2	0	0	0
② 見守り・声掛け、生活支援の仕組みづくり	7	4	0	0	3
<b>5 様々なボランティア活動・住民活動を推進していこう</b>					
① ボランティアへの参加のきっかけづくり	4	4	0	0	0
② 活動に必要な情報提供の充実	2	0	0	0	2
③ 広域的なボランティア活動の取り組み	3	2	0	0	1
計	29	23	0	0	6

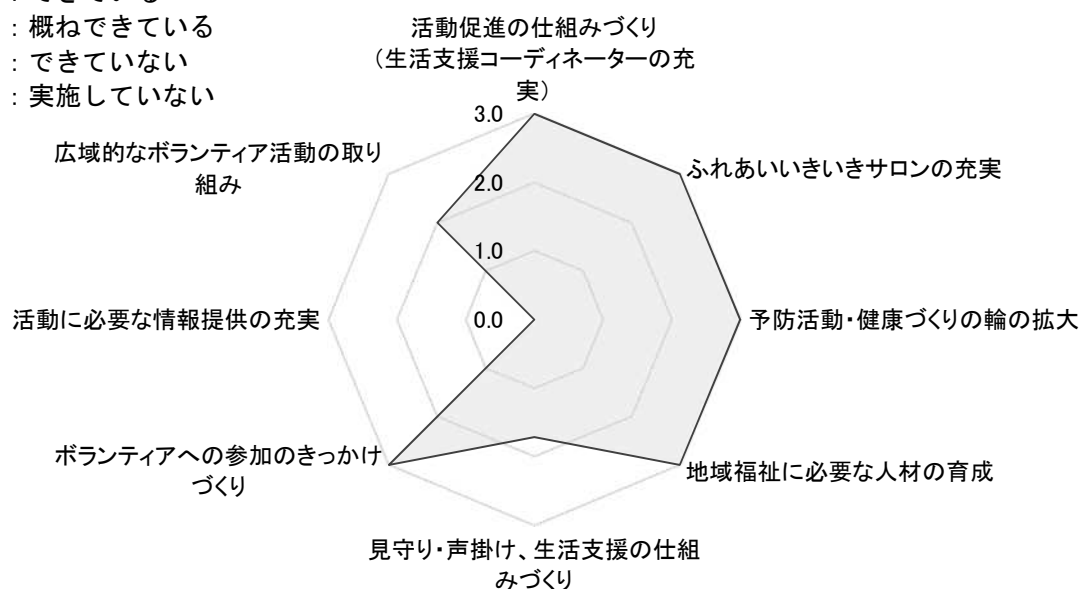
※進捗について、以下の4段階での評価を求めました。

3点：できている

2点：概ねできている

1点：できていない

0点：実施していない



### (3) 大目標3 安心できる生活支援の仕組みをつくろう

#### 【施策の実施状況】

令和4年度時点での評価においては、全体の71.4%(全28事業のうち20事業)が「できている」と評価されています。

各方向性の事業数における「評価3点」の割合をみると、『安全・安心なまちづくり（生活環境の整備、人権尊重と権利擁護）』、『生活困窮等の制度の狭間の問題について、地域での情報交換、連携促進』、『保健・医療・福祉サービス提供団体等との連携』などが100.0%となっています。

地域包括支援センターにおいて、総合相談として、高齢者の様々な相談の対応を他課、事業所等と連携して行ってきました。また、社会福祉協議会においても総合相談を実施しています。

また、防災対策として、避難行動要支援者名簿情報を自治会長、消防団などに配布して地域での活用を進めています。

問題解決について協議できる会議として、地域包括支援センターが中心となり地域ケア会議を実施し、コロナ禍でもできる限り開催してきました。

方向性	事業数	評価(令和4年度)			
		3点	2点	1点	0点
<b>6 誰もが安心して生活できる仕組みをつかっていこう</b>					
① 身近な相談やわかりやすい情報提供	5	1	0	0	4
② 生活課題を抱える人の早期発見、早期対応	5	3	0	0	2
③ 防災・防犯対策における地域自主活動への支援	6	5	0	0	1
④ 安全・安心なまちづくり（生活環境の整備、人権尊重と権利擁護）	4	4	0	0	0
⑤ 保健・医療・福祉サービス提供団体等との連携	2	2	0	0	0
<b>7 地域ではどのような福祉ニーズがあるのか常に目を向けていこう</b>					
① 生活困窮等の制度の狭間の問題について、地域での情報交換、連携促進	3	3	0	0	0
② 地域での問題解決に向けた仕組みづくりの研究	3	2	0	0	1
計	28	20	0	0	8

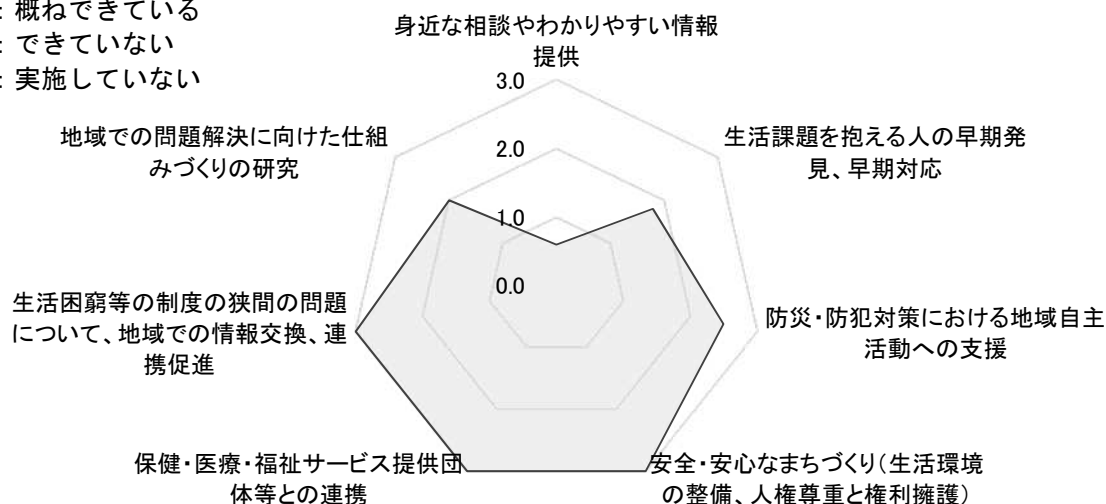
※進捗について、以下の4段階での評価を求めました。

3点：できている

2点：概ねできている

1点：できていない

0点：実施していない



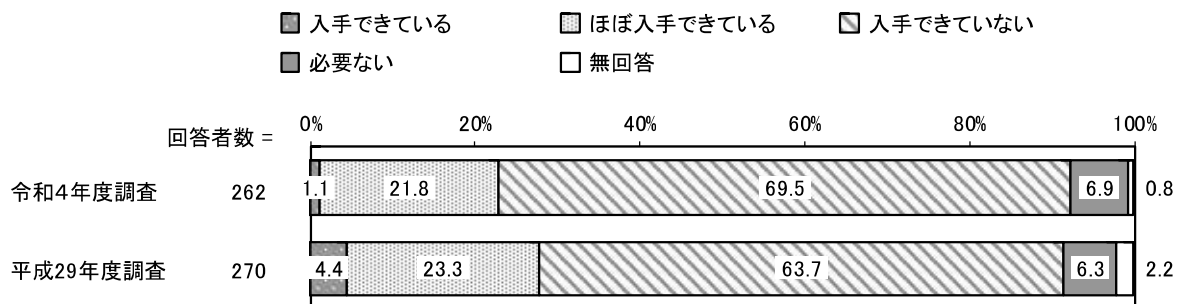
## 2 アンケート調査結果からみる地域福祉の現状と課題

### (1) 福祉に関する情報

#### ① 福祉に関する情報の入手状況

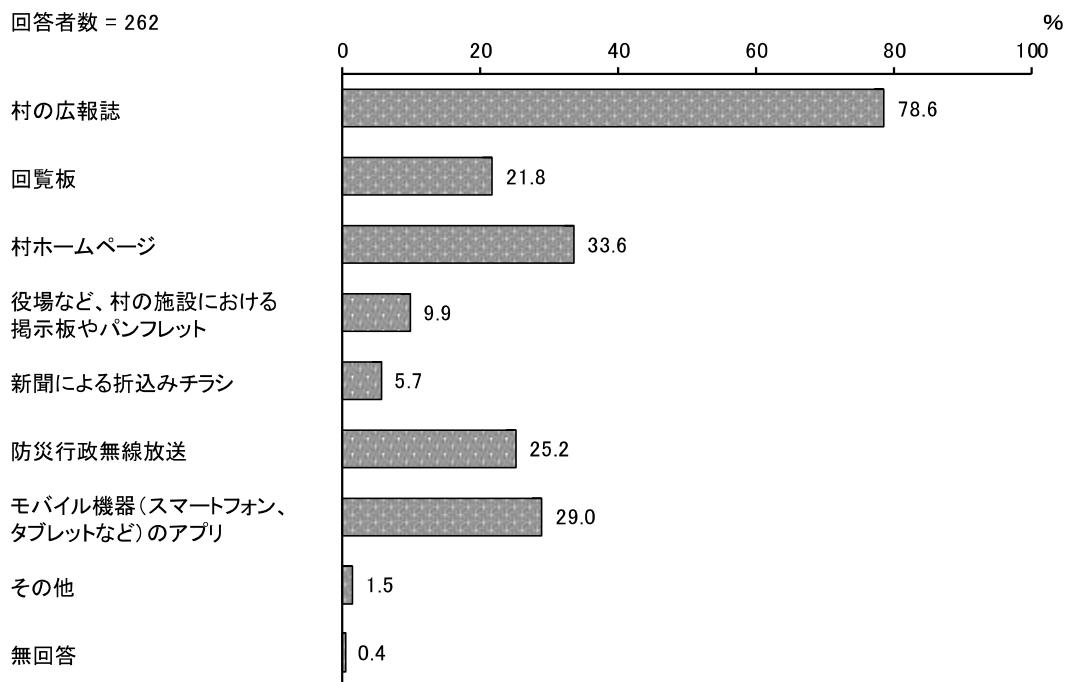
「入手できている」と「ほぼ入手できている」をあわせた“入手できている”の割合が22.9%、「入手できていない」の割合が69.5%、「必要ない」の割合が6.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「入手できていない」の割合が増加しています。



#### ② 希望する福祉に関する情報の入手手段

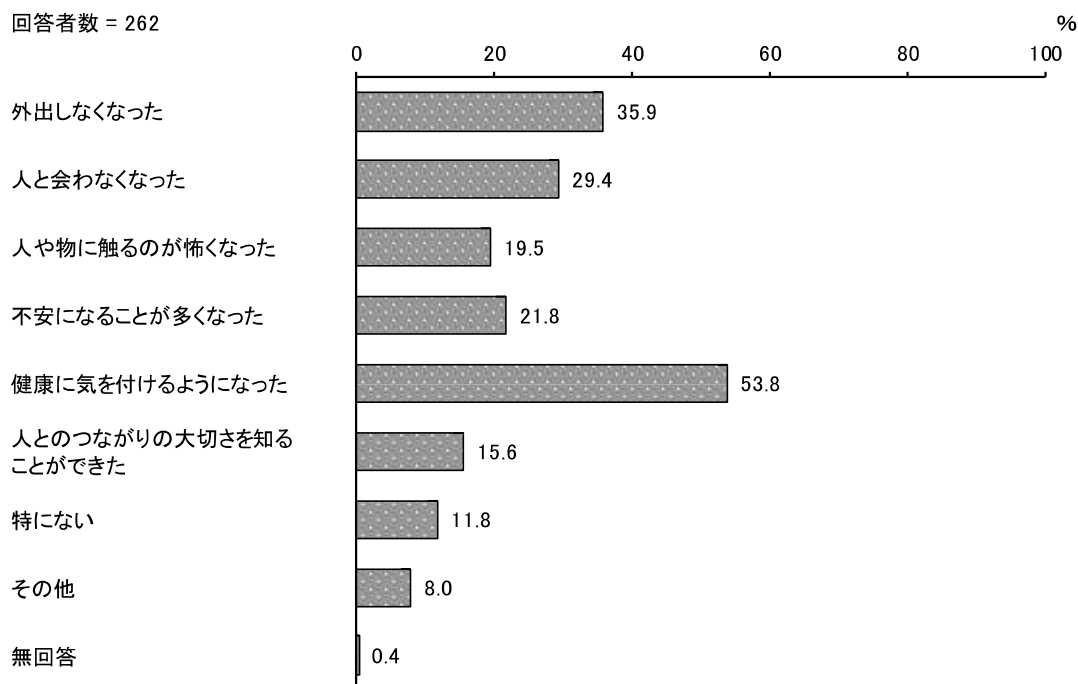
「村の広報誌」の割合が78.6%と最も高く、次いで「村ホームページ」の割合が33.6%、「モバイル機器(スマートフォン、タブレットなど)のアプリ」の割合が29.0%となっています。



## (2) 地域生活

### ① 新型コロナウイルス感染症の流行による変化

「健康に気を付けるようになった」の割合が53.8%と最も高く、次いで「外出しなくなった」の割合が35.9%、「人と会わなくなった」の割合が29.4%となっています。

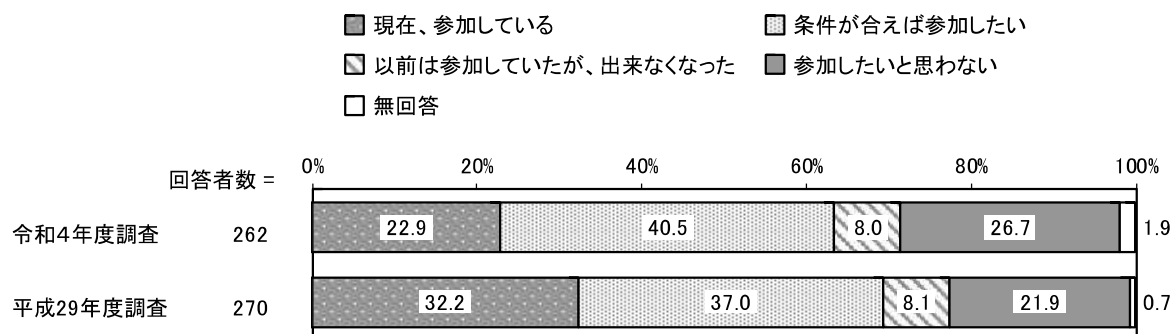


## (3) 地域活動や助け合い

### ① 地域活動やボランティア活動への参加

「条件が合えば参加したい」の割合が40.5%と最も高く、次いで「参加したいと思わない」の割合が26.7%、「現在、参加している」の割合が22.9%となっています。

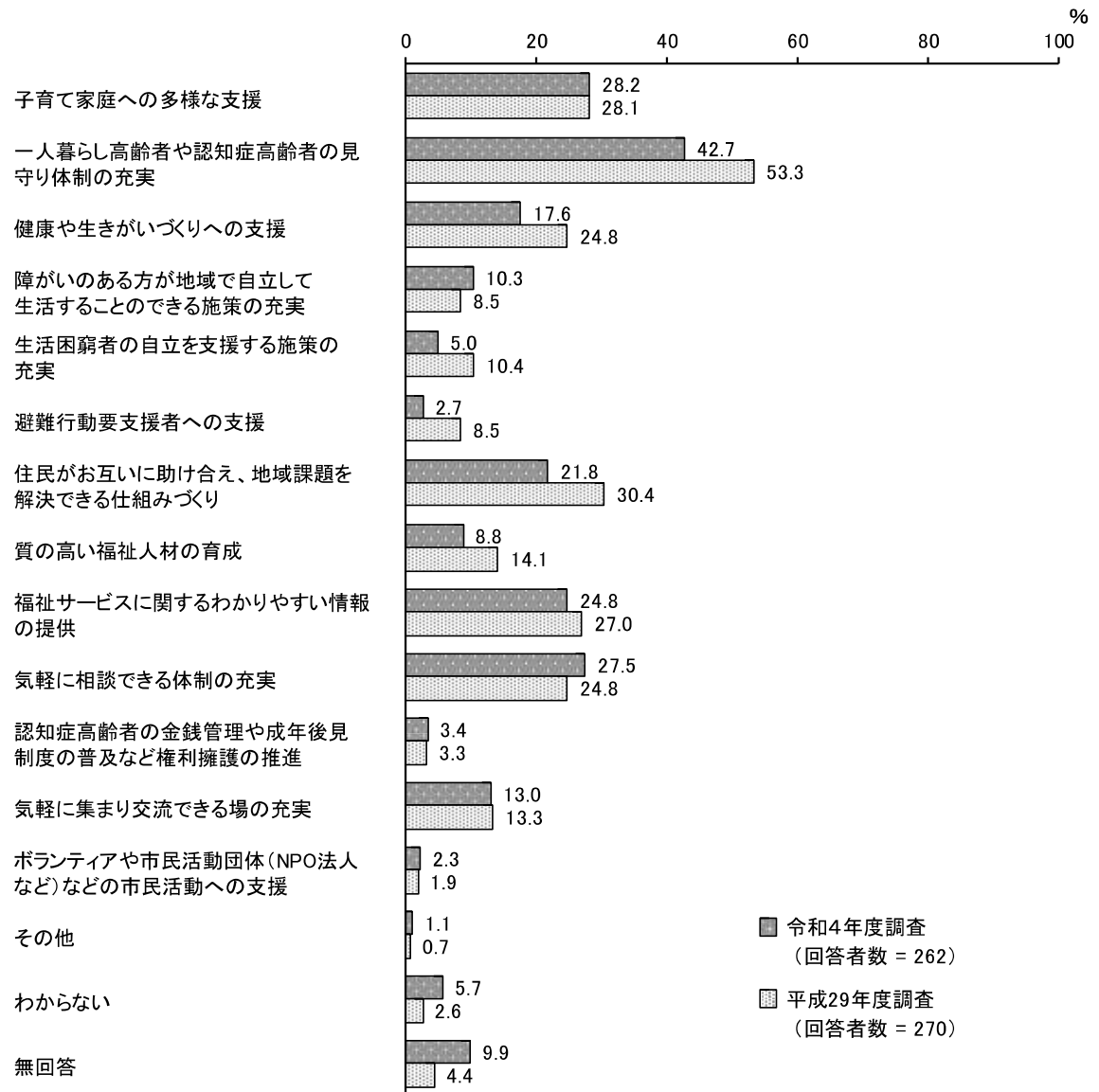
平成29年度調査と比較すると、「現在、参加している」の割合が減少しています。



## ② これからの地域福祉で重点にすべきこと

「一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り体制の充実」の割合が42.7%と最も高く、次いで「子育て家庭への多様な支援」の割合が28.2%、「気軽に相談できる体制の充実」の割合が27.5%となっています。

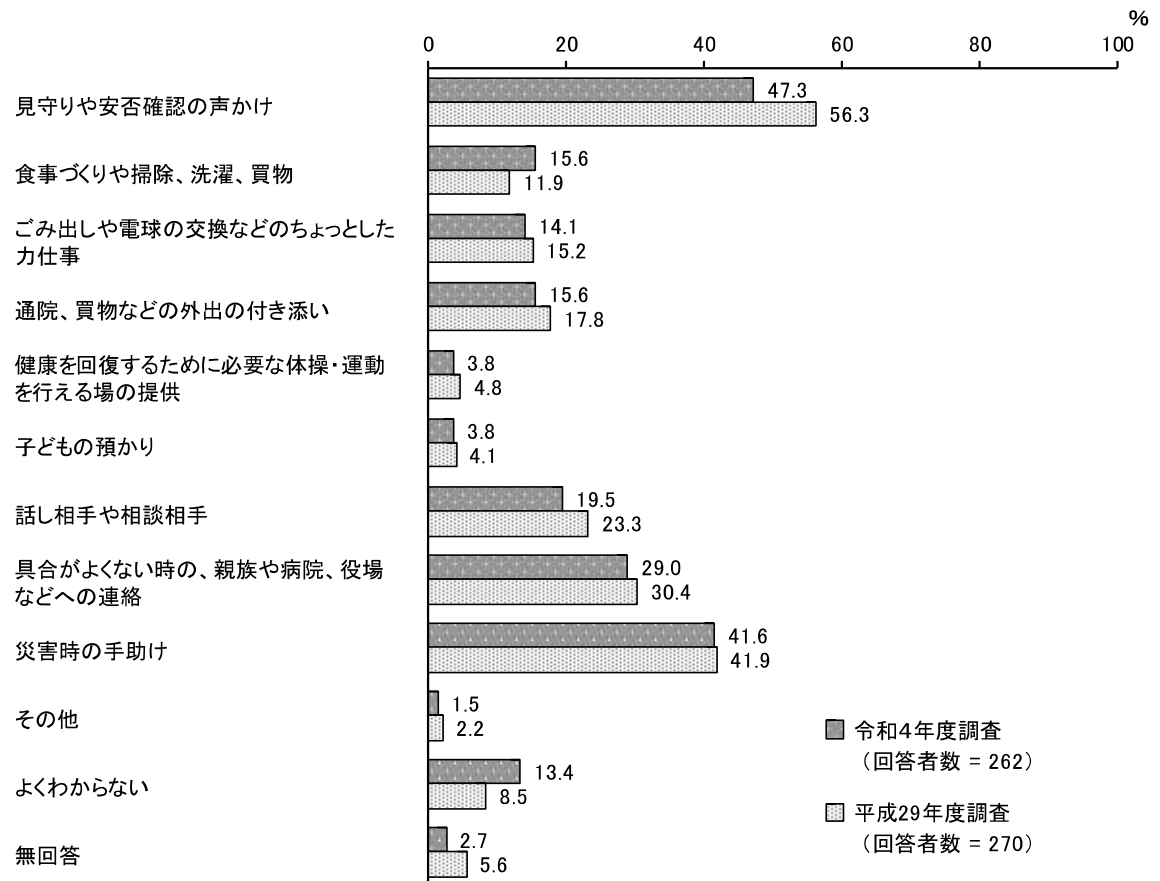
平成29年度調査と比較すると、「一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り体制の充実」の割合が減少しています。



### ③ 日常生活が不自由になった時、地域に手助けしてほしいこと

「見守りや安否確認の声かけ」の割合が47.3%と最も高く、次いで「災害時の手助け」の割合が41.6%と上位になっています。

平成29年度調査と比較すると、「見守りや安否確認の声かけ」の割合が減少しています。

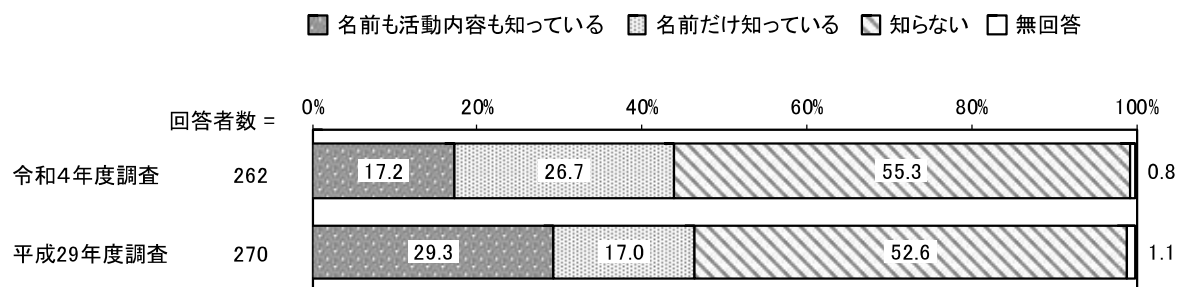


## (4) 地域における相談の場

### ① 地域の民生委員・児童委員の認知度

「知らない」の割合が55.3%と最も高く、次いで「名前だけ知っている」の割合が26.7%、「名前も活動内容も知っている」の割合が17.2%となっています。

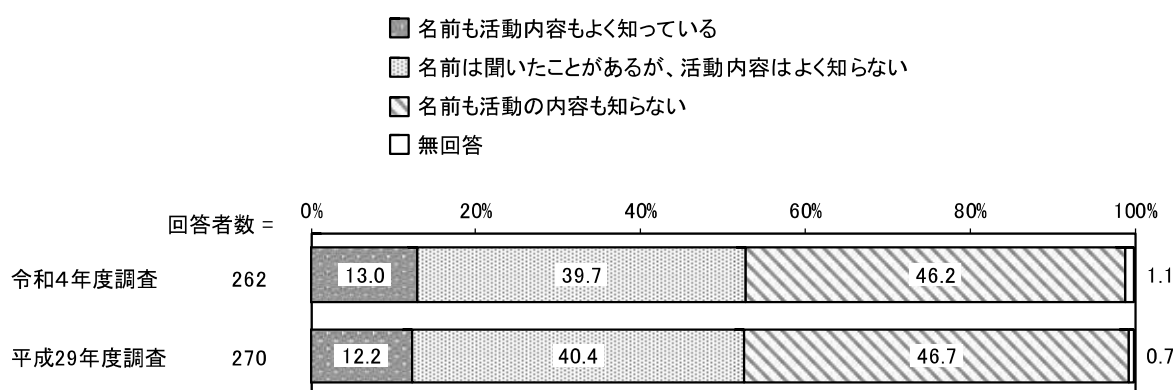
平成29年度調査と比較すると、「名前も活動内容も知っている」の割合が減少しています。



### ② 地域包括支援センターの認知度

「名前も活動の内容も知らない」の割合が46.2%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」の割合が39.7%、「名前も活動内容もよく知っている」の割合が13.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。





# 中間評価の結果

## 1 計画の後期に向けた課題

### (1) 「大目標1 つながりを深めよう」についての課題

<p>計画の方向性</p>	<p>本村の強みを活かしながら、地域に暮らす様々な人々とのつながりをもち、深める地域づくりをすすめます。福祉に関わる機会を増やし、地域福祉の理解促進を図ることで、つながりのある明日香を守ります。</p>
<p>1 国の方針及び社会動向</p>	<p>&lt;「地域福祉計画の策定ガイドライン」より求められていること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民等による問題関心の共有化への動機付けと意識の向上、地域福祉推進への主体的参加の促進</li> <li>・「住民に身近な圏域」において、住民が主体的に地域生活課題を把握し解決を試みることができる環境の整備</li> </ul>
<p>2 計画の取り組み状況</p>	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校や中学校では社会福祉協議会とも連携しながら高齢者との交流をはじめ、ボランティア活動が継続されています。</li> <li>・主任児童委員の方の主体的な活動のもと、生活支援体制整備事業とも連動した子どもの居場所づくり活動がはじまりました。</li> </ul> <p>&lt;取り組みにおける課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村ホームページ等において、ボランティア活動などを情報発信し、地域福祉関係者として民生委員に情報提供を行ってきました。ハード面においても国の補助を受けて屋外や公共施設へのWi-Fiの設置を行いました。今後はこうした環境をインターネットによる分かりやすい情報発信に活用していく必要があります。</li> <li>・学習・交流活動においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地域での講座や学校における交流事業などが中止となっており、取り組みが後退している面も見られます。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大後について人々が集まる機会や行動について減少し、さらに活動継続に負担を感じていた地域では活動の再開が困難であることがみられます。</li> </ul>
<p>3 アンケート調査結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉に関する情報の入手状況は、「入手できていない」の割合が69.5%となっています。</li> <li>・福祉に関する情報をどのような方法で知りたいかという間にインターネットでの情報発信を求める意見（「ホームページでの情報」33.6%、「モバイル端末などのアプリ」29.0%）が多くなっています。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の流行による変化で「外出しなくなった」割合が35.9%、「人と会わなくなった」割合が29.4%と外出機会が減少しています。</li> </ul>
<p>4 評価委員会からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員の見守り活動について、現状以上の訪問活動は民生委員への負担が危惧されます。</li> <li>・若い世代は働きに出て、日中は不在の方が多く地域交流が難しい状況です。</li> </ul>
<p>5 今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報提供・啓発活動の推進の事業評価が高い一方で、アンケートでは福祉に関する情報の入手ができていないとする人が多く、住民に届きやすい情報発信を工夫していく必要があります。</li> <li>○近所付き合いの希薄化が懸念され、コロナ禍における外出機会や交流活動の減少も相まって、特にひとり暮らしの人の孤立化も危惧されます。</li> <li>○地域での住民同士の交流を活性化させて、子どもから高齢者、障がいのある人が親しく交流できる機会づくりを進めていくとともに、社会全体でデジタル化が進む中、住民がインターネットを介した交流ができるように働きかけをしていくことも必要です。</li> </ul>



(2)「大目標2 地域の活動を広げよう」についての課題

<p>計画の方向性</p>	<p>地域に暮らす人々の交流を広げることで、地域問題を共有し、課題を解決できる地域をつくります。地域の問題の解決には、地域の「自助・共助」の力が重要となります。本村に過去から根付く支えあい、助けあいの意識や力をしっかりと受け継ぎ、ますます発揮していくことができる環境づくり、ネットワークづくりをめざします。</p>
<p>1 国の方針及び社会動向</p>	<p>&lt;「地域福祉計画の策定ガイドライン」より求められていること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉を推進する人材の養成</li> <li>・支援を必要とする者が必要なサービスを利用することができるための仕組みの確立</li> </ul>
<p>2 計画の取り組み状況</p>	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な村づくり推進事業と生活支援体制整備事業との連携において、参加者については介護予防事業等への参加を確認できるなど連携について効果がみられます。</li> <li>・ボランティアセンターを設置したことで、ボランティアの登録制の導入や地域包括支援センターと協働でボランティアの活動が提供できる体制が構築されました。</li> </ul> <p>&lt;取り組みにおける課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍においてサロン活動が下火になっており、サロンの再開、立ち上げ、継続のバックアップが必要となっています。</li> <li>・見守り配食事業や認知症等の身元が分かるQRコードシール等の利用促進など、取り組み内容を住民のニーズに沿って見直す必要があります。</li> <li>・その他の関係福祉事業へもボランティアの活動の展開、見守り活動における有償ボランティアの活用などを含め、今後のボランティア活動の展開を検討していく必要があります。</li> </ul>
<p>3 アンケート調査結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動やボランティア活動への参加について「条件が合えば参加したい」の割合が40.5%と、参加したいと考える住民は一定数見られます。</li> <li>・これからの地域福祉で重点にすべきことは、「一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り体制の充実」の割合が42.7%と最も高くなっています。</li> </ul>
<p>4 評価委員会からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢の夫婦で、免許の返納により、日常の買い物に気軽に行けなくなったことを不安に感じ、村を離れようかと考えているという話も聞きます。</li> <li>・ボランティアがなかなかうまくマッチングできておらず、マッチングできるしくみづくりや、アピールをすることで、地域や村全体でうまく助け合えることができれば理想的です。</li> <li>・エリアごとの特徴も異なることから、エリアごとに考えることは重要です。</li> </ul>
<p>5 今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人暮らし高齢者など支援を必要とする人の見守りが一層重要視されています。見守りの必要度や地域の特性に応じて、民生委員だけでなく、企業やNPO、地域団体、ボランティアなど様々な主体による多様な見守り体制となるよう見直していくことが必要です。</li> <li>○地域の課題や困りごとを抱えている住民を早期に発見し見守るとともに、地域での解決が困難な場合に適切な支援につながる仕組みが必要です。</li> <li>○ボランティア活動を活性化するため、地域の担い手となるような学びの機会を増やすとともに、各活動のさらなる広がりや、地域がボランティア活動を受け入れる素地づくり、意識変容を図っていくことも必要です。</li> <li>○また、2040年に向けて高齢者人口がさらに増加する中、社会活動に関わり続け、地域福祉の支え手となる人を維持していくため、住民の健康づくりに取り組んでいくことも必要です。</li> </ul>

(3) 「大目標3 安心できる生活支援の仕組みをつくろう」についての課題

<p>計画の方向性</p>	<p>地域で暮らす人々の「自助・共助」が、様々な問題を抱える人を支え、防犯・防災に対する最大の「備え」であることはもちろんですが、地域の支えあいだけでは対応できない問題を解決するため、住民主体の地域活動の支援等新たな仕組みをつくっていきます。</p> <p>生活困窮など、福祉課題に向けて情報収集及び早急な対応を図るとともに、具体的な困りごとの相談に対して、しっかりと対応できる体制をつくるためにも、広域的な視点をもって関係機関との連携を強化し、地域の中で子どもからお年寄りまでが住みやすいむらを築いていきます。</p>
<p>1 国の方針及び社会動向</p>	<p>&lt;「地域福祉計画の策定ガイドライン」より求められていること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を必要とする者が必要なサービスを利用することができるための仕組みの確立</li> <li>・制度の狭間の課題への対応の在り方</li> <li>・避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策</li> <li>・福祉サービスを必要とする地域住民に対する相談支援体制の整備</li> </ul>
<p>2 計画の取り組み状況</p>	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活課題を抱える人の早期発見、早期対応において、他課や関係機関等から生活に困難を抱えた方に関する情報が入り、連携した対応がとれています。</li> <li>・避難行動要支援者名簿情報を関係団体等へ提供を行い、一部の地域では名簿情報を活用した避難訓練参加を呼びかけるなど試行をしている状況です。</li> <li>・地域での問題解決に向けた仕組みづくりとして、地域ケア会議を実施し、認知症対策やケース検討などを実施し各事業に反映しています。</li> </ul> <p>&lt;取り組みにおける課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチが必要な方に対する支援方法や情報の把握が課題となっています。</li> <li>・見守りの方法の検討、見守りの為の研修の実施、ボランティアの養成、民生委員等との連携など、見守り体制の充実を図っていくことも必要です。</li> </ul>
<p>3 アンケート調査結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の民生委員・児童委員の「名前も活動内容も知っている」の割合が17.2%、地域包括支援センターの「名前も活動内容もよく知っている」の割合が13.0%など、相談先となる地域組織や支援制度の認知状況は十分とは言えない状況です。</li> <li>・日常生活が不自由になった時、地域に手助けしてほしいことは、「見守りや安否確認の声かけ」の割合が47.3%と最も高く、「災害時の手助け」の割合が41.6%と上位になっています。</li> </ul>
<p>4 評価委員会からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員を信用していただき、色々な相談をしていただけるようにするには何らかの資料や場面でアピールできるとよいと思います。</li> <li>・困っている方に勧めても「申し訳ないから遠慮する」という方がおられます。引っ張り出せるような声かけをして、支援につなげられるよう何らかの仕組みを整えられるとよいと思います。</li> </ul>
<p>5 今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援が必要な人が身近なところで相談ができるように、情報提供の充実や様々な相談機関の周知、円滑に専門的な相談機関へつなげる仕組みづくりが必要です。</li> <li>○制度の枠組では対応できない生活課題などへの対応として、公的支援だけでなく、地域住民による支え合いとも連動した包括的な支援体制づくりを、ボランティアなど地域のさまざまな主体と連携しながら進めていくことが重要です。</li> <li>○各地域において、新興住宅地などの地域特性を踏まえた避難行動要支援者名簿活用を進めるとともに、日ごろの見守りで把握した要支援者に対する避難時の対応を地域で協議するなど、見守り活動の展開から災害時の個別支援体制の充実につなげていくことが必要です。</li> </ul>

## 2 今後の方向性

---

### (1) 計画のめざす姿

本計画では、計画の基本理念を『わたしがつくる みんなでつくる 一人ひとりが“住みやすい”むら 明日香』として、村民一人ひとりが地域の問題に関心を持ち、活動を広げていくことで、村民一人ひとりが“住みやすい”幸せを感じることができ、暮らしを次世代へ受け継いでいくことができるという考えのもと、地域福祉を推進してきました。

本村においては、人口減少、高齢化がさらに進み、一番多い年齢層が後期高齢者となる局面を迎えています。要介護認定者など支援が必要な人が増加する一方、支え手となる人の減少が見込まれています。

こうした中、地域福祉を進めるためには、本村の強みである地域のつながりを活かしながら、若い人の多様な形での参加を促すとともに、高齢期を迎えても生き生きとした地域生活を送り、地域福祉の担い手として社会参加しつづけていくことが一層重要となります。また、社会福祉法人、企業、NPO等多様な主体が協力・連携していくことが求められています。

こうした多様な主体による支え合いの地域づくりを進め、村民一人ひとりが“住みやすい”幸せを感じることができ、暮らしの実現、持続可能な地域社会の実現を引き続き目指します。

## (2) 計画の後期における重点取組

### ①地域における見守りや生活支援体制の構築

少子高齢化がさらに進むことで、一人暮らし高齢者など支援を必要とする人の見守りが一層重要視されています。

村内においても、住宅地や山間地域などで地域の状況はそれぞれ異なっています。大字の実情に合わせた見守り活動・支え合い活動を活性化していくことが必要であり、地域のアセスメントを進めるとともに、見守りや支援の担い手を増やしていくことが求められます。

民生委員の訪問のほか、老人クラブやいきいきサロンなどの地域団体の主体的な活動を通じた安否確認、ボランティアや地域協定締結団体による見守りなど、見守りの必要度に応じて様々な主体が関わる多角的な見守り体制とそこから必要な支援につなげる仕組みの構築を進めます。

また、ボランティアセンターが設置され、地域包括支援センターと協働でボランティアの活動が提供できる体制が構築されたことを受け、地域包括支援センター関連以外の福祉事業へもボランティアの活動の展開、生活支援活動における有償ボランティアの活用などを含め、ボランティア活動の更なる展開を図ります。

### 【 活動目標 】

項目	現状	目標
地域活動やボランティア活動へ参加している住民の割合	22.9% (令和4年度)	30% (令和9年度)
ボランティアセンターへのボランティア登録者数	34人 (令和4年度)	55人 (令和9年度)
見守りに関する地域協定締結団体数	5団体 (令和4年度)	10団体 (令和9年度)

## ②重層的な支援体制の構築

8050問題、ダブルケア、ヤングケアラーなど、人々の暮らしの中での課題は複雑化・複合化してきており、地域の課題や困りごとを抱えている住民を早期に発見するとともに、分野を超えた重層的な支援につながる仕組みが求められます。

アウトリーチが必要な方に対する支援方法や情報の把握の仕方を検討しながら、重層的支援体制整備事業実施に向けて、「断らない相談支援」「地域参加の支援」「地域づくりの支援」を推進していきます。また、そのために、専門職と地域の方々をつなぎ、話し合う場所の確保に努めます。

### 【 活動目標 】

項目	現状	目標
地域ケア会議開催回数	年間9回 (令和3年度)	年間12回 (令和9年度)
高齢者の通いの場開催箇所数	12箇所 (登録18か所) (令和3年度)	20箇所 (令和9年度)

## ③相談機関等の更なる周知

支援が必要な人を地域で見守り、重層的な支援につないでいくためには、相談先や支援機関の存在や役割を住民が十分に認識していることが必要です。

地域の民生委員・児童委員や地域包括支援センターの認知度など、相談先となる地域組織や支援制度の認知状況は十分とは言えない状況です。社会福祉協議会においても相談を実施していますが、周知・啓発に努めていくことが課題として挙がっています。

支援が必要な人が身近なところで相談ができるように、情報提供の充実や様々な相談機関の周知とともに、地域の社会資源やサービスをコーディネートし、専門的な相談機関へつながる仕組みづくりに取り組みます。

### 【 活動目標 】

項目	現状	目標
地域の民生委員・児童委員の「名前も活動内容も知っている」住民の割合	17.2% (令和4年度)	35% (令和9年度)
地域包括支援センターの「名前も活動内容も知っている」住民の割合	13.0% (令和4年度)	30% (令和9年度)
明日香村社会福祉協議会の「名前も活動内容も知っている」住民の割合	22.1% (令和4年度)	40% (令和9年度)

#### ④活力あるいきいきとした地域づくり

人生100年時代を迎え、団塊の世代が後期高齢者となるなか、本村の高齢者が地域社会を支える担い手として活躍・社会参加するとともに、地域での交流を促進し、活力ある地域を維持していくことが必要です。

意欲のあるシニア世代が地域活動や福祉活動の担い手となれるよう、フレイル予防に着目した介護予防の取り組みなどを通じて健康寿命の延伸を図り、シニア世代の健康状態の維持を図ります。

また、地域交流の機会を充実するため、サロンや子ども食堂などの交流の場の開催や参加を促進します。

更に、近年のデジタル化の進展に伴い、コミュニケーションのあり方も変化しています。メールやSNS、インターネットを使った情報発信に親しみ、住民同士の交流にも活用できるよう、ツールの普及や利用方法の講座の開催など、働きかけをしていきます。

#### 【 活動目標 】

項目	現状	目標
第1号被保険者における要介護・要支援認定者数の割合	20.2% (令和4年10月)	21%* (令和9年度)

(※見える化システムデータより)



# 資料

## 1 明日香村地域福祉計画等評価委員会要綱

### 明日香村地域福祉計画等評価委員会設置要綱

#### (目的)

第1条 社会福祉法第107条の規定に基づく明日香村地域福祉計画及び明日香村地域福祉活動計画（この要綱において「明日香村地域福祉計画等」という。）の実施状況について点検及び評価を行い、村の地域福祉推進を総合的かつ計画的に推進することを目的として、明日香村地域福祉計画等評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 明日香村地域福祉計画等実施状況について点検・評価・助言に関すること。
- (2) その他地域福祉計画等の推進に関し必要な事項。

#### (組織)

第3条 委員会は、委員10名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから村長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 保健医療関係者
- (3) 自治会・高齢者代表
- (4) 福祉関係者
- (5) 行政機関の職員

3 委員の任期は、委員の委嘱又は任命の日から計画策定・評価の日までとする。

#### (委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選任する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員長は、第3条に規定する委員のほか、必要な者の出席を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、健康づくり課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、令和4年10月1日から施行する。

2 この要綱は、明日香村地域福祉計画等の策定・評価を行った日をもってその効力を失う。



## 明日香村地域福祉計画等評価委員会委員名簿

(順不同：敬称略)

区 分	職 名	備 考
(1) 学識経験者	天理大学人間学部教授	委員長
(2) 保健医療関係者	公益社団法人地域医療振興協会 明日香村国民健康保険診療所管理者	
(3) 自治会 ・高齢者代表	明日香村総代会長	
	明日香村老人クラブ連合会長	
(4) 福祉関係者	社会福祉法人明日香村社会福祉協議会長	副委員長
	明日香村民生児童委員協議会副会長	
	明日香村要保護児童対策地域協議会長	
(5) 行政機関の職員	明日香村副村長	

## 2 用語解説

	用語	解説
あ 行	アウトリーチ	支援が必要であるにもかかわらず届いていない人に対し、行政や支援機関等が積極的に訪問して情報・支援を行うこと。
	アセスメント	生活支援に活用できる地域内の社会資源を把握したり、地域の生活支援ニーズを把握すること。
か 行	子ども食堂	地域のボランティアが主体となり、無料または低価格帯で子どもたちに食事を提供するコミュニティの場。
た 行	ダブルケア	「子育て」「親や親族の介護」の時期が重なったため、両方を並行して担わなければならない状態のこと。
	地域共生社会	制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のこと。平成28年6月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」において地域共生社会の実現が盛り込まれており、今後の福祉改革を貫く「基本コンセプト」と位置づけられている。
は 行	8050問題	80代前後の高齢の親が50代前後のひきこもりの子どもの生活を支える問題。
	フレイル予防	加齢に伴い、心身の筋力や活力が衰えた状態（虚弱）を予防する活動。
	ボランティアセンター	ボランティアを希望する人を登録し、ボランティアを必要とする人とのコーディネートを行う機関。
や 行	ヤングケアラー	家族にケアを必要とする人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポート等を行っている18歳未満の子ども。
	有償ボランティア	少額の報酬を伴うボランティア活動のことで、地域通貨や時間預託等とともに普及してきている。

	用語	解説
英字	SNS	“Social Networking Service ” の略称で、登録された利用者同士が交流できるウェブサイトの会員制サービスのこと。
	QRコード	株式会社デンソーウェーブが開発したモバイル端末用のマトリックス型二次元バーコード。バーコードを読み取るだけで、サイトにアクセスしたり、アドレス帳への登録ができたり、情報を取得できたりする。また、QRコードという名称は株式会社デンソーウェーブの登録商標となっている。
	Wi-Fi	電波を用いた無線通信により近くにある機器間を相互に接続し、構内ネットワーク (LAN) を構築する技術。コンピュータとインターネットの接続、オフィス内のコンピュータ間の接続、家庭内のデジタル機器間の接続などで広く普及している。

## 3 アンケート調査結果

### ① 調査の目的

本調査は、「明日香村地域福祉計画及び地域福祉活動計画」の推進にあたり、「地域福祉」に対する村民の皆様のお考え方や意見を把握し、本村の福祉施策を検討する際の基礎資料とする目的で実施したものです。

### ② 調査対象

明日香村在住の18歳以上の村民500人を無作為抽出

### ③ 調査期間

令和4年8月24日から9月9日


### ④ 調査方法

郵送による配布・回収

### ⑤ 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
500通	262通	52.4%

### ⑥ 調査結果の表示方法

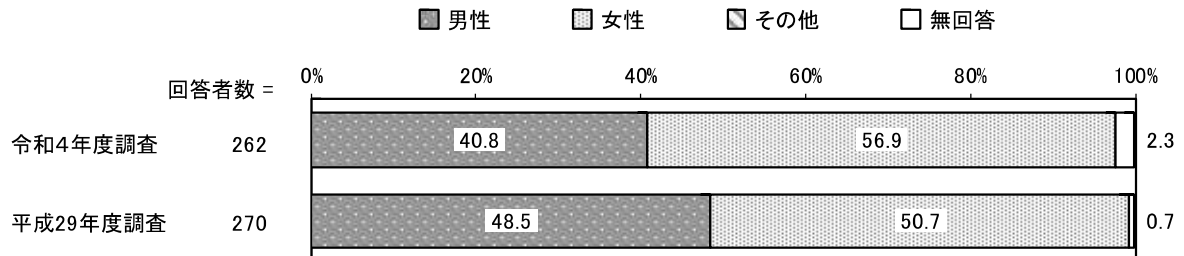
- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- 回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

## <調査結果>

### 1 回答者属性

#### 問1 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)

「男性」の割合が40.8%、「女性」の割合が56.9%となっています。  
 平成29年度調査と比較すると、「男性」の割合が減少し、「女性」の割合が増加しています。



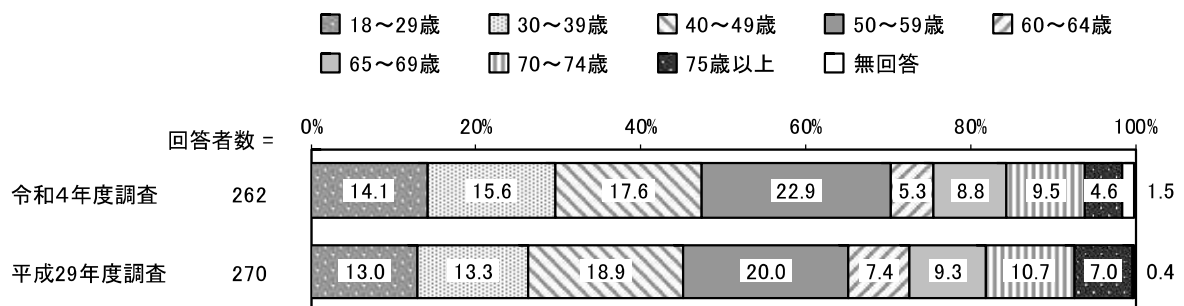
※「その他」の選択肢は令和4年度調査で追加されたものです。

#### 問2 あなたの年齢は、次のうちどれですか。(1つに○)

※令和4年8月1日現在の年齢でお答えください。

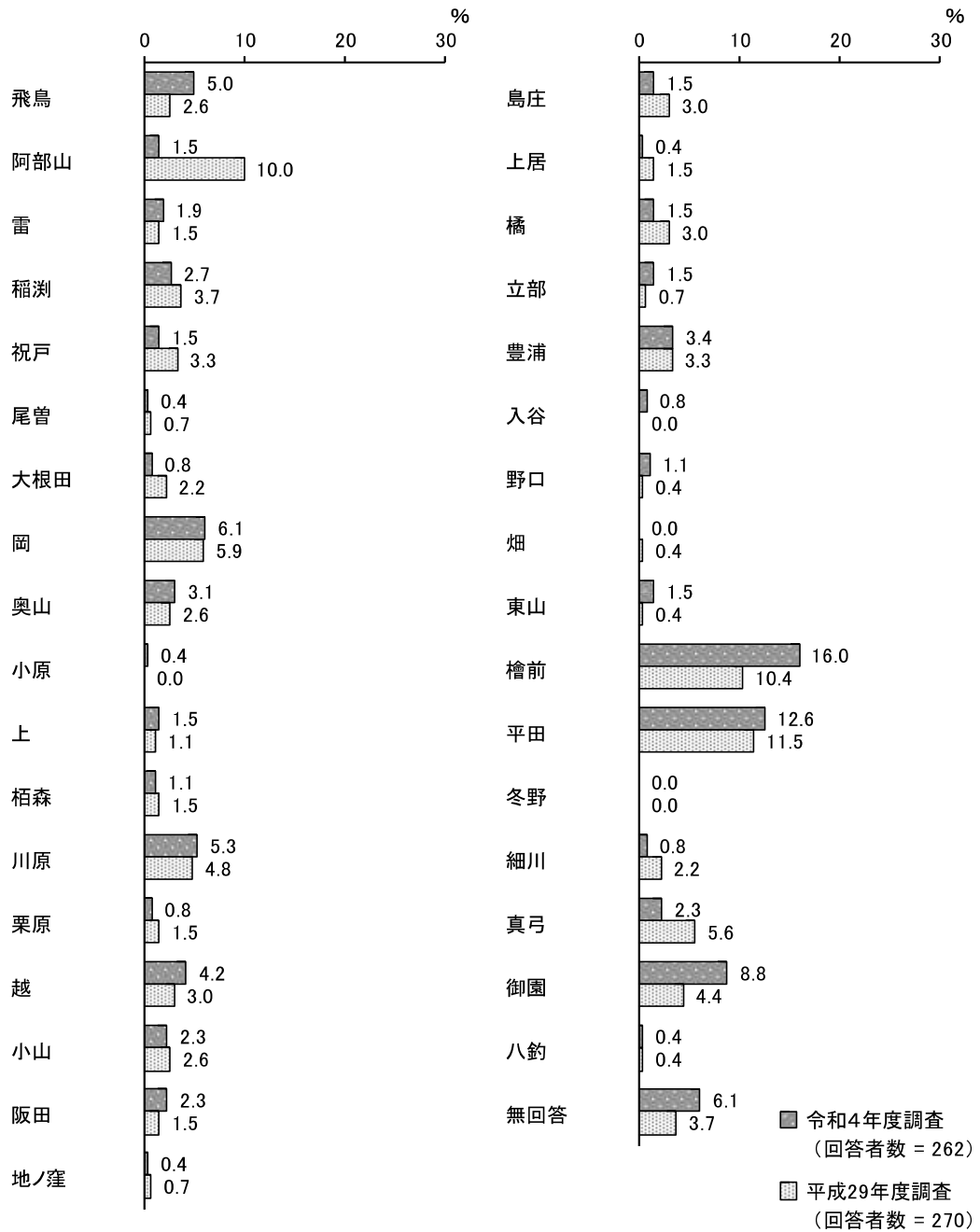
「50～59歳」の割合が22.9%と最も高く、次いで「40～49歳」の割合が17.6%、「30～39歳」の割合が15.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 問3 あなたがお住まいの地域（大字）はどこですか。

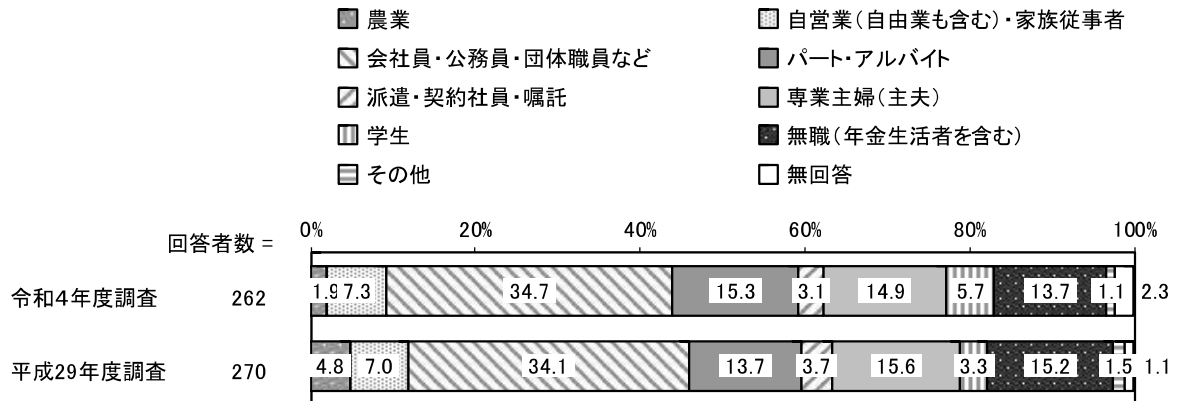
「檜前」の割合が16.0%と最も高く、次いで「平田」の割合が12.6%、「御園」の割合が8.8%となっています。



問4 あなたのご職業等はどれですか。(1つに○)

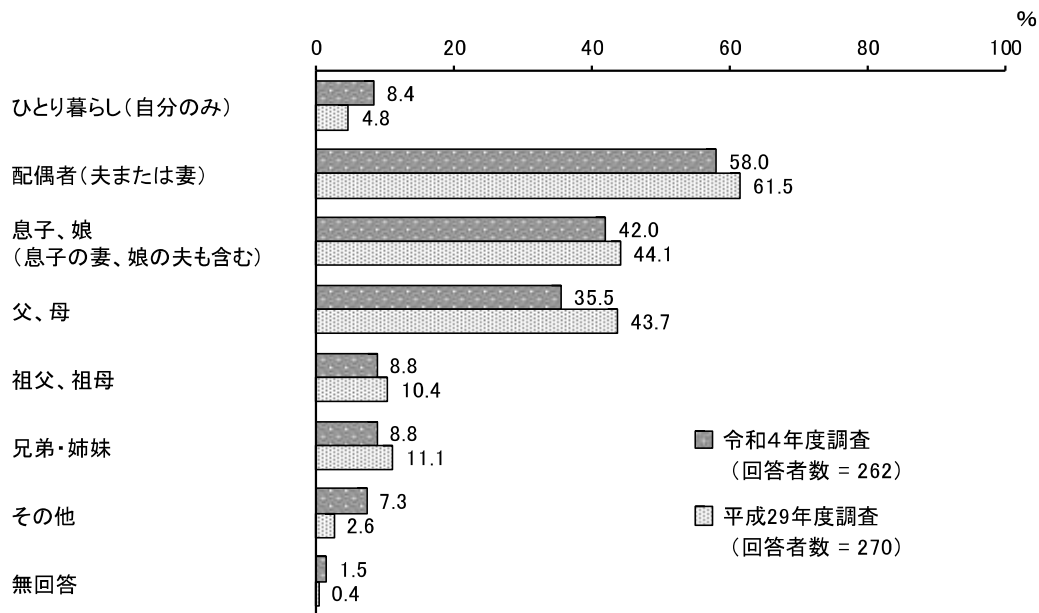
「会社員・公務員・団体職員など」の割合が34.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が15.3%、「専業主婦(主夫)」の割合が14.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



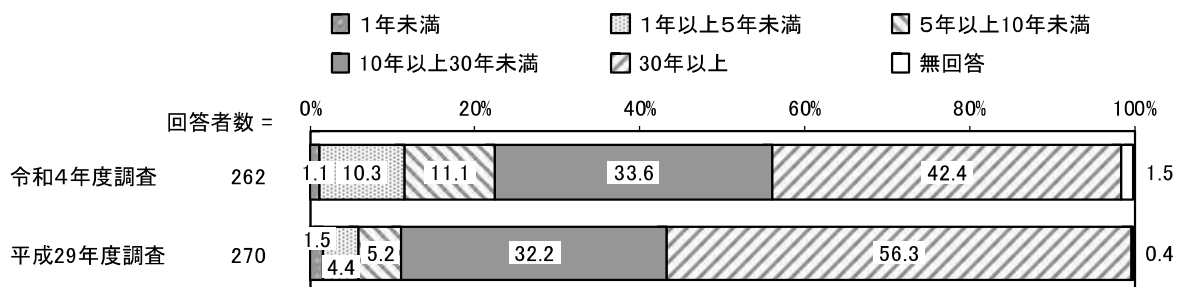
**問5 世帯についてお聞きします。あなたと同居している方はどなたですか。**  
 (あてはまるすべてに○)  
 ※2世帯住宅は同居としてお答えください。  
 ※配偶者の親族を含めてお答えください。

「配偶者(夫または妻)」の割合が58.0%と最も高く、次いで「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)」の割合が42.0%、「父、母」の割合が35.5%となっています。  
 平成29年度調査と比較すると、「父、母」の割合が減少しています。



**問6 現在の場所にお住まいになってから、何年経ちますか。(1つに○)**

「30年以上」の割合が42.4%と最も高く、次いで「10年以上30年未満」の割合が33.6%、「5年以上10年未満」の割合が11.1%となっています。  
 平成29年度調査と比較すると、「1年以上5年未満」「5年以上10年未満」の割合が増加し、「30年以上」の割合が減少しています。



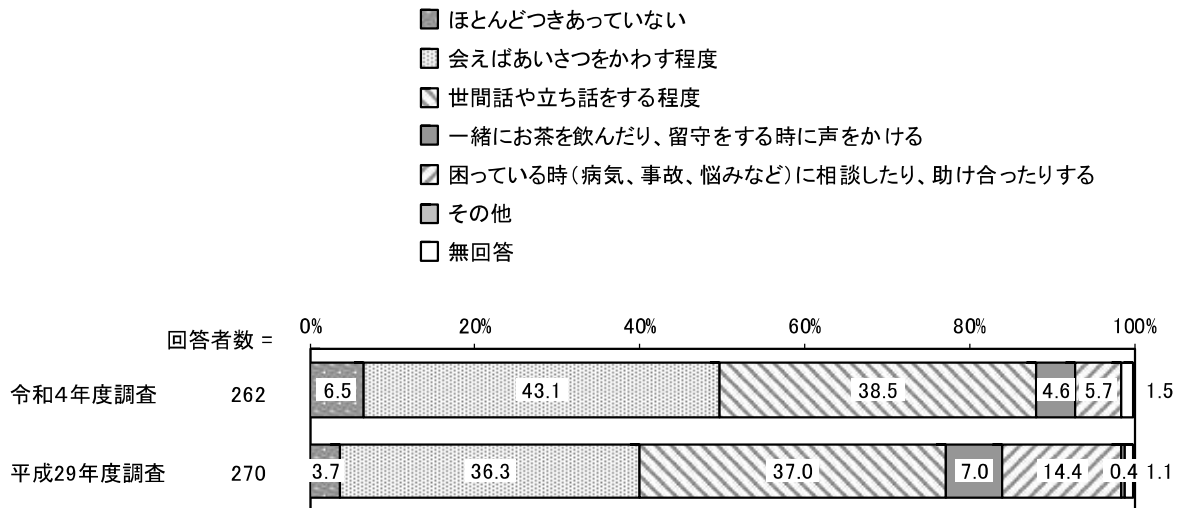


## 2 近所づきあいについて

### 問7 あなたは普段、近所の方との程度おつきあいをしていますか。(1つに○)

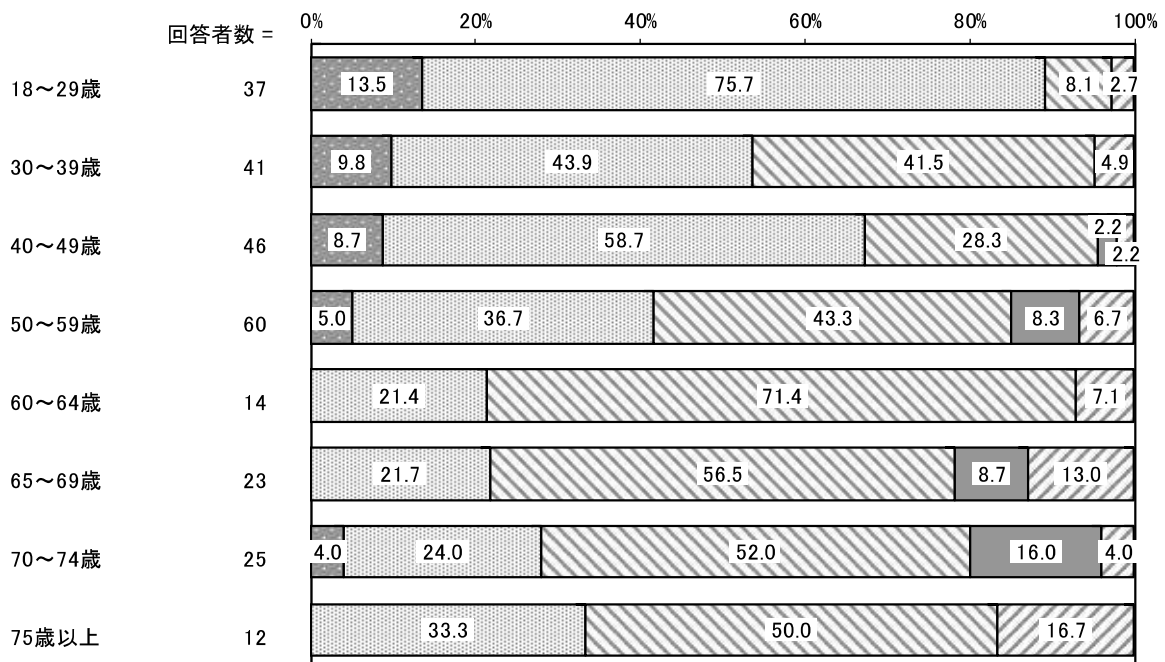
「会えばあいさつをかわす程度」の割合が43.1%と最も高く、次いで「世間話や立ち話をする程度」の割合が38.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「会えばあいさつをかわす程度」の割合が増加し、「困っている時(病気、事故、悩みなど)に相談したり、助け合ったりする」の割合が減少しています。



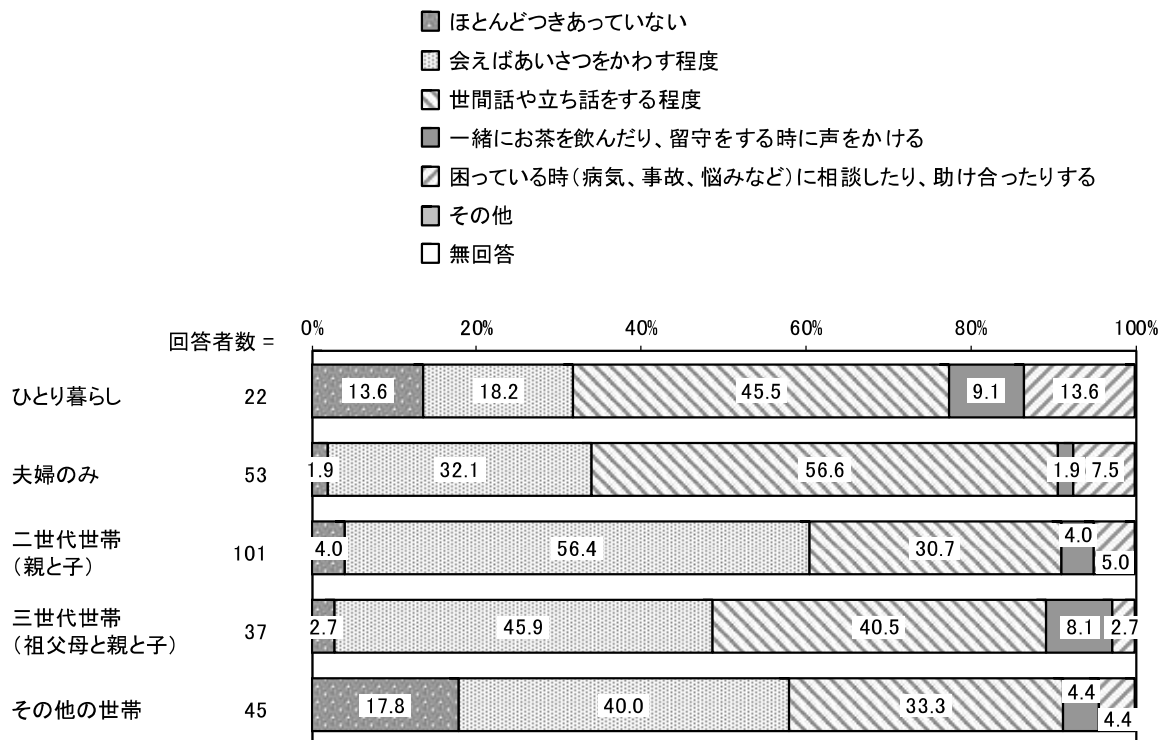
### 【年代別】

年代別でみると、60歳以上に比べ、59歳以下で「会えばあいさつをかわす程度」の割合が高くなっています。また、他に比べ、60～64歳で「世間話や立ち話をする程度」の割合が、70～74歳で「一緒にお茶を飲んだり、留守をする時に声をかける」の割合が高くなっています。



### 【世帯構成別】

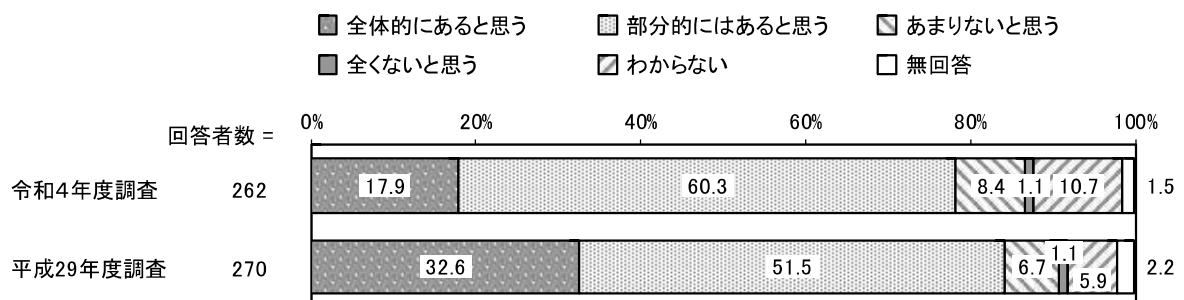
世帯構成別でみると、他に比べ、ひとり暮らしで「ほとんどつきあっていない」の割合が高くなっています。また、二世帯世帯（親と子）で「会えばあいさつをかわす程度」の割合が、夫婦のみで「世間話や立ち話をする程度」の割合が高くなっています。



### 問8 お住まいの地域には、困っている場合に助けあう気風があると思いますか。 (最も近いもの1つに○)

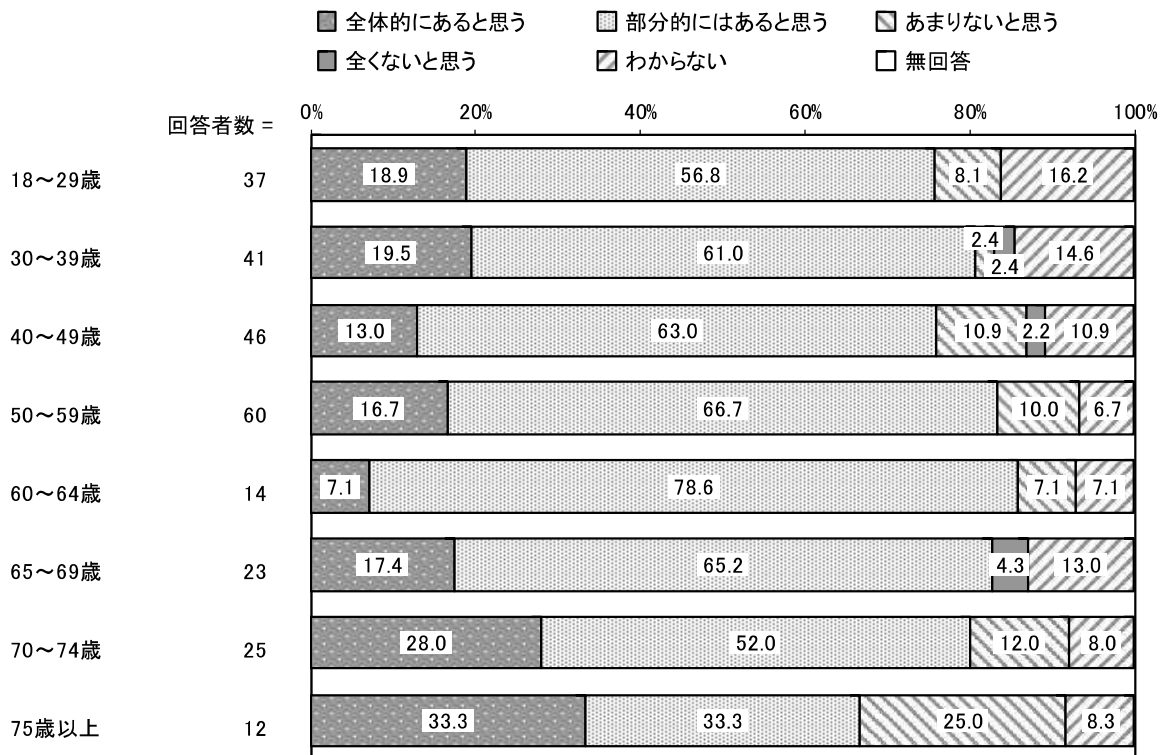
「全体的にあると思う」と「部分的にはあると思う」をあわせた“あると思う”の割合が78.2%、「あまりないと思う」と「全くないと思う」をあわせた“ないと思う”の割合が9.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、“あると思う”の割合が減少しています。



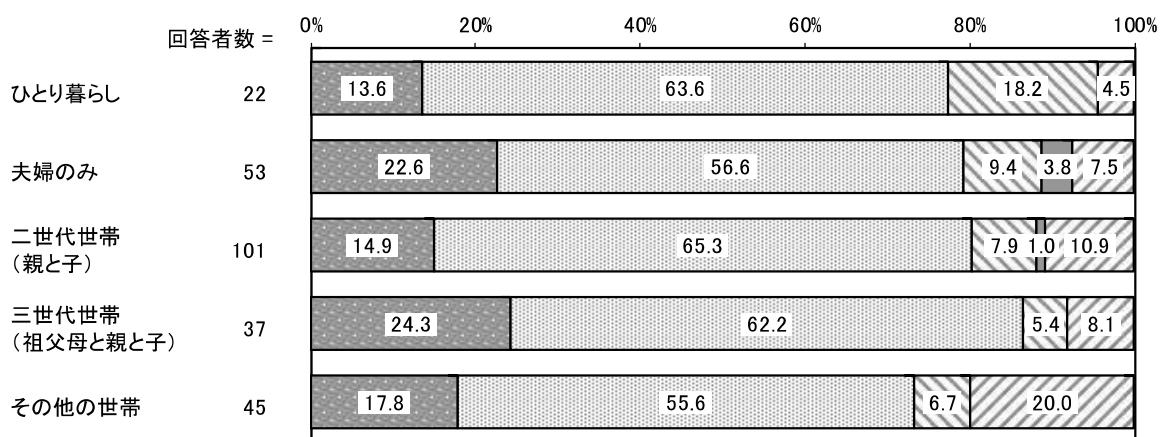
### 【年代別】

年代別でみると、69歳以下に比べ、70歳以上で「全体的にあると思う」の割合が高くなっています。また、75歳以上で「あまりないと思う」の割合が高くなっています。



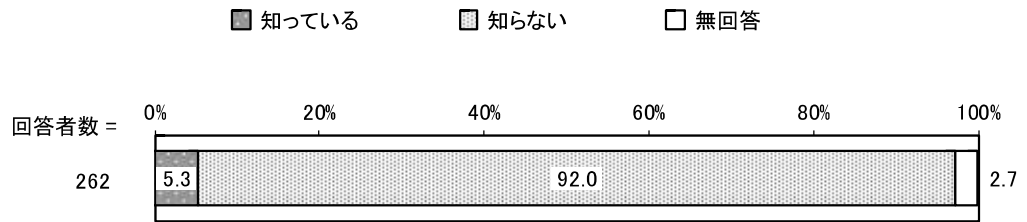
### 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、三世代世帯（祖父母と親と子）で“あると思う”の割合が高くなっています。また、ひとり暮らしで“ないと思う”の割合が高くなっています。



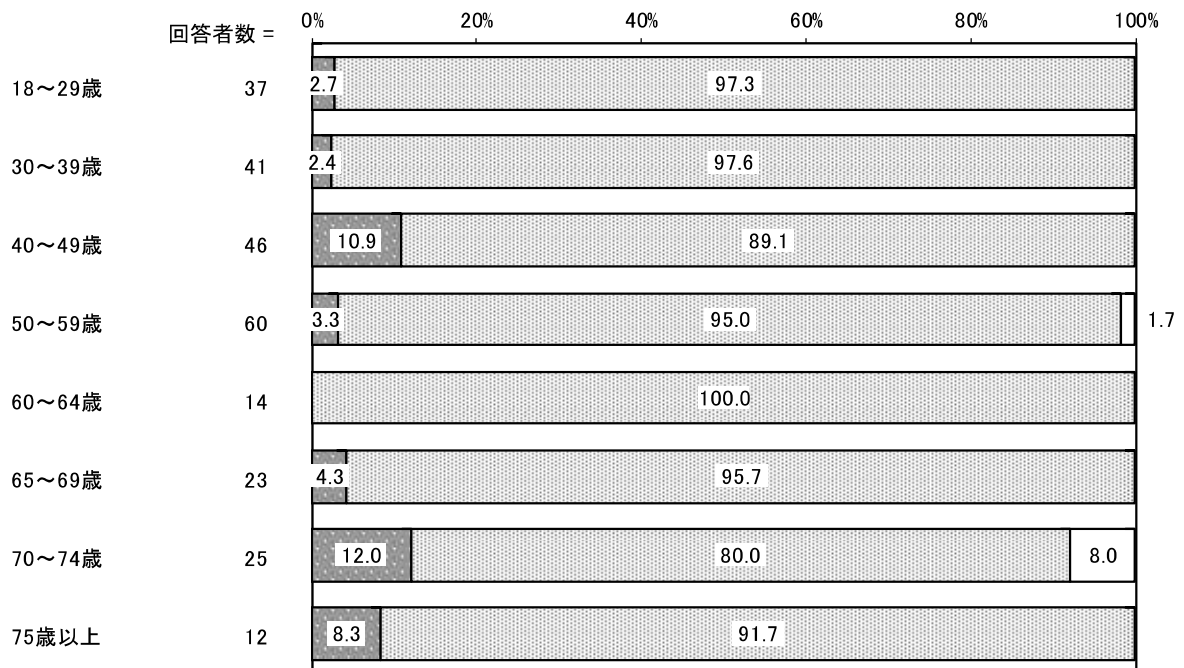
問9 必要な支援を受けることができず、地域からも孤立し、生活上の様々な課題を抱えている人たちが、あなたの暮らす地域にいるかどうかを知っていますか。  
(1つに○)

「知っている」の割合が5.3%、「知らない」の割合が92.0%となっています。



【年代別】

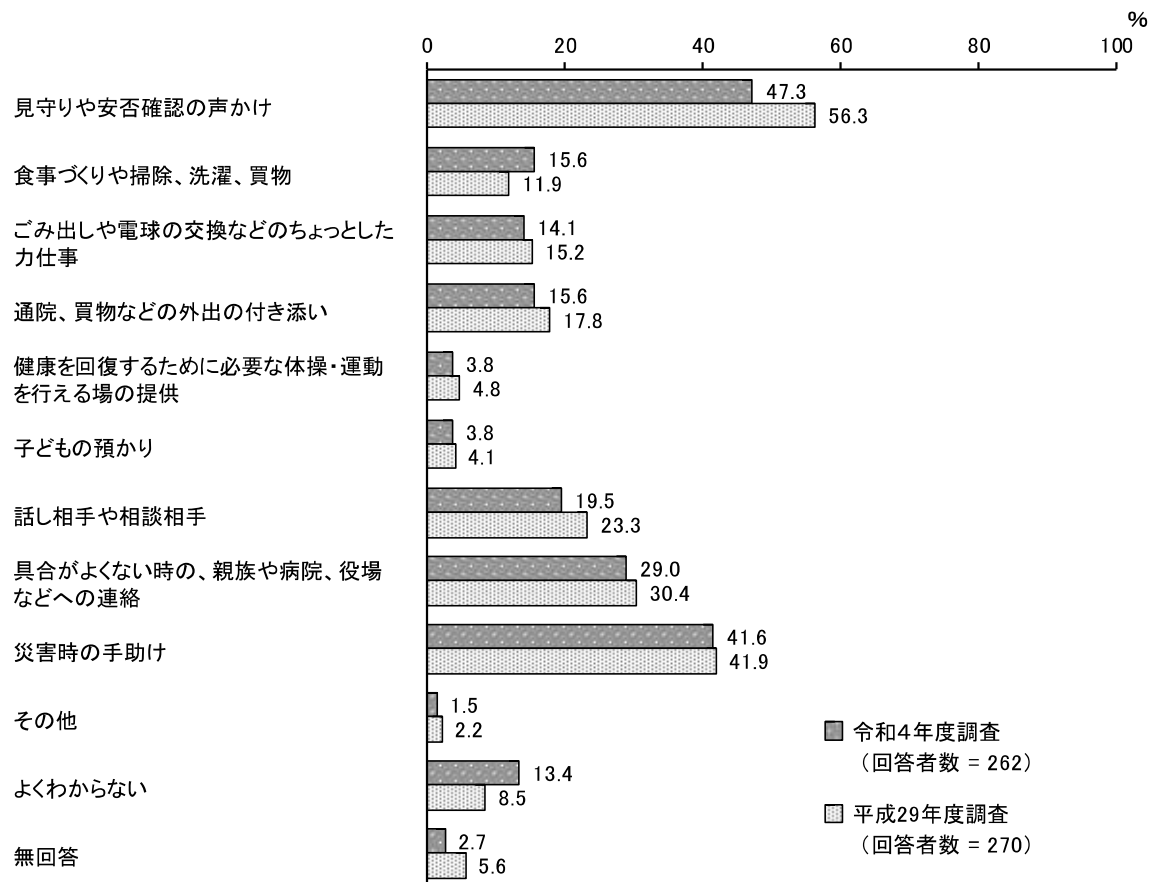
年代別でみると、他に比べ、40～49歳、70～74歳で「知っている」の割合が高くなっています。



**問 10 あなたが高齢や病気、事故などで、日常生活が不自由になった時、ご近所でどのようなことをしてほしいですか。（あてはまるもの3つまで○）**

「見守りや安否確認の声かけ」の割合が47.3%と最も高く、次いで「災害時の手助け」の割合が41.6%、「具合がよくない時の、親族や病院、役場などへの連絡」の割合が29.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「見守りや安否確認の声かけ」の割合が減少しています。



## 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、65～69歳、70～74歳で「見守りや安否確認の声かけ」の割合が高くなっています。また、60～64歳で「災害時の手助け」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	見守りや安否確認の声かけ	食事づくりや掃除、洗濯、買い物	ごみ出しや電球の交換などのちよつとした力仕事	付き添い 通院、買物などの外出の	健康を回復するために必要な体操・運動を行える場の提供	子どもの預かり	話し相手や相談相手	具合がよくない時の、親族や病院、役場などへの連絡	災害時の手助け	その他	よくわからない	無回答
18～29歳	37	40.5	13.5	10.8	8.1	2.7	2.7	2.7	21.6	35.1	—	29.7	—
30～39歳	41	48.8	24.4	17.1	19.5	2.4	7.3	19.5	31.7	34.1	—	9.8	4.9
40～49歳	46	41.3	15.2	17.4	10.9	4.3	8.7	23.9	30.4	30.4	4.3	17.4	2.2
50～59歳	60	41.7	20.0	11.7	25.0	5.0	3.3	15.0	26.7	55.0	1.7	11.7	—
60～64歳	14	42.9	—	14.3	7.1	7.1	—	21.4	28.6	71.4	—	14.3	—
65～69歳	23	69.6	4.3	13.0	13.0	—	—	30.4	39.1	34.8	—	4.3	—
70～74歳	25	68.0	16.0	24.0	16.0	—	—	28.0	36.0	52.0	4.0	4.0	—
75歳以上	12	50.0	16.7	—	16.7	16.7	—	41.7	25.0	33.3	—	8.3	—

## 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、夫婦のみで「見守りや安否確認の声かけ」「災害時の手助け」の割合が高くなっています。また、ひとり暮らしで「具合がよくない時の、親族や病院、役場などへの連絡」の割合が高くなっています。

単位：％

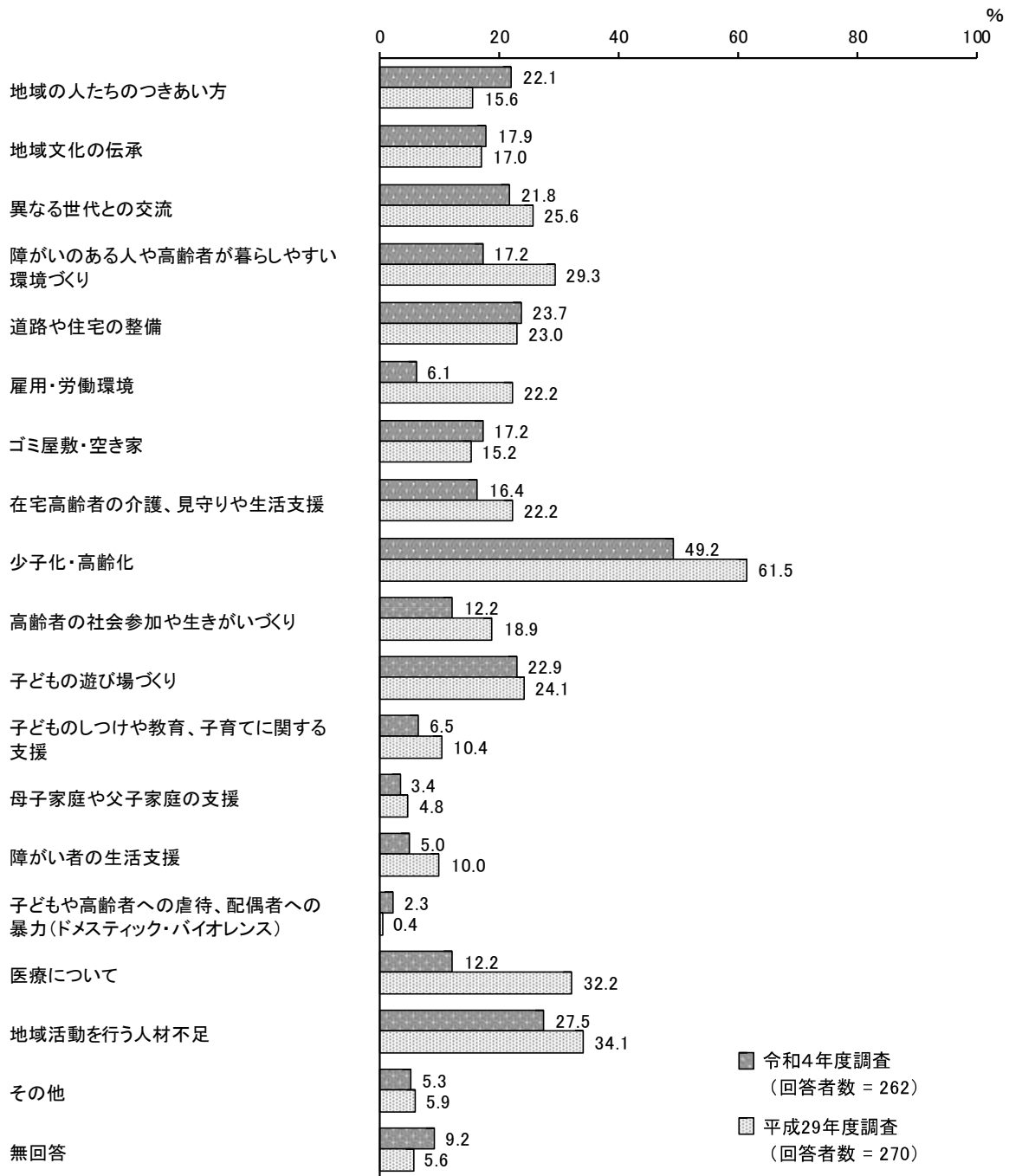
区分	回答者数(件)	見守りや安否確認の声かけ	食事づくりや掃除、洗濯、買い物	ごみ出しや電球の交換などのちよつとした力仕事	付き添い 通院、買物などの外出の	健康を回復するために必要な体操・運動を行える場の提供	子どもの預かり	話し相手や相談相手	具合がよくない時の、親族や病院、役場などへの連絡	災害時の手助け	その他	よくわからない	無回答
ひとり暮らし	22	40.9	18.2	13.6	22.7	4.5	—	18.2	36.4	36.4	—	13.6	—
夫婦のみ	53	56.6	11.3	18.9	11.3	1.9	—	24.5	32.1	49.1	1.9	11.3	—
二世帯世帯 (親と子)	101	48.5	14.9	10.9	15.8	4.0	7.9	19.8	29.7	38.6	2.0	12.9	3.0
三世帯世帯 (祖父母と親と子)	37	45.9	13.5	16.2	21.6	5.4	2.7	13.5	27.0	43.2	2.7	16.2	—
その他の世帯	45	42.2	24.4	15.6	13.3	4.4	2.2	20.0	24.4	44.4	—	15.6	—

### 3 お住まいの地域について

問11 あなたの住んでいる地域には、どのような課題や問題があると感じていますか。  
(あてはまるすべてに○)

「少子化・高齢化」の割合が49.2%と最も高く、次いで「地域活動を行う人材不足」の割合が27.5%、「道路や住宅の整備」の割合が23.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「地域の人たちのつきあい方」の割合が増加し、「障がいのある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり」「雇用・労働環境」「在宅高齢者の介護、見守りや生活支援」「少子化・高齢化」「高齢者の社会参加や生きがいがづくり」「障がい者の生活支援」「医療について」「地域活動を行う人材不足」の割合が減少しています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、60～64歳で「異なる世代との交流」「少子化・高齢化」の割合が高くなっています。また、40～49歳で「子どもの遊び場づくり」の割合が、65～69歳で「地域の人たちのつきあい方」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	地域の人たちのつきあい方	地域文化の伝承	異なる世代との交流	障がいのある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり	道路や住宅の整備	雇用・労働環境	ゴミ屋敷・空き家	在宅高齢者の介護、見守りや生活支援	少子化・高齢化
18～29歳	37	16.2	10.8	5.4	2.7	24.3	2.7	13.5	8.1	48.6
30～39歳	41	24.4	14.6	24.4	12.2	22.0	12.2	9.8	14.6	51.2
40～49歳	46	34.8	21.7	28.3	13.0	28.3	6.5	17.4	13.0	43.5
50～59歳	60	16.7	20.0	26.7	25.0	20.0	6.7	23.3	21.7	50.0
60～64歳	14	14.3	28.6	42.9	21.4	21.4	14.3	14.3	28.6	71.4
65～69歳	23	39.1	8.7	17.4	17.4	26.1	4.3	17.4	13.0	56.5
70～74歳	25	12.0	24.0	8.0	24.0	28.0	—	24.0	20.0	40.0
75歳以上	12	8.3	25.0	33.3	41.7	16.7	—	16.7	25.0	33.3

区分	高齢者の社会参加や生きがいづくり	子どもの遊び場づくり	子どものしつけや教育、子育てに関する支援	母子家庭や父子家庭の支援	障がい者の生活支援	子どもや高齢者への虐待、配偶者への暴力(ドメスティック・バイオレンス)	医療について	地域活動を行う人材不足	その他	無回答
18～29歳	2.7	21.6	5.4	5.4	—	—	8.1	21.6	8.1	2.7
30～39歳	7.3	36.6	14.6	2.4	2.4	2.4	12.2	29.3	4.9	9.8
40～49歳	10.9	47.8	10.9	2.2	10.9	6.5	17.4	21.7	4.3	15.2
50～59歳	16.7	10.0	5.0	5.0	6.7	1.7	16.7	31.7	6.7	8.3
60～64歳	14.3	—	—	—	—	—	—	42.9	7.1	7.1
65～69歳	8.7	13.0	4.3	4.3	4.3	4.3	8.7	34.8	8.7	4.3
70～74歳	20.0	16.0	—	4.0	4.0	—	12.0	24.0	—	20.0
75歳以上	33.3	16.7	—	—	—	—	8.3	16.7	—	—



【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「少子化・高齢化」の割合が高くなっています。また、ひとり暮らしで「地域の人たちのつきあい方」「ゴミ屋敷・空き家」の割合が、二世帯世帯（親と子）で「子どもの遊び場づくり」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	地域の人たちのつきあい方	地域文化の伝承	異なる世代との交流	障がいのある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり	道路や住宅の整備	雇用・労働環境	ゴミ屋敷・空き家	在宅高齢者の介護、見守りや生活支援	少子化・高齢化
ひとり暮らし	22	27.3	18.2	18.2	9.1	27.3	4.5	27.3	18.2	59.1
夫婦のみ	53	17.0	22.6	15.1	24.5	18.9	1.9	20.8	18.9	34.0
二世帯世帯（親と子）	101	21.8	18.8	24.8	17.8	26.7	8.9	15.8	17.8	48.5
三世帯世帯（祖父母と親と子）	37	18.9	16.2	24.3	13.5	21.6	8.1	18.9	18.9	67.6
その他の世帯	45	28.9	13.3	24.4	15.6	22.2	4.4	11.1	8.9	46.7

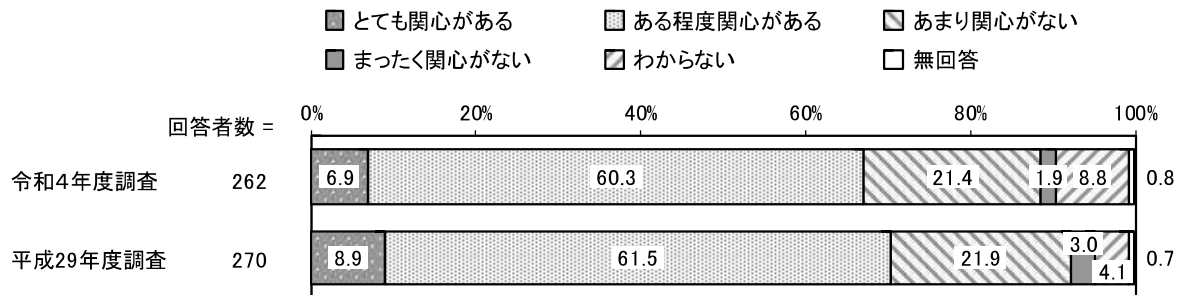
区分	高齢者の社会参加や生きがいづくり	子どもの遊び場づくり	子どものしつけや教育、子育てに関する支援	母子家庭や父子家庭の支援	障がい者の生活支援	子どもや高齢者への虐待、配偶者への暴力（ドメスティック・バイオレンス）	医療について	地域活動を行う人材不足	その他	無回答
ひとり暮らし	9.1	9.1	—	—	4.5	4.5	13.6	36.4	9.1	9.1
夫婦のみ	13.2	13.2	3.8	1.9	1.9	—	5.7	26.4	—	13.2
二世帯世帯（親と子）	14.9	34.7	9.9	5.0	5.9	4.0	13.9	29.7	4.0	11.9
三世帯世帯（祖父母と親と子）	8.1	21.6	5.4	2.7	2.7	—	16.2	27.0	8.1	2.7
その他の世帯	11.1	17.8	6.7	4.4	6.7	2.2	13.3	20.0	11.1	4.4

#### 4 福祉への関心について

##### 問12 あなたは、福祉に関心がありますか。(1つに○)

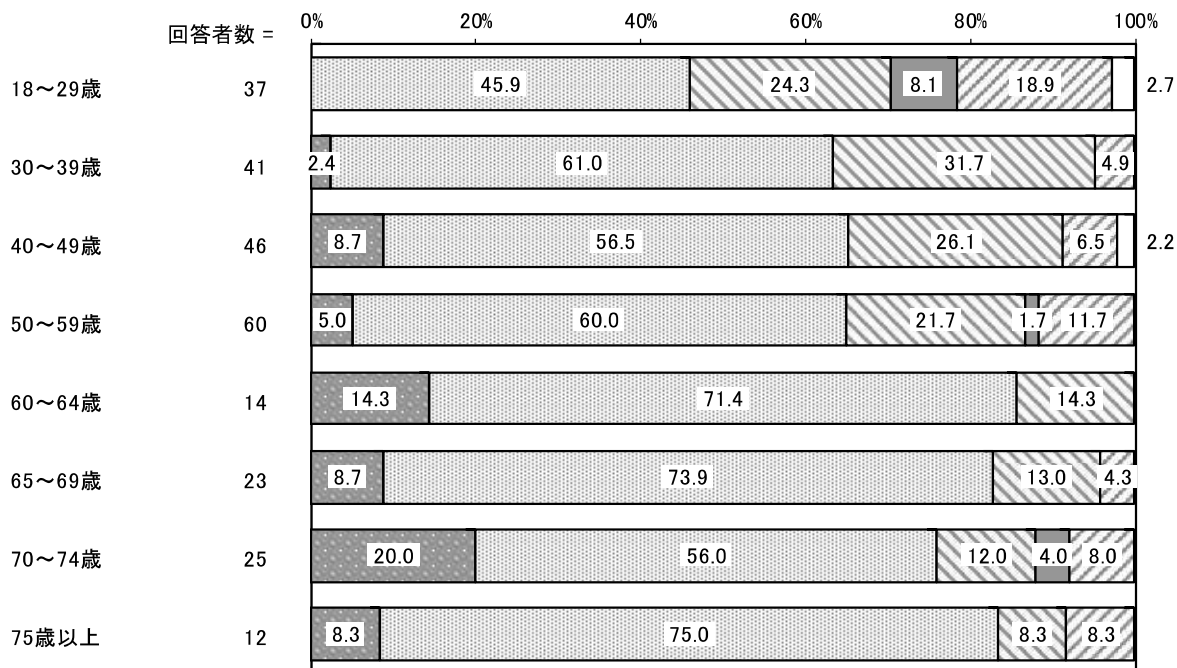
「とても関心がある」と「ある程度関心がある」をあわせた“関心がある”の割合が 67.2%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」をあわせた“関心がない”の割合が 23.3%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



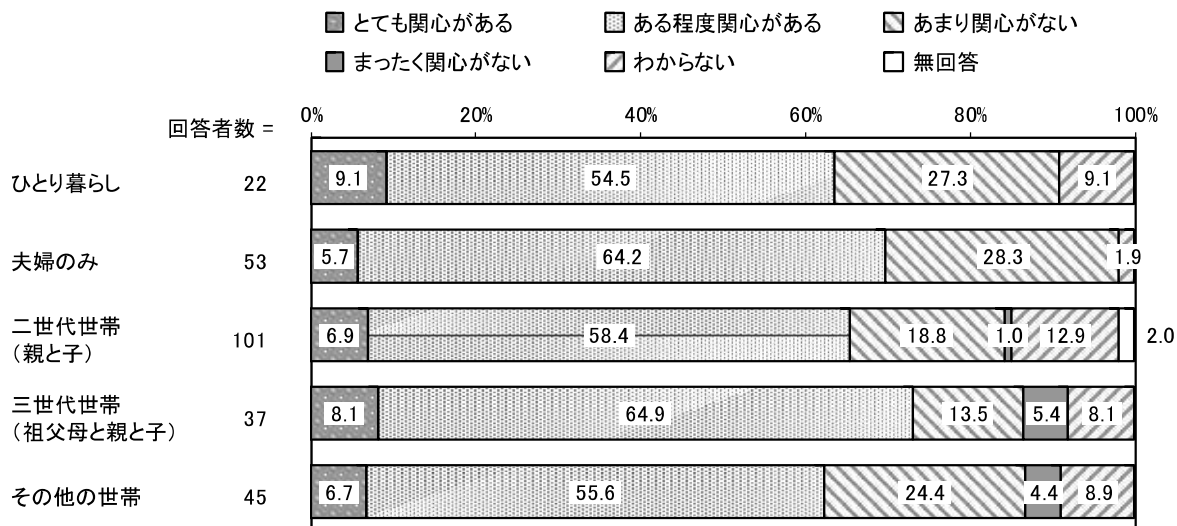
##### 【年代別】

年代別でみると、年齢が低くなるにつれ“関心がない”の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、60～64歳、65～69歳、75歳以上で“関心がある”の割合が高くなっています。



### 【世帯構成別】

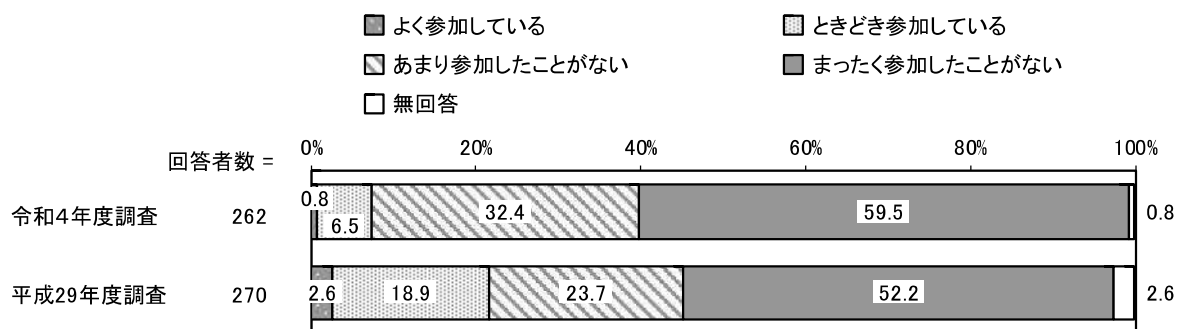
世帯構成別で見ると、他に比べ、三世帯世帯（祖父母と親と子）で“関心がある”の割合が高くなっています。また、ひとり暮らし、夫婦のみで“関心がない”の割合が高くなっています。



### 問 13 あなたは、福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどに参加したことがありますか。(1つに○)

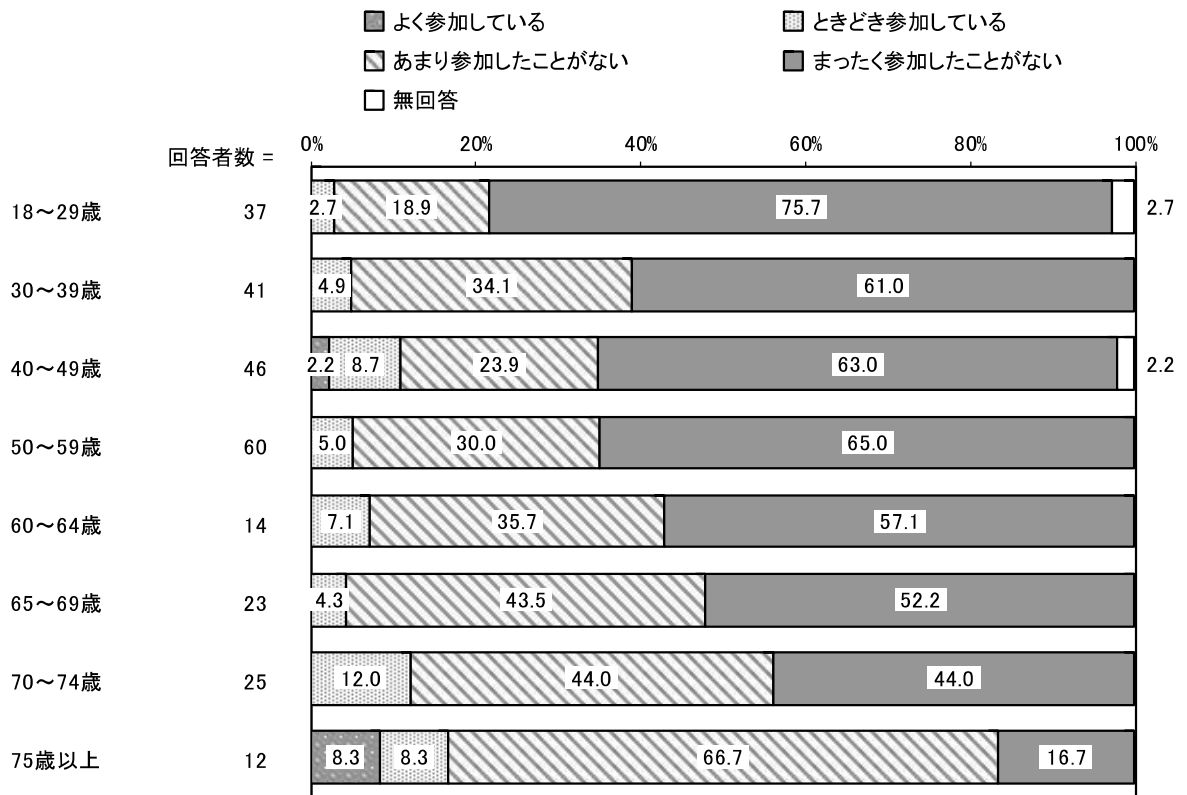
「よく参加している」と「ときどき参加している」をあわせた“参加している”の割合が7.3%、「あまり参加したことがない」と「まったく参加したことがない」をあわせた“参加したことがない”の割合が91.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、“参加している”の割合が減少し、“参加したことがない”の割合が増加しています。



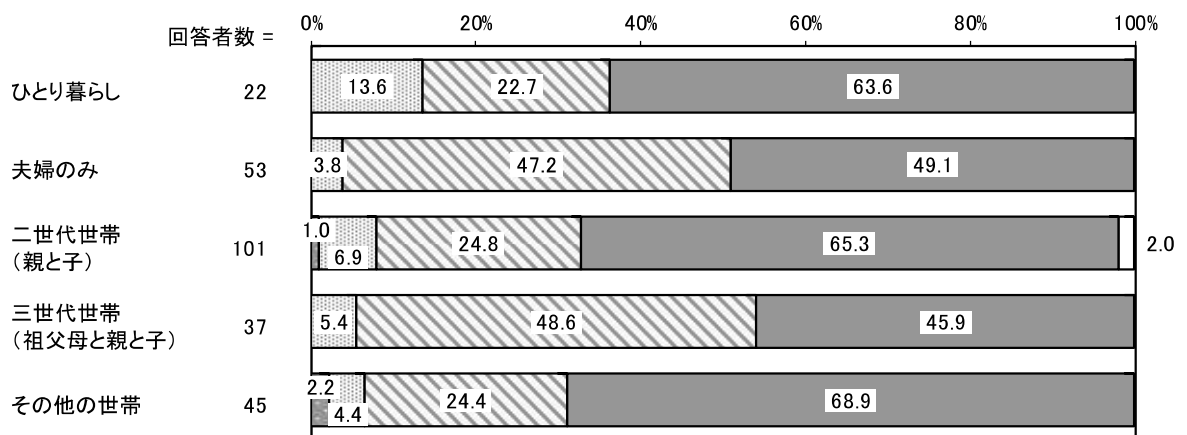
### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、75歳以上で“参加している”の割合が高くなっています。



### 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、ひとり暮らしで「ときどき参加している」の割合が高くなっています。

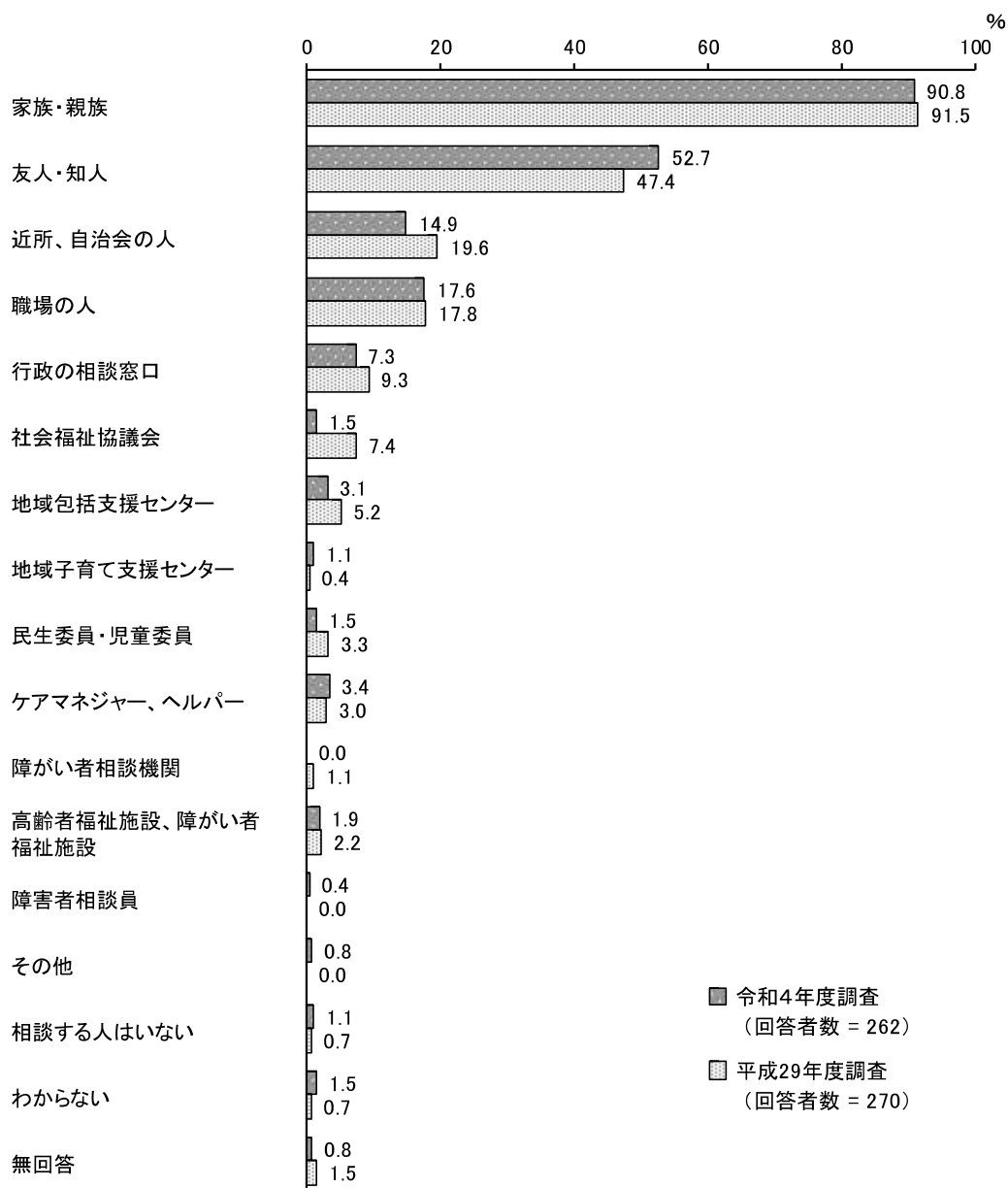


## 5 困りごとの相談や福祉サービスに関する情報などについて

問 14 普段の生活の中で、生活上の問題が起きた時や手助けが必要になった時、誰に相談していますか。(あてはまるすべてに○)

「家族・親族」の割合が90.8%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が52.7%、「職場の人」の割合が17.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「友人・知人」の割合が増加し、「社会福祉協議会」の割合が減少しています。



【年代別】

年代別で見ると、他に比べ、18～29歳で「友人・知人」の割合が高くなっています。また、65～69歳で「行政の相談窓口」「地域包括支援センター」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族・親族	友人・知人	近所、自治会の人	職場の人	行政の相談窓口	社会福祉協議会	地域包括支援センター	地域子育て支援センター
18～29歳	37	94.6	70.3	2.7	18.9	2.7	—	—	—
30～39歳	41	95.1	51.2	7.3	24.4	—	—	—	2.4
40～49歳	46	91.3	52.2	8.7	26.1	6.5	2.2	2.2	2.2
50～59歳	60	86.7	53.3	21.7	18.3	8.3	1.7	3.3	—
60～64歳	14	92.9	64.3	28.6	14.3	7.1	—	—	—
65～69歳	23	87.0	52.2	21.7	8.7	17.4	8.7	17.4	4.3
70～74歳	25	96.0	36.0	20.0	4.0	12.0	—	4.0	—
75歳以上	12	75.0	33.3	25.0	—	8.3	—	—	—

区分	民生委員・児童委員	ケアマネジャー、ヘルパー	障がい者相談機関	高齢者福祉施設、障がい者福祉施設	障害者相談員	その他	相談する人はいない	わからない	無回答
18～29歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30～39歳	2.4	—	—	2.4	—	—	—	2.4	—
40～49歳	—	6.5	—	4.3	—	4.3	—	—	4.3
50～59歳	1.7	1.7	—	—	—	—	3.3	3.3	—
60～64歳	—	7.1	—	—	—	—	7.1	—	—
65～69歳	4.3	8.7	—	8.7	—	—	—	—	—
70～74歳	—	8.0	—	—	4.0	—	—	—	—
75歳以上	8.3	—	—	—	—	—	—	8.3	—

【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、ひとり暮らしで「友人・知人」「近所、自治会の人」「ケアマネジャー、ヘルパー」の割合が高くなっています。また、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「職場の人」の割合が高くなっています。

単位：％

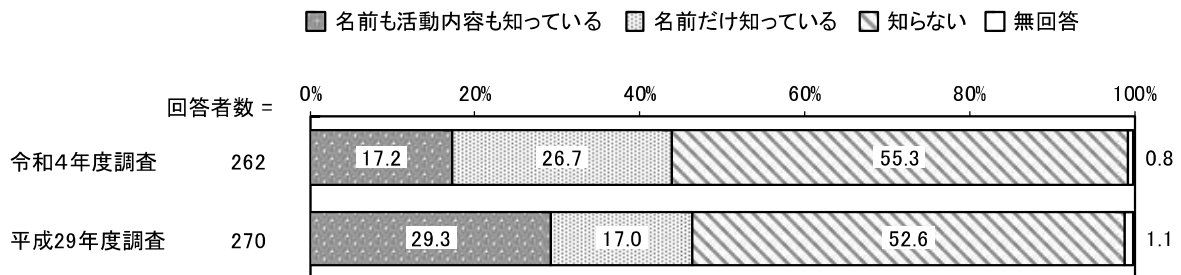
区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	近所、自治会の人	職場の人	行政の相談窓口	社会福祉協議会	地域包括支援センター	地域子育て支援センター
ひとり暮らし	22	68.2	72.7	45.5	22.7	4.5	4.5	—	—
夫婦のみ	53	92.5	47.2	15.1	7.5	7.5	—	—	—
二世帯世帯（親と子）	101	92.1	50.5	11.9	16.8	8.9	1.0	6.9	1.0
三世帯世帯（祖父母と親と子）	37	100.0	67.6	10.8	32.4	—	2.7	—	—
その他の世帯	45	88.9	44.4	8.9	15.6	8.9	2.2	2.2	4.4

区分	民生委員・児童委員	ケアマネジャー、ヘルパー	障がい者相談機関	高齢者福祉施設、障がい者福祉施設	障害者相談員	その他	相談する人はいない	わからない	無回答
ひとり暮らし	—	13.6	—	9.1	—	4.5	—	4.5	—
夫婦のみ	—	1.9	—	—	—	—	1.9	—	—
二世帯世帯（親と子）	3.0	4.0	—	2.0	—	1.0	1.0	2.0	2.0
三世帯世帯（祖父母と親と子）	—	2.7	—	—	—	—	—	—	—
その他の世帯	2.2	—	—	2.2	2.2	—	2.2	2.2	—

問 15 あなたがお住まいの地域の民生委員・児童委員をご存じですか。(1つに○)

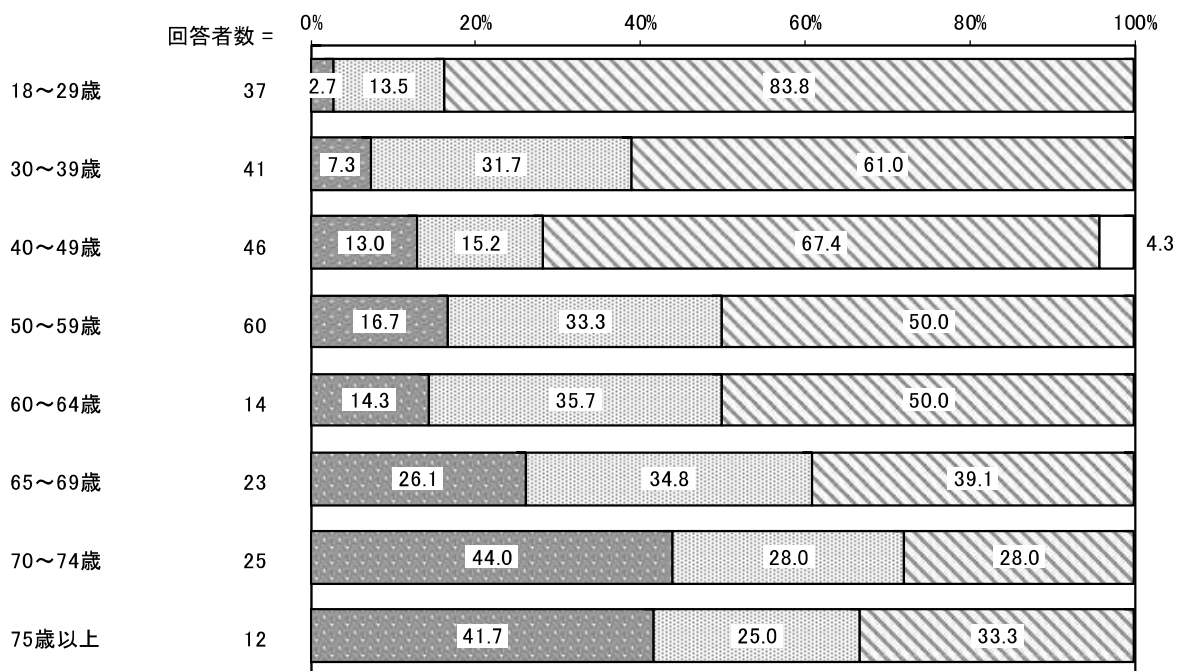
「知らない」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「名前だけ知っている」の割合が 26.7%、「名前も活動内容も知っている」の割合が 17.2%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「名前も活動内容も知っている」の割合が減少し、「名前だけ知っている」の割合が増加しています。



【年代別】

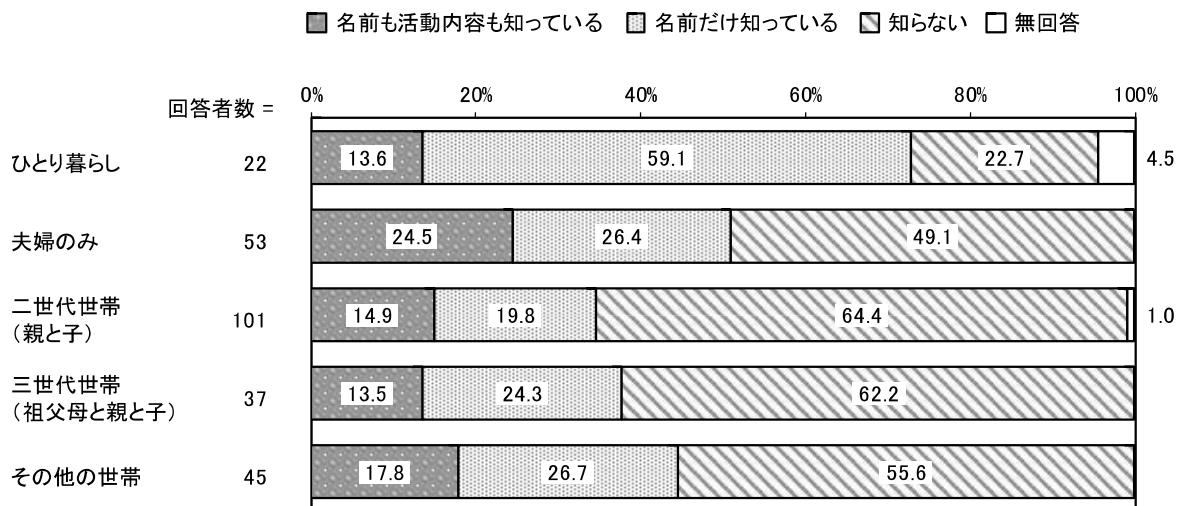
年代別でみると、年代が高くなるにつれ「名前も活動内容も知っている」の割合が、年代が低くなるにつれ「知らない」の割合が高くなる傾向がみられます。





### 【世帯構成別】

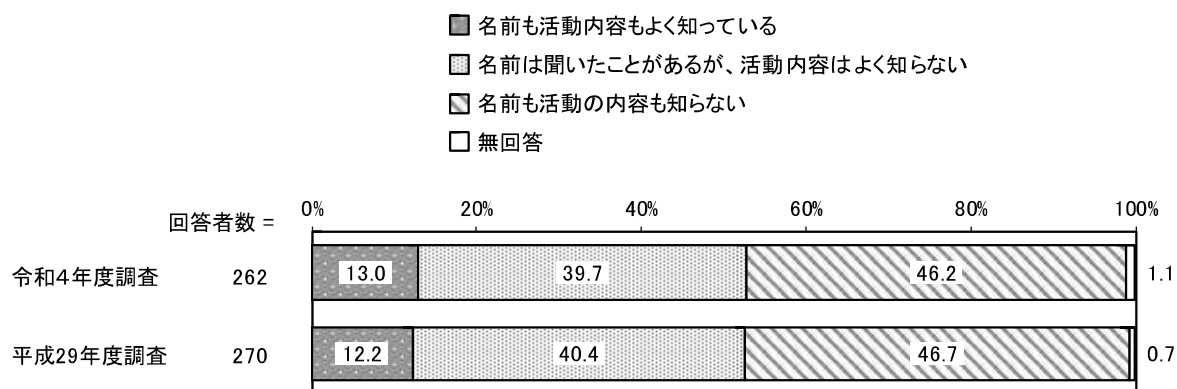
世帯構成別で見ると、他に比べ、夫婦のみで「名前も活動内容も知っている」の割合が、ひとり暮らしで「名前だけ知っている」の割合が高くなっています。また、二世帯世帯（親と子）、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「知らない」の割合が高くなっています。



### 問 16 地域の高齢者のための総合相談窓口の「地域包括支援センター」を知っていますか。(1つに○)

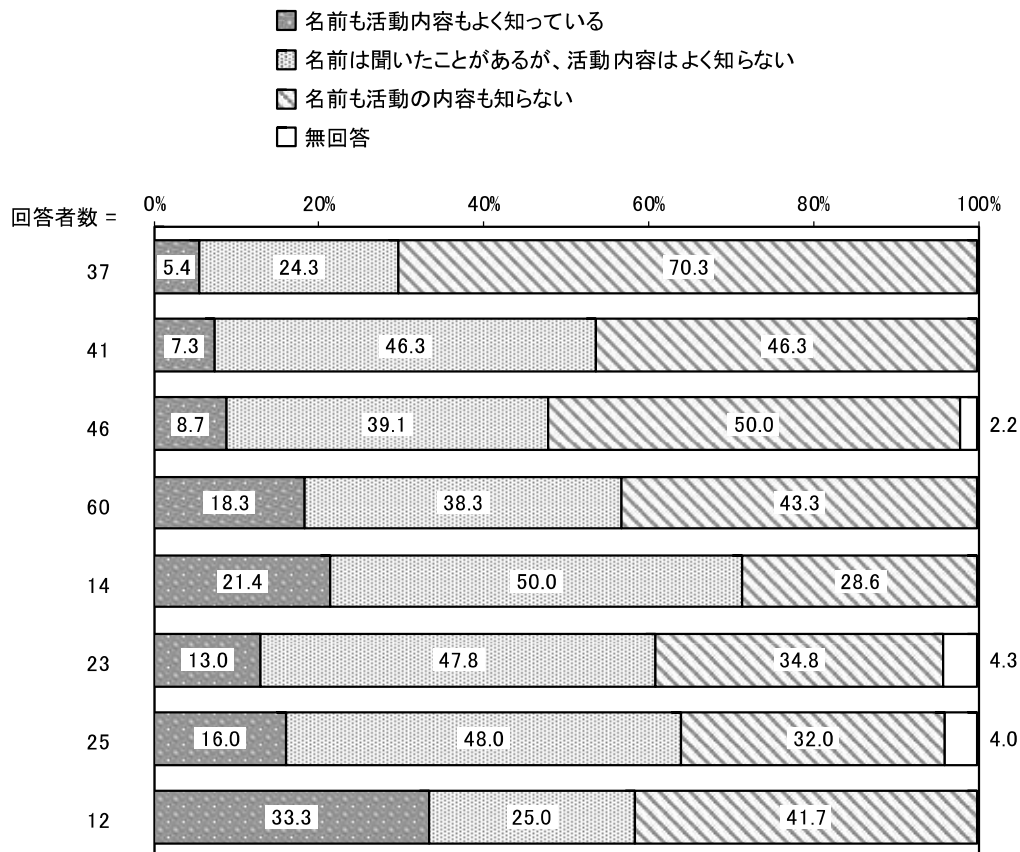
「名前も活動の内容も知らない」の割合が46.2%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」の割合が39.7%、「名前も活動内容もよく知っている」の割合が13.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



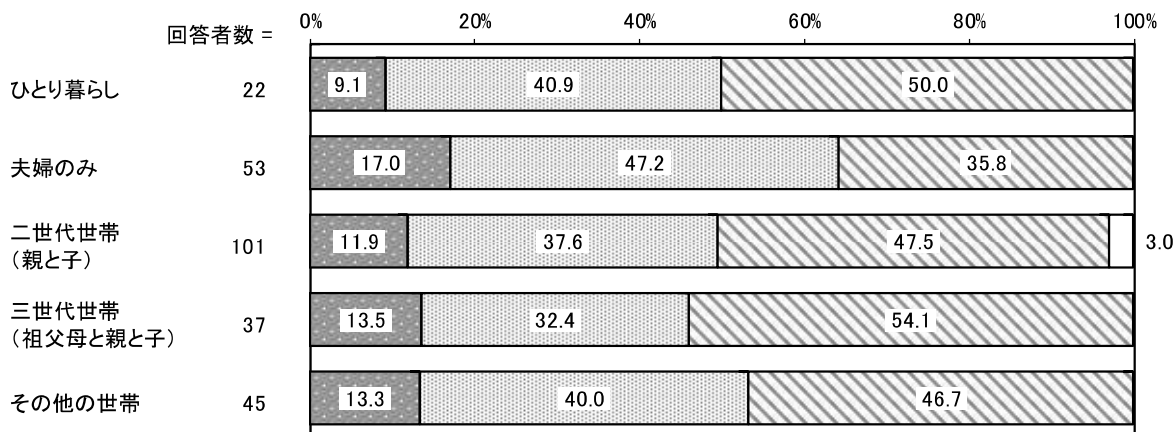
### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、75歳以上で「名前も活動内容もよく知っている」の割合が高くなっています。また、60～74歳で「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」の割合が、18～29歳で「名前も活動の内容も知らない」の割合が高くなっています。



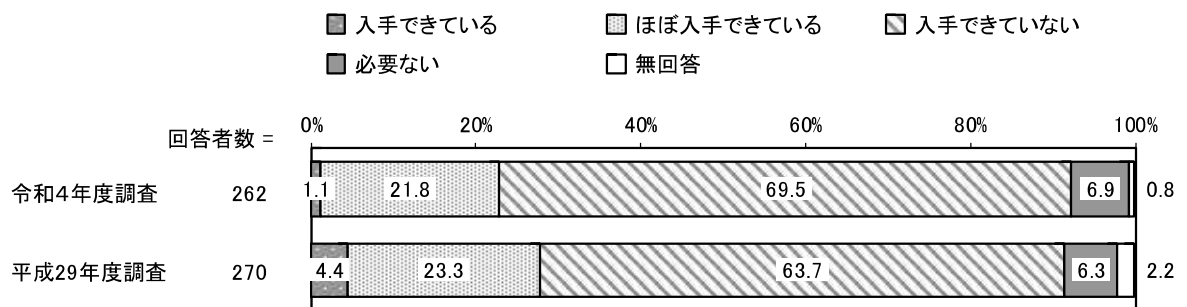
### 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、夫婦のみで「名前も活動内容もよく知っている」「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」の割合が高くなっています。また、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「名前も活動の内容も知らない」の割合が高くなっています。



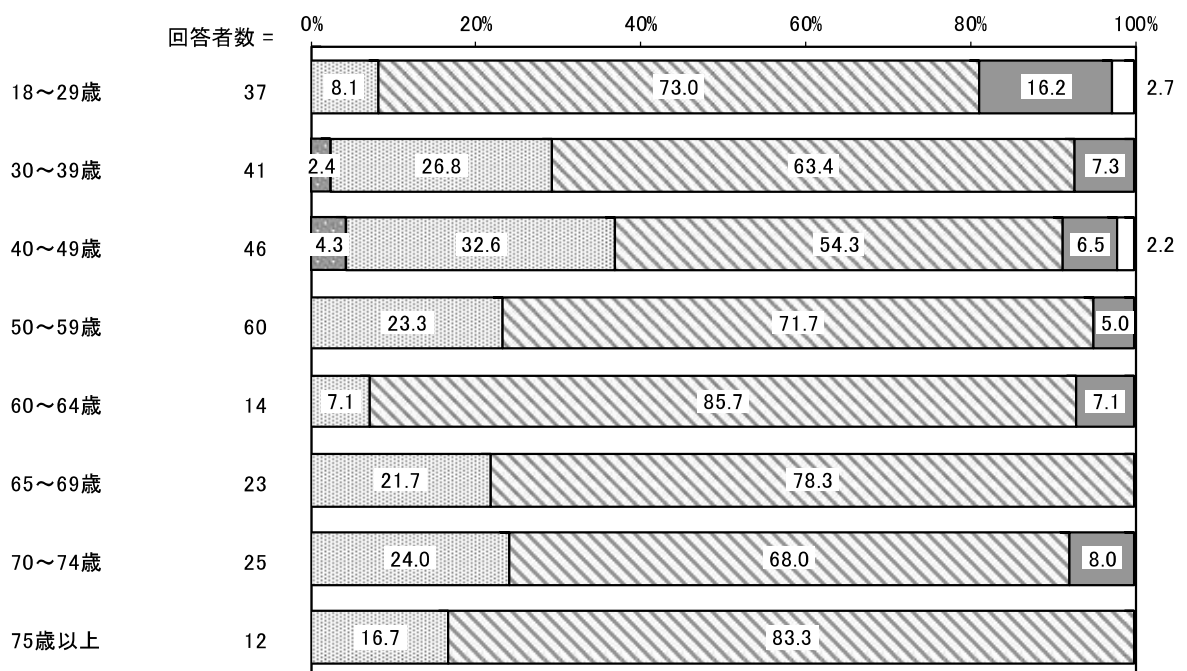
**問 17 あなたは、村の子ども、高齢者、障がいのある方などの福祉に関する情報を入手できていますか。(1つに○)**

「入手できている」と「ほぼ入手できている」をあわせた“入手できている”の割合が 22.9%、「入手できていない」の割合が 69.5%、「必要ない」の割合が 6.9%となっています。  
平成 29 年度調査と比較すると、「入手できていない」の割合が増加しています。



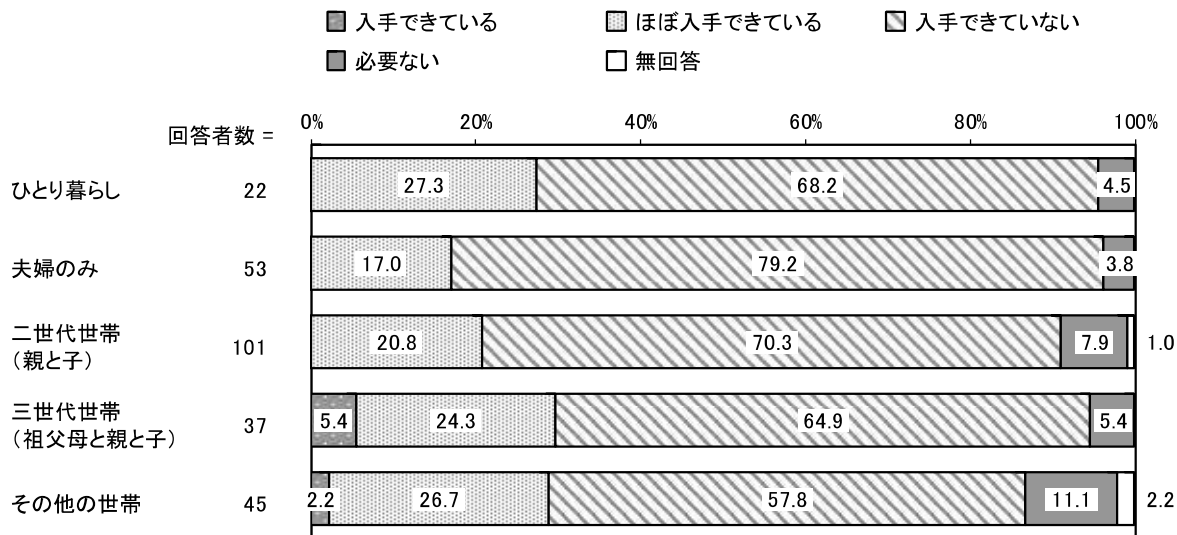
**【年代別】**

年代別でみると、他に比べ、60～64 歳、75 歳以上で「入手できていない」の割合が高くなっています。



### 【世帯構成別】

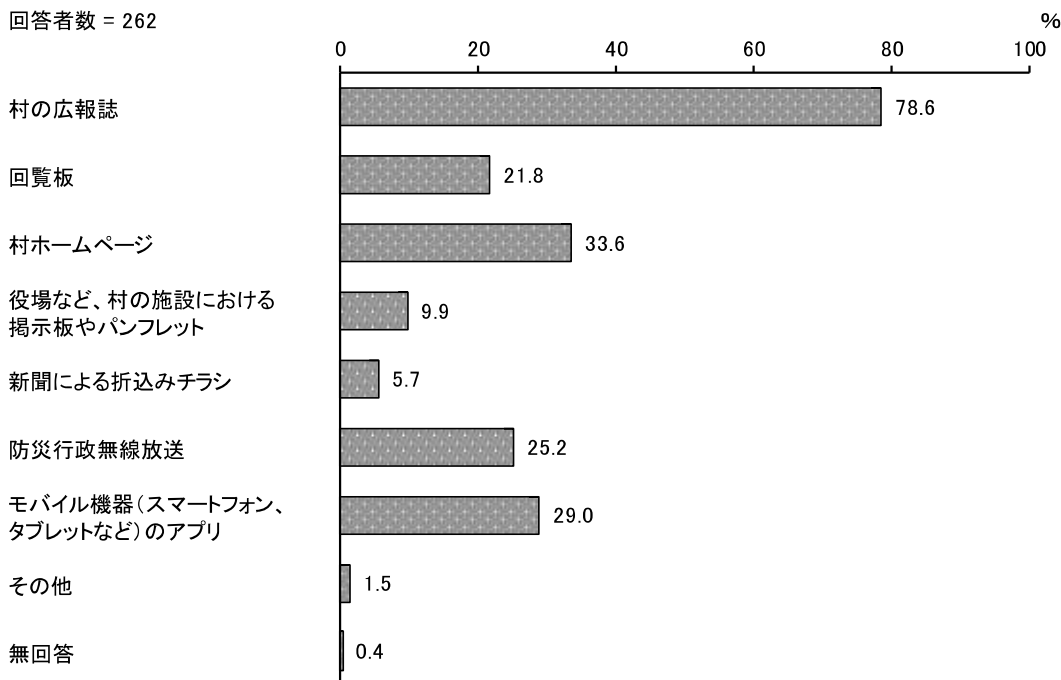
世帯構成別でみると、他に比べ、ひとり暮らしで「ほぼ入手できている」の割合が高くなっています。また、夫婦のみで「入手できていない」の割合が高くなっています。



### 問 18 保健や福祉に関する情報を、どのような方法で知りたいと思いますか。 (あてはまるものすべてに○)

「村の広報誌」の割合が78.6%と最も高く、次いで「村ホームページ」の割合が33.6%、「モバイル機器（スマートフォン、タブレットなど）のアプリ」の割合が29.0%となっています。

回答者数 = 262



### 【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「村の広報誌」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、65～74歳で「防災行政無線放送」の割合が、30～39歳で「モバイル機器（スマートフォン、タブレットなど）のアプリ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	村の広報誌	回覧板	村ホームページ	役場など、村の施設における 掲示板やパンフレット	新聞による折込みチラシ	防災行政無線放送	モバイル機器（スマートフォン、タブレットなど）のアプリ	その他	無回答
18～29歳	37	45.9	13.5	45.9	2.7	13.5	5.4	27.0	2.7	—
30～39歳	41	75.6	19.5	31.7	14.6	4.9	12.2	48.8	—	—
40～49歳	46	78.3	15.2	37.0	13.0	2.2	15.2	39.1	2.2	2.2
50～59歳	60	86.7	25.0	35.0	10.0	5.0	33.3	26.7	3.3	—
60～64歳	14	85.7	21.4	7.1	—	7.1	28.6	35.7	—	—
65～69歳	23	91.3	30.4	39.1	13.0	13.0	47.8	21.7	—	—
70～74歳	25	96.0	24.0	24.0	8.0	—	48.0	8.0	—	—
75歳以上	12	91.7	41.7	8.3	16.7	—	41.7	—	—	—

### 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、夫婦のみ、二世帯世帯（親と子）で「村の広報誌」の割合が高くなっています。また、夫婦のみで「回覧板」「防災行政無線放送」の割合が高くなっています。

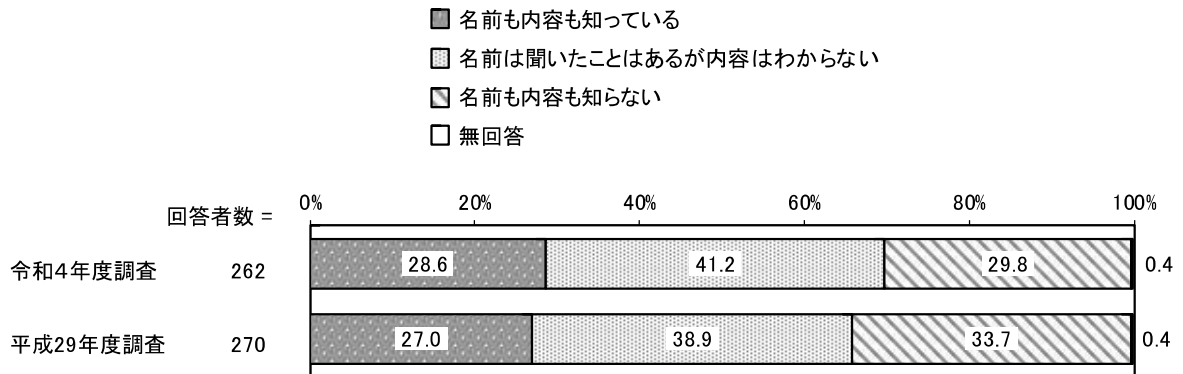
単位：％

区分	回答者数（件）	村の広報誌	回覧板	村ホームページ	役場など、村の施設における 掲示板やパンフレット	新聞による折込みチラシ	防災行政無線放送	モバイル機器（スマートフォン、タブレットなど）のアプリ	その他	無回答
ひとり暮らし	22	77.3	18.2	18.2	9.1	—	22.7	22.7	—	—
夫婦のみ	53	83.0	32.1	32.1	7.5	3.8	37.7	18.9	1.9	—
二世帯世帯（親と子）	101	81.2	19.8	32.7	10.9	7.9	22.8	33.7	2.0	1.0
三世帯世帯（祖父母と親と子）	37	73.0	21.6	37.8	5.4	8.1	24.3	35.1	—	—
その他の世帯	45	75.6	15.6	37.8	15.6	4.4	20.0	31.1	2.2	—

問 19 成年後見制度についてご存じですか。(1つに〇)

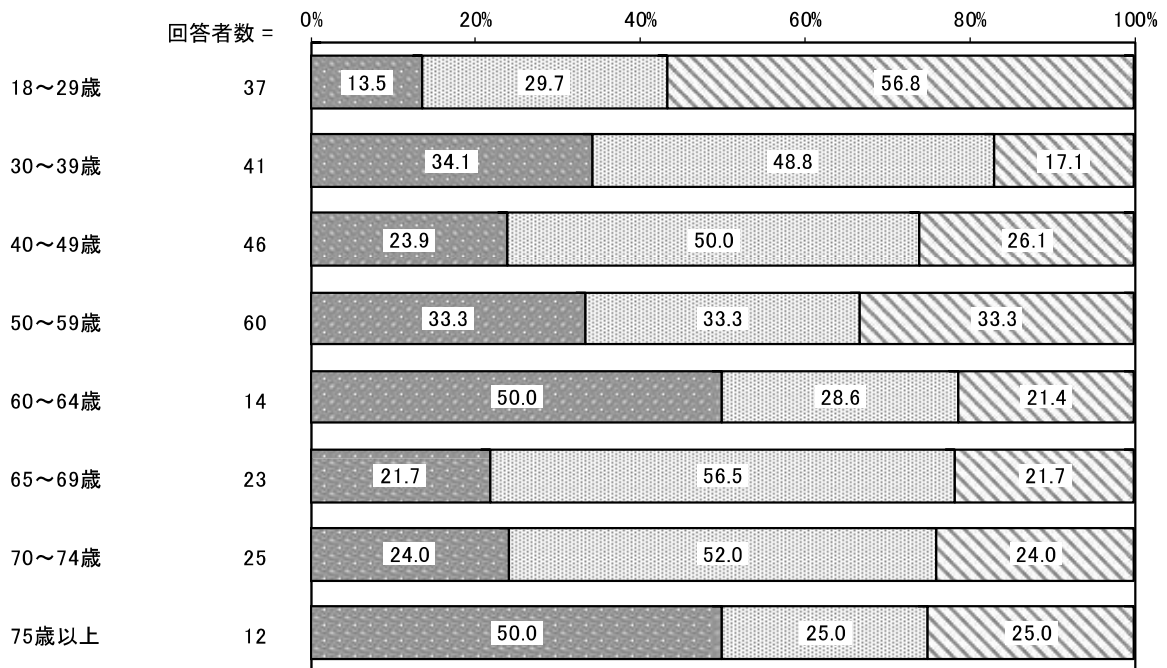
「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が41.2%と最も高く、次いで「名前も内容も知らない」の割合が29.8%、「名前も内容も知っている」の割合が28.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



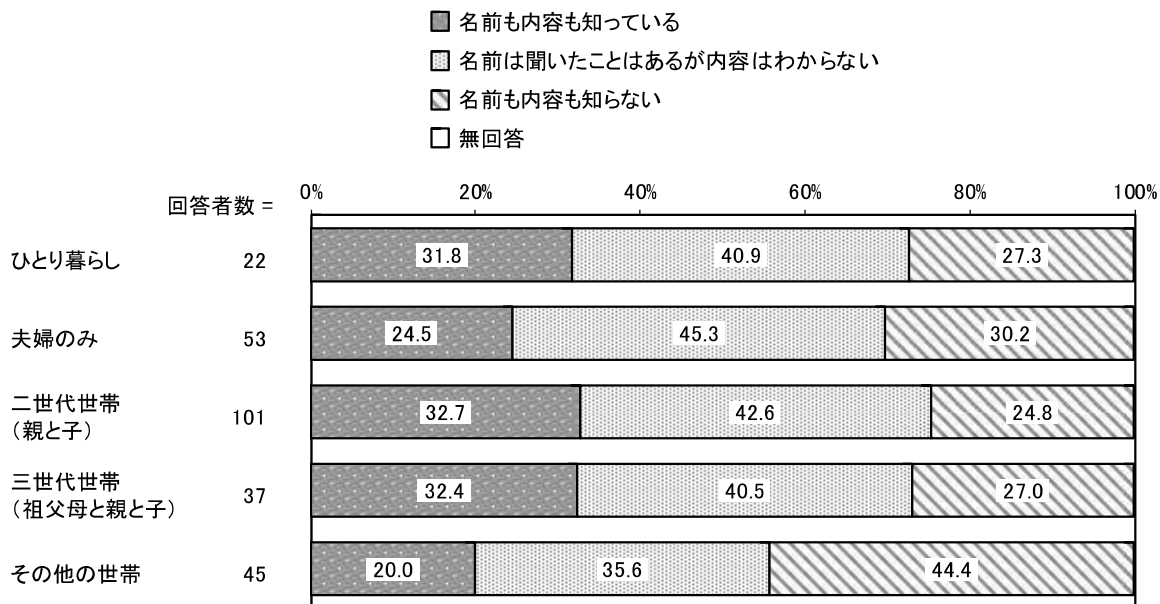
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、60～64歳、75歳以上で「名前も内容も知っている」の割合が高くなっています。また、18～29歳で「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



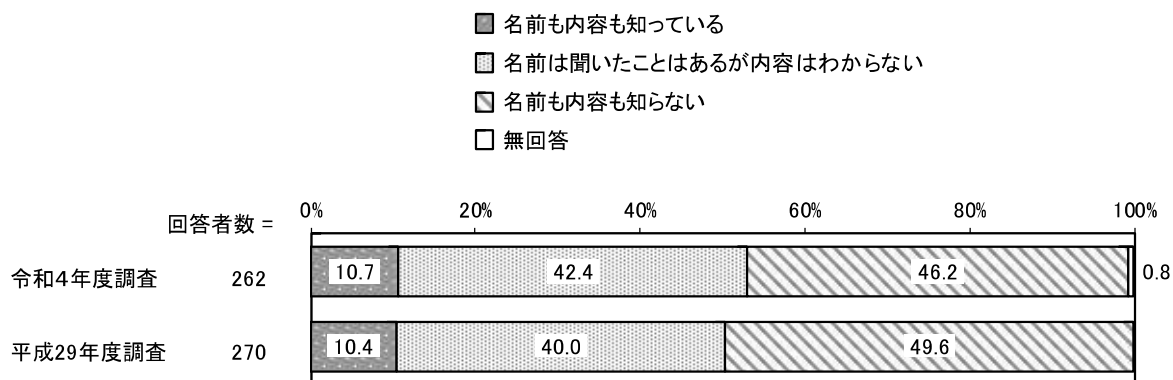
### 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、夫婦のみで「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が高くなっています。



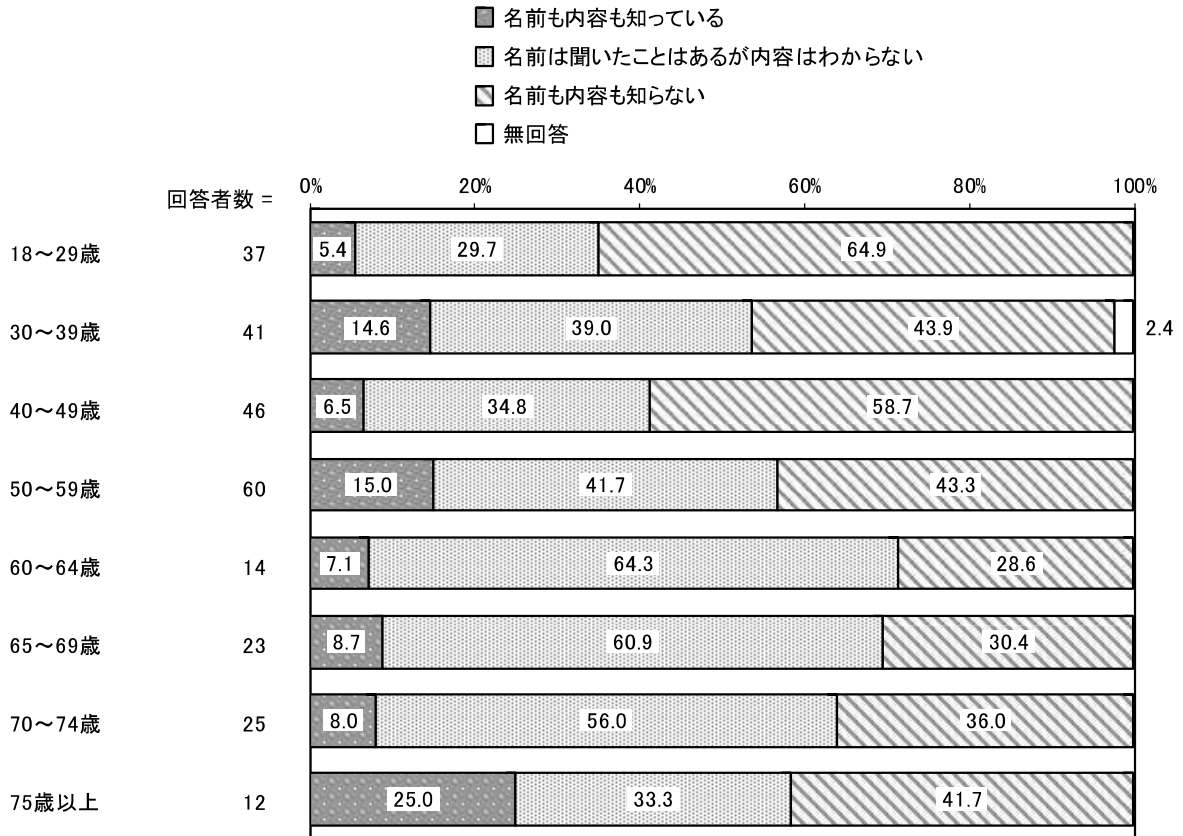
### 問 20 日常生活自立支援事業についてご存じですか。(1つに○)

「名前も内容も知らない」の割合が46.2%と最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が42.4%、「名前も内容も知っている」の割合が10.7%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



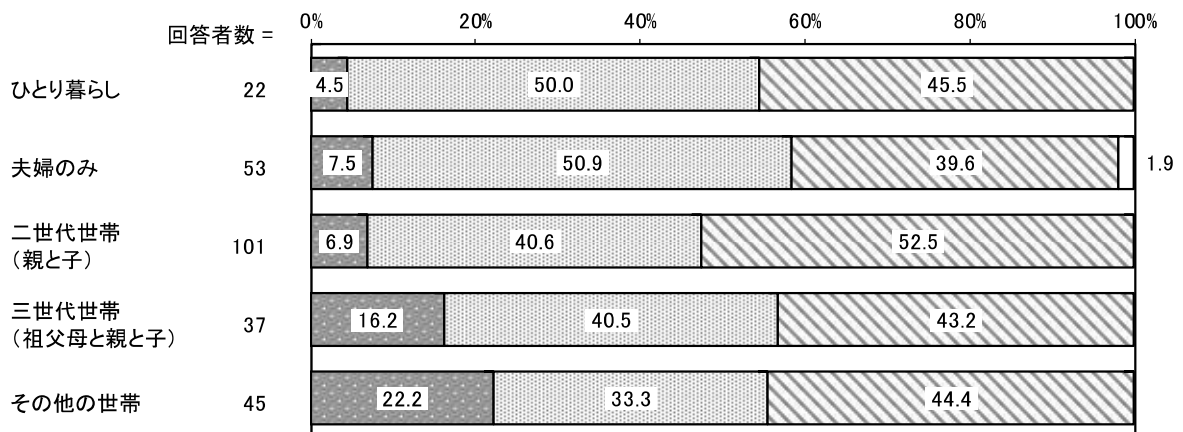
### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、75歳以上で「名前も内容も知っている」の割合が高くなっています。また、60～64歳で「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が、18～29歳で「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



### 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、ひとり暮らし、夫婦のみで「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が高くなっています。また、二世帯世帯（親と子）で「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



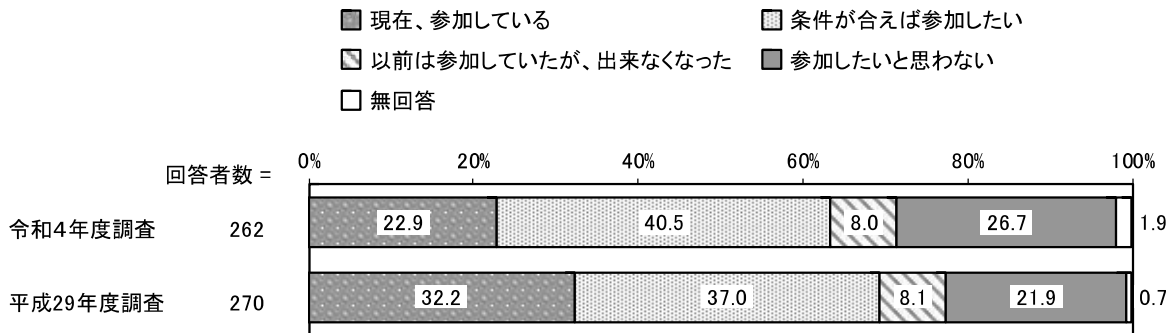


## 6 地域活動やボランティア活動について

### 問 21 あなたは、地域活動やボランティア活動に参加していますか。(1つに○)

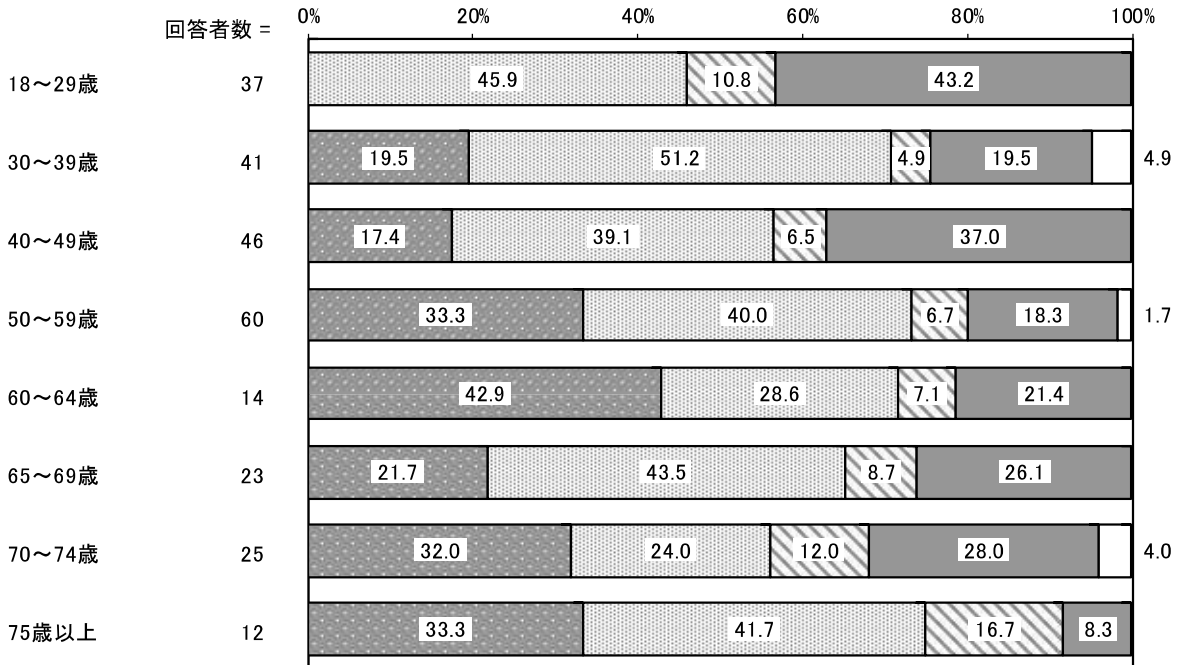
「条件が合えば参加したい」の割合が40.5%と最も高く、次いで「参加したいと思わない」の割合が26.7%、「現在、参加している」の割合が22.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「現在、参加している」の割合が減少しています。



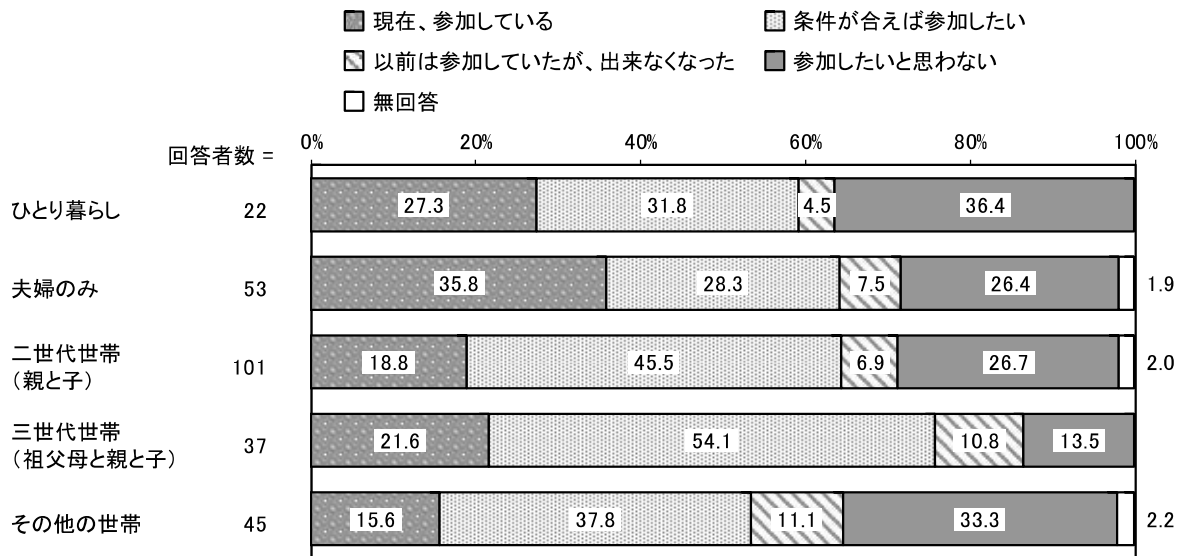
#### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、60～64歳で「現在、参加している」の割合が、30～39歳で「条件が合えば参加したい」の割合が高くなっています。また、18～29歳で「参加したいと思わない」の割合が高くなっています。



## 【世帯構成別】

世帯構成別で見ると、他に比べ、夫婦のみで「現在、参加している」の割合が、三世代世帯（祖父母と親と子）で「条件が合えば参加したい」の割合が高くなっています。また、ひとり暮らしで「参加したいと思わない」の割合が高くなっています。

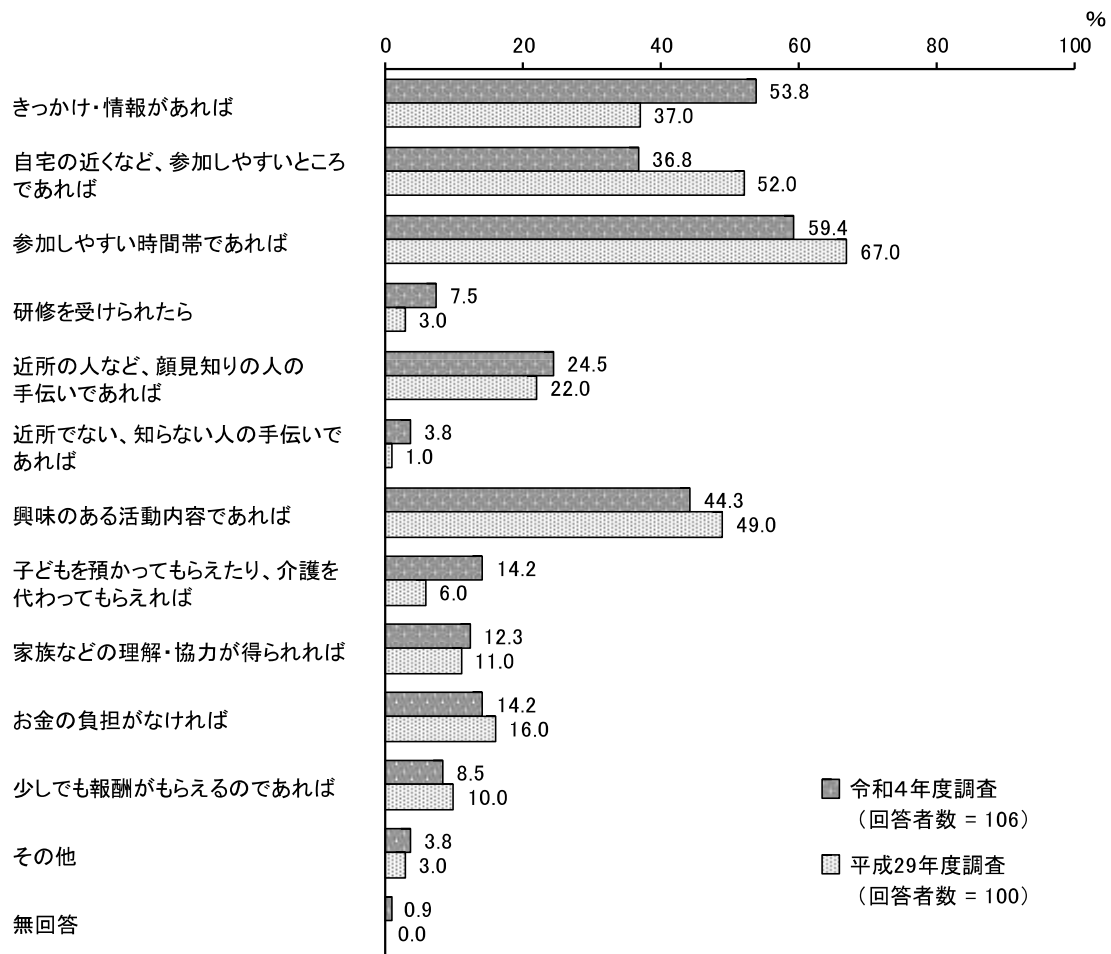


【問 21 で「条件が合えば参加したい」と答えた方にお聞きします。】

問 21-1 どのような条件であれば、参加しますか。(あてはまるすべてに○)

「参加しやすい時間帯であれば」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「きっかけ・情報があれば」の割合が 53.8%、「興味のある活動内容であれば」の割合が 44.3%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「きっかけ・情報があれば」「子どもを預かってもらえたり、介護を代わってもらえれば」の割合が増加し、「自宅の近くなど、参加しやすいところであれば」「参加しやすい時間帯であれば」の割合が減少しています。

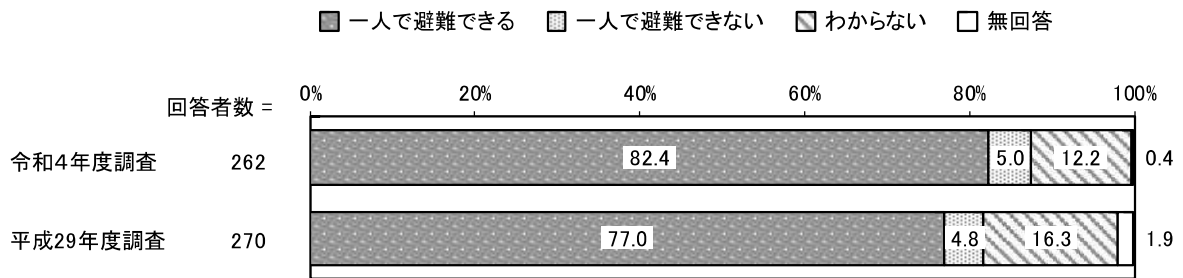


## 7 防災について

問 22 地震や風水害などが起こった時、あなたは避難場所などの安全な場所へ一人で避難できますか。(1つに○)

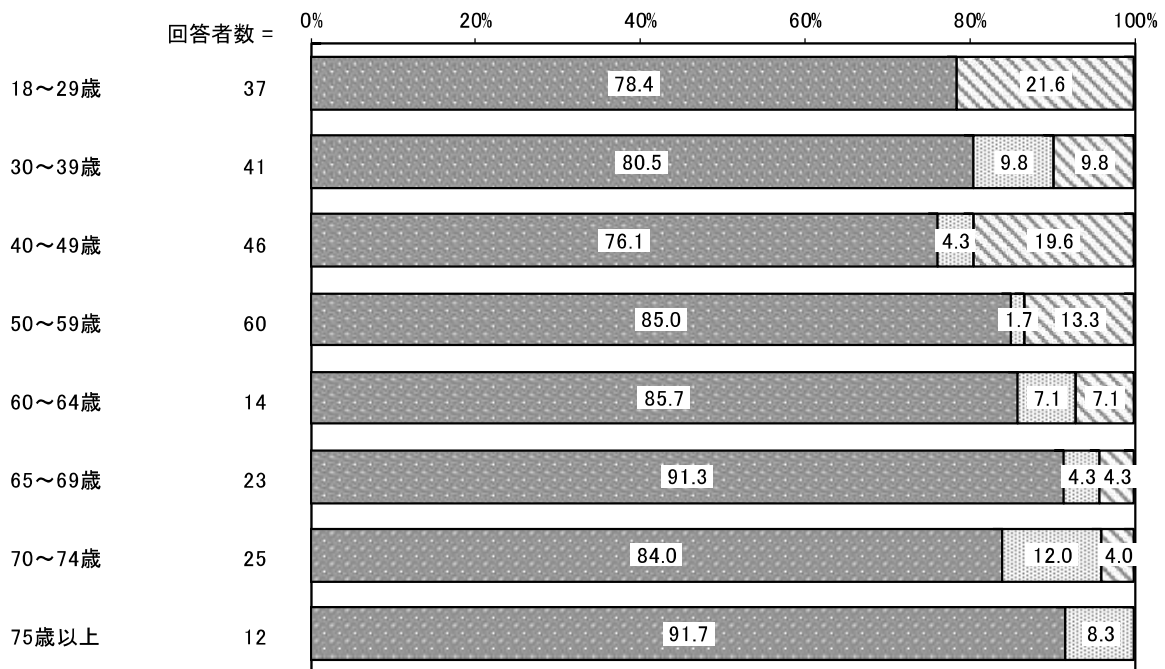
「一人で避難できる」の割合が82.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が12.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「一人で避難できる」の割合が増加しています。



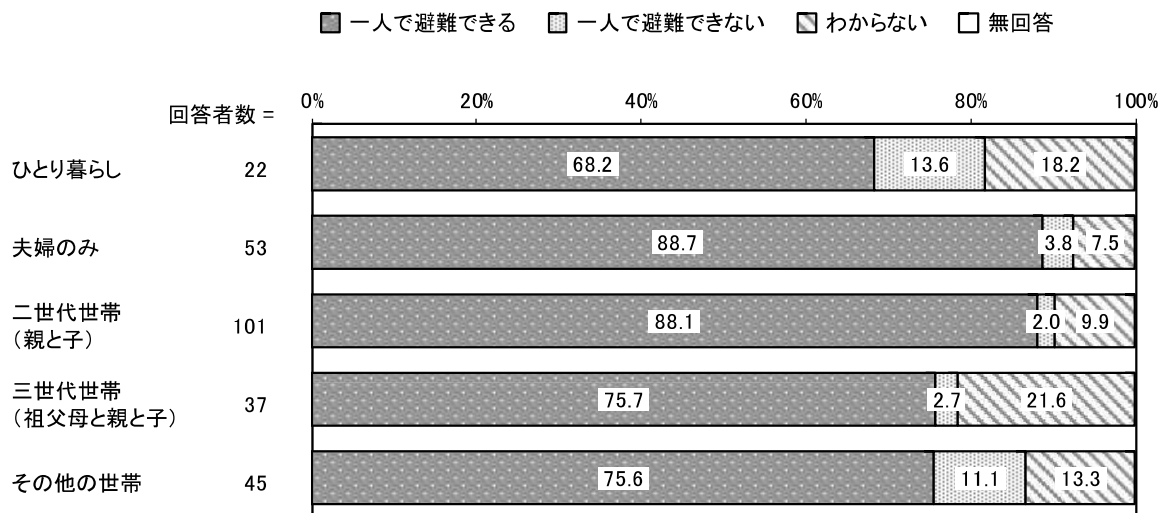
### 【年代別】

年代別で見ると、他に比べ、65～69歳、75歳以上で「一人で避難できる」の割合が高くなっています。



### 【世帯構成別】

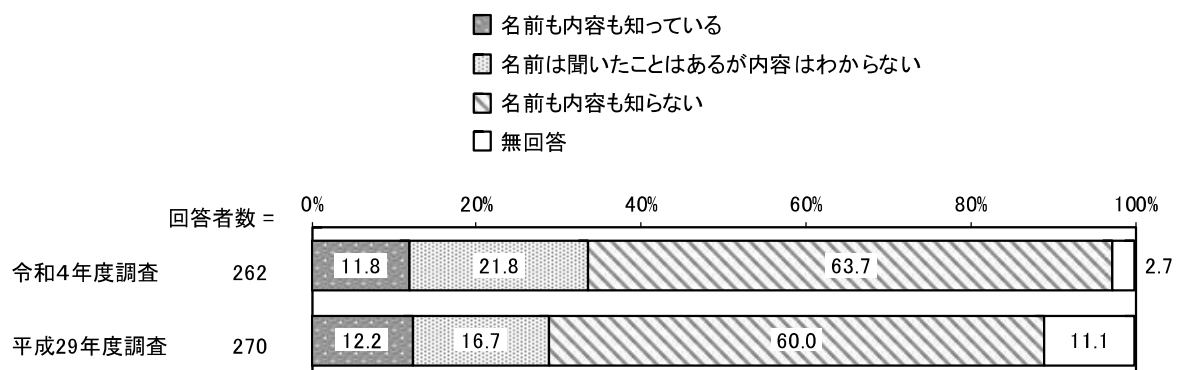
世帯構成別で見ると、他に比べ、夫婦のみ、二世帯世帯（親と子）で「一人で避難できる」の割合が高くなっています。また、ひとり暮らしで「一人で避難できない」の割合が高くなっています。



**問 23 災害時に自力で避難することが困難な方について、避難行動要支援者として名簿を作成し、避難支援に活用しています。その取組（避難行動要支援者登録名簿）をご存じですか。（1つに○）**

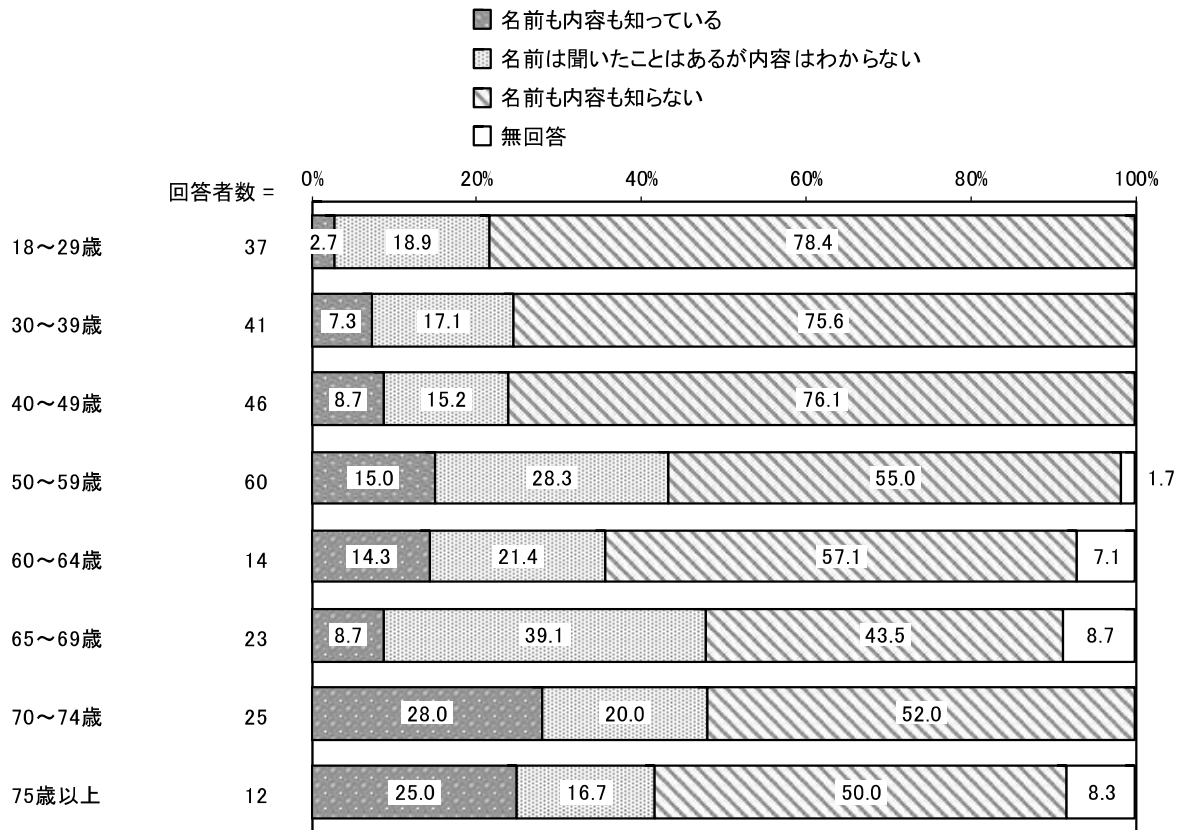
「名前も内容も知らない」の割合が63.7%と最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が21.8%、「名前も内容も知っている」の割合が11.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が増加しています。



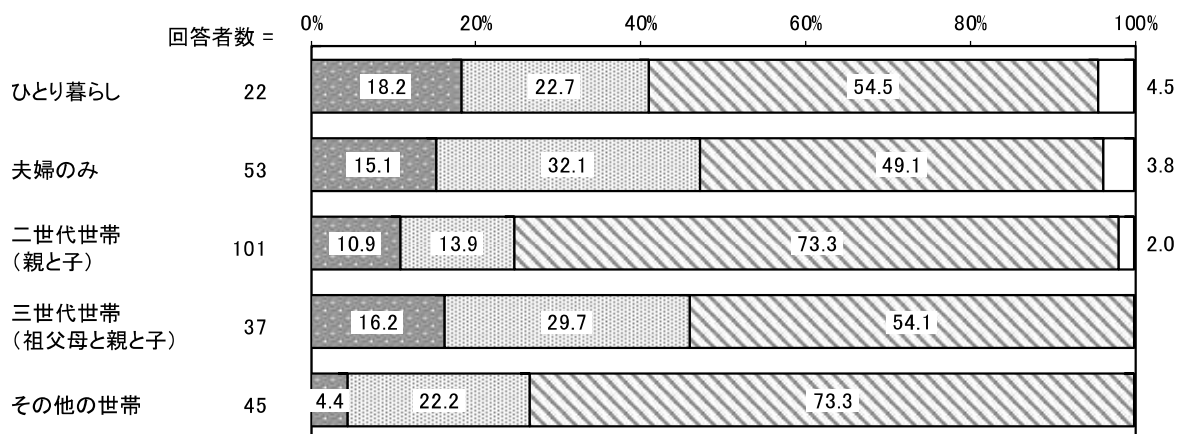
### 【年代別】

年代別でみると、69歳以下に比べ、70歳以上で「名前も内容も知っている」の割合が高くなっています。また、50歳以上に比べ、49歳以下で「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



### 【世帯構成別】

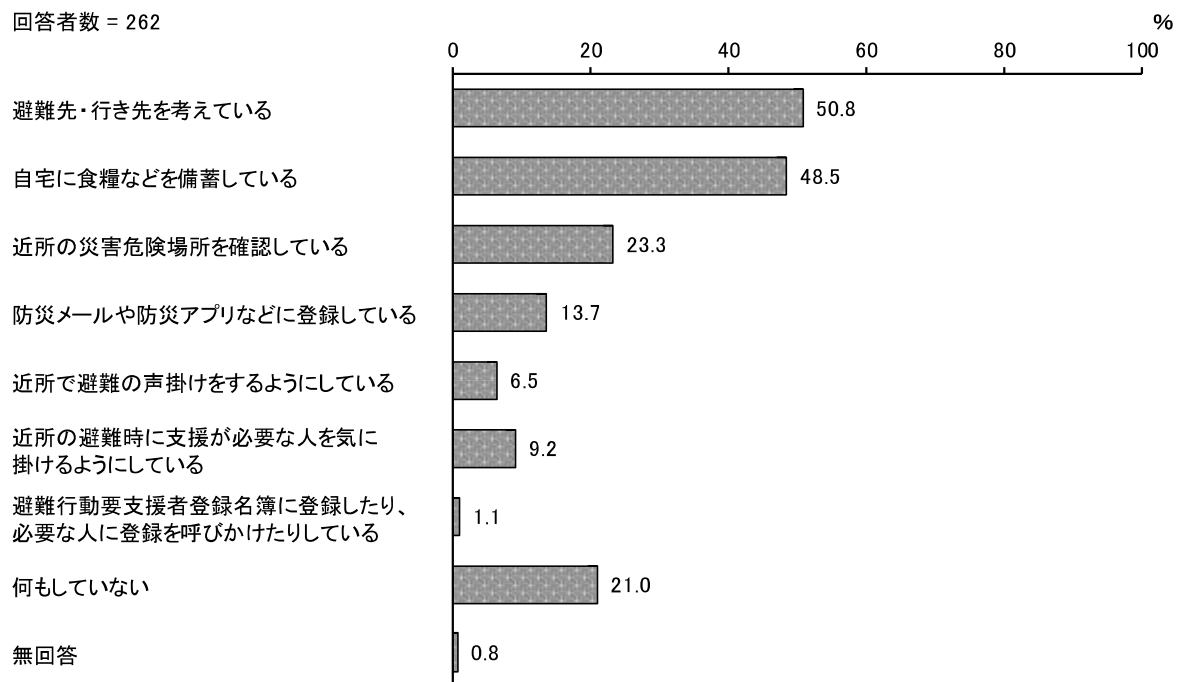
世帯構成別でみると、他に比べ、夫婦のみ、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が高くなっています。また、二世帯世帯（親と子）で「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



問 24 地震や風水害などに備えて取り組んでいることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「避難先・行き先を考えている」の割合が50.8%と最も高く、次いで「自宅に食糧などを備蓄している」の割合が48.5%、「近所の災害危険場所を確認している」の割合が23.3%となっています。

回答者数 = 262



### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、75歳以上で「避難先・行き先を考えている」の割合が、70～74歳で「自宅に食糧などを備蓄している」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	避難先・行き先を考えている	自宅に食糧などを備蓄している	近所の災害危険場所を確認している	防災メールや防災アプリなどに登録している	近所で避難の声掛けをするようにしている	近所の避難時に支援が必要なる人を気に掛けるようにしている	避難行動要支援者登録名簿に登録したり、必要な人に登録を呼びかけたりしている	何もしていない	無回答
18～29歳	37	56.8	43.2	16.2	5.4	2.7	2.7	—	27.0	—
30～39歳	41	36.6	51.2	29.3	14.6	2.4	14.6	—	24.4	—
40～49歳	46	52.2	52.2	26.1	10.9	2.2	4.3	2.2	17.4	2.2
50～59歳	60	48.3	41.7	18.3	20.0	8.3	5.0	1.7	25.0	—
60～64歳	14	50.0	50.0	21.4	35.7	14.3	21.4	—	14.3	—
65～69歳	23	56.5	52.2	21.7	17.4	8.7	8.7	—	21.7	—
70～74歳	25	52.0	64.0	36.0	—	12.0	16.0	4.0	12.0	—
75歳以上	12	66.7	33.3	16.7	8.3	16.7	25.0	—	16.7	—

### 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「避難先・行き先を考えている」「自宅に食糧などを備蓄している」の割合が高くなっています。また、二世帯世帯（親と子）で「近所の災害危険場所を確認している」の割合が、ひとり暮らしで「防災メールや防災アプリなどに登録している」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	避難先・行き先を考えている	自宅に食糧などを備蓄している	近所の災害危険場所を確認している	防災メールや防災アプリなどに登録している	近所で避難の声掛けをするようにしている	近所の避難時に支援が必要なる人を気に掛けるようにしている	避難行動要支援者登録名簿に登録したり、必要な人に登録を呼びかけたりしている	何もしていない	無回答
ひとり暮らし	22	36.4	50.0	18.2	27.3	—	13.6	4.5	22.7	—
夫婦のみ	53	47.2	52.8	20.8	3.8	11.3	13.2	3.8	20.8	—
二世帯世帯 (親と子)	101	55.4	44.6	30.7	14.9	2.0	7.9	—	15.8	1.0
三世帯世帯 (祖父母と親と子)	37	59.5	56.8	16.2	21.6	8.1	5.4	—	21.6	—
その他の世帯	45	42.2	44.4	17.8	8.9	13.3	8.9	—	33.3	—

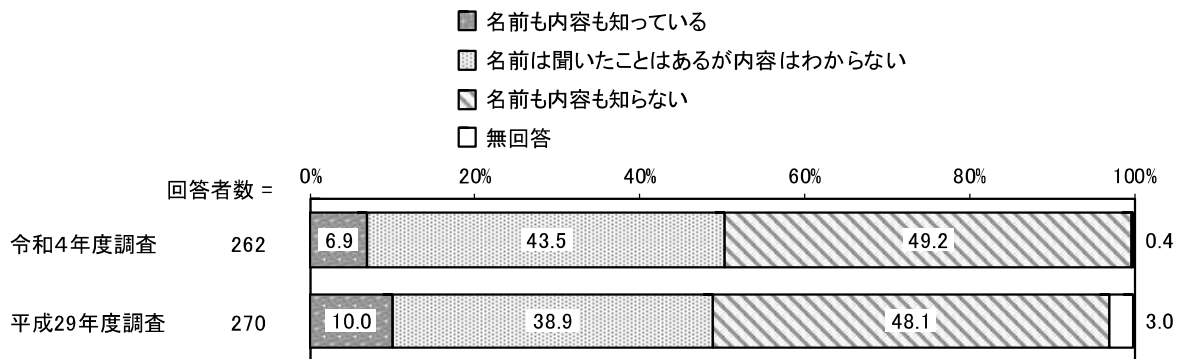


## 8 生活困窮者の自立支援について

### 問 25 生活困窮者自立支援法（制度）について、ご存じですか。（1つに〇）

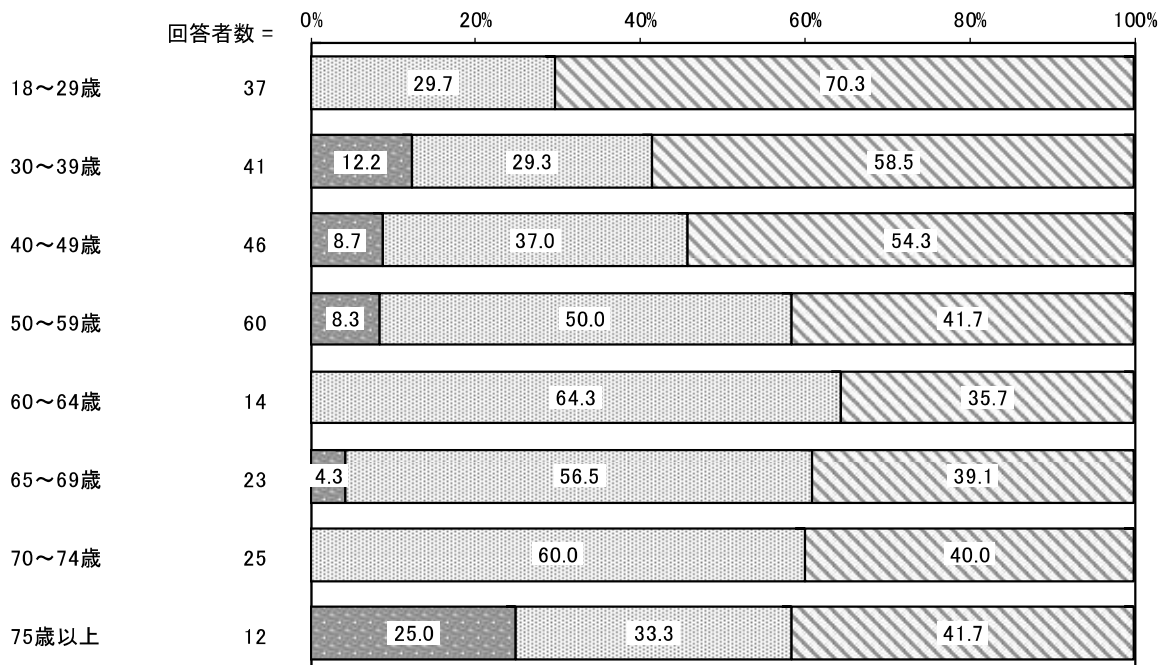
「名前も内容も知らない」の割合が 49.2%と最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が 43.5%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



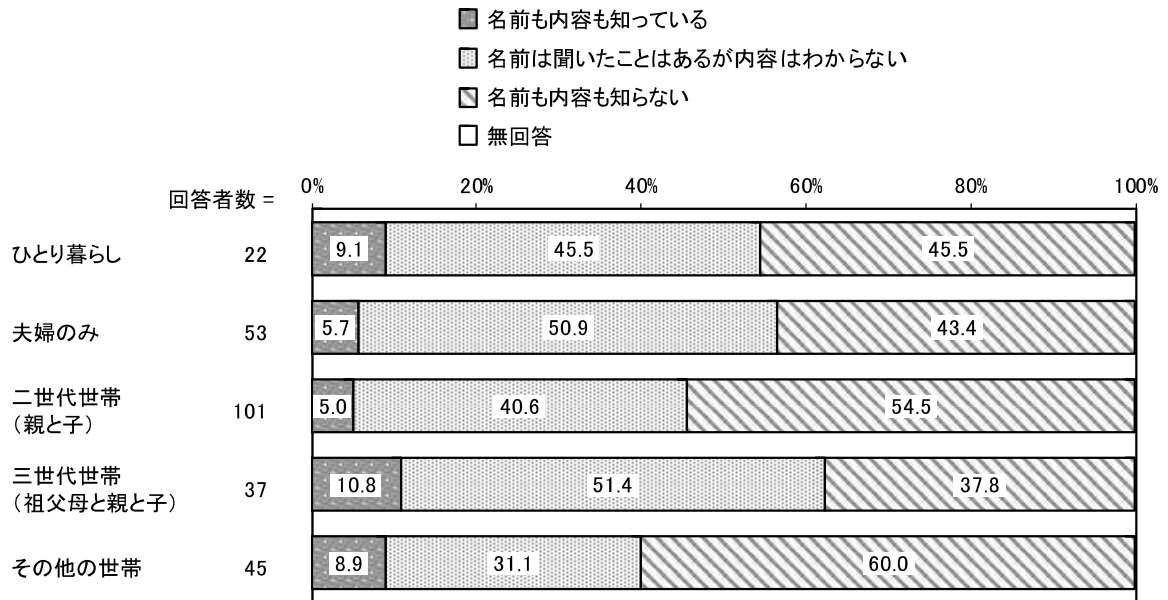
#### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、75 歳以上で「名前も内容も知っている」の割合が、60～64 歳で「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が高くなっています、また、18～29 歳で「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



### 【世帯構成別】

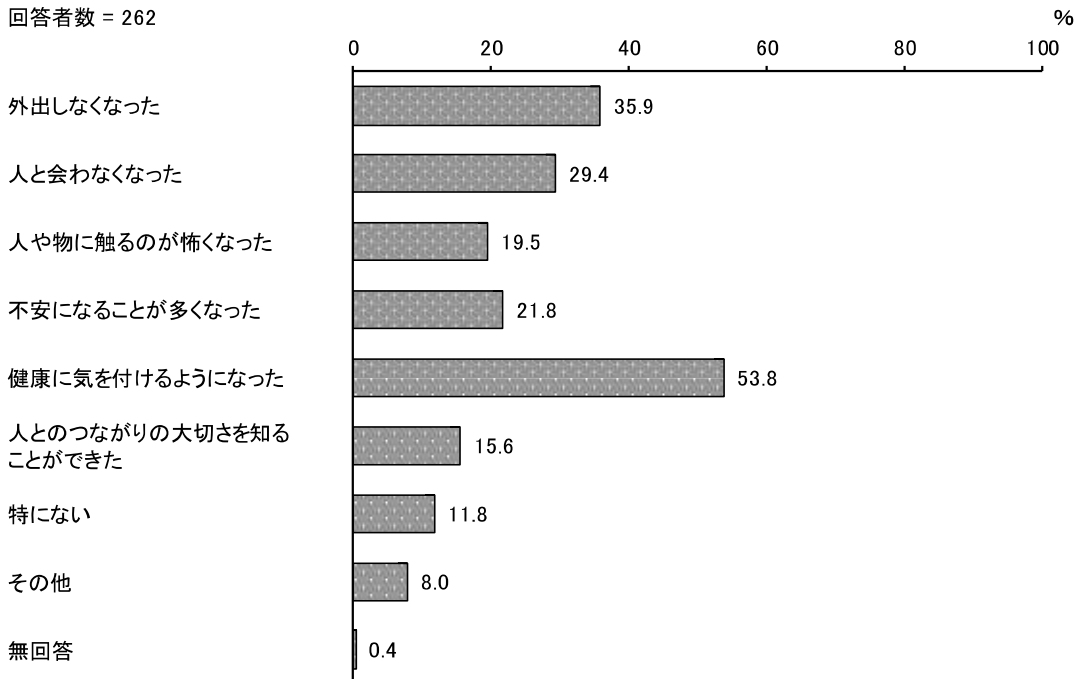
世帯構成別で見ると、他に比べ、夫婦のみ、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が高くなっています。また、二世帯世帯（親と子）で「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



## 9 社会的課題について

問 26 新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、あなたの意識や行動に変化はありましたか。(あてはまるものすべてに○)

「健康に気を付けるようになった」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「外出しなくなった」の割合が 35.9%、「人と会わなくなった」の割合が 29.4%となっています。



### 【年代別】

年代別で見ると、他に比べ、65～69歳で「健康に気を付けるようになった」の割合が高くなっています。また、70～74歳で「外出しなくなった」の割合が、30～39歳、70～74歳で「人と会わなくなった人と会わなくなった」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	外出しなくなった	人と会わなくなった	人や物に触るのが怖くなった	不安になることが多くなった	健康に気を付けるようになった	人とのつながりの大切さを知ることができた	特にない	その他	無回答
18～29歳	37	18.9	21.6	13.5	10.8	67.6	10.8	10.8	2.7	—
30～39歳	41	43.9	39.0	24.4	22.0	41.5	17.1	14.6	7.3	—
40～49歳	46	41.3	21.7	34.8	23.9	41.3	19.6	15.2	6.5	—
50～59歳	60	28.3	31.7	21.7	18.3	51.7	11.7	13.3	16.7	—
60～64歳	14	50.0	35.7	21.4	28.6	42.9	28.6	14.3	7.1	—
65～69歳	23	34.8	26.1	8.7	26.1	69.6	21.7	8.7	—	—
70～74歳	25	56.0	40.0	4.0	32.0	72.0	12.0	4.0	8.0	—
75歳以上	12	33.3	25.0	8.3	8.3	66.7	16.7	8.3	8.3	—

### 【世帯構成別】

世帯構成別で見ると、他に比べ、ひとり暮らしで「外出しなくなった」「人とのつながりの大切さを知ることができた」の割合が高くなっています。また、夫婦のみで「健康に気を付けるようになった」の割合が高くなっています。

単位：％

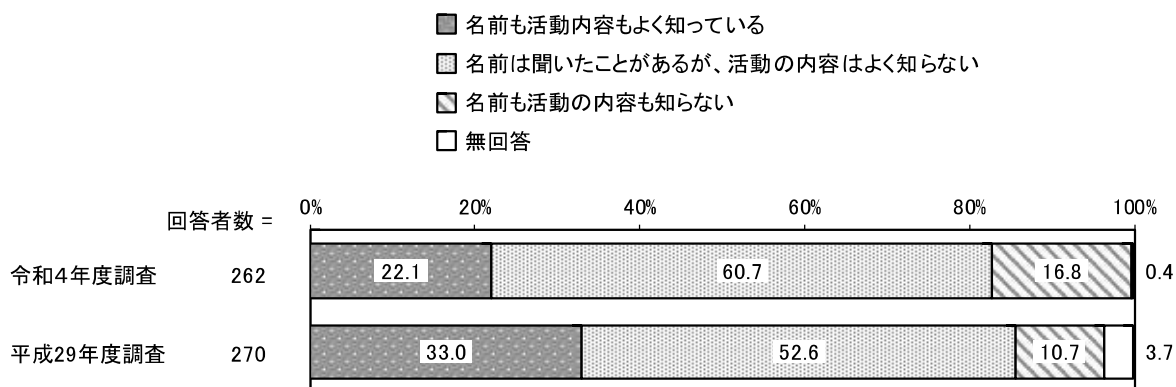
区分	回答者数(件)	外出しなくなった	人と会わなくなった	人や物に触るのが怖くなった	不安になることが多くなった	健康に気を付けるようになった	人とのつながりの大切さを知ることができた	特にない	その他	無回答
ひとり暮らし	22	45.5	31.8	22.7	31.8	36.4	27.3	18.2	—	—
夫婦のみ	53	39.6	34.0	11.3	28.3	62.3	3.8	7.5	7.5	—
二世帯世帯(親と子)	101	37.6	32.7	25.7	20.8	50.5	14.9	11.9	8.9	—
三世帯世帯(祖父母と親と子)	37	29.7	21.6	21.6	13.5	56.8	24.3	13.5	8.1	—
その他の世帯	45	31.1	24.4	13.3	13.3	60.0	20.0	13.3	11.1	—

## 10 村の地域福祉について

### 問 27 あなたは、「明日香村社会福祉協議会」をご存知ですか。（1つに○）

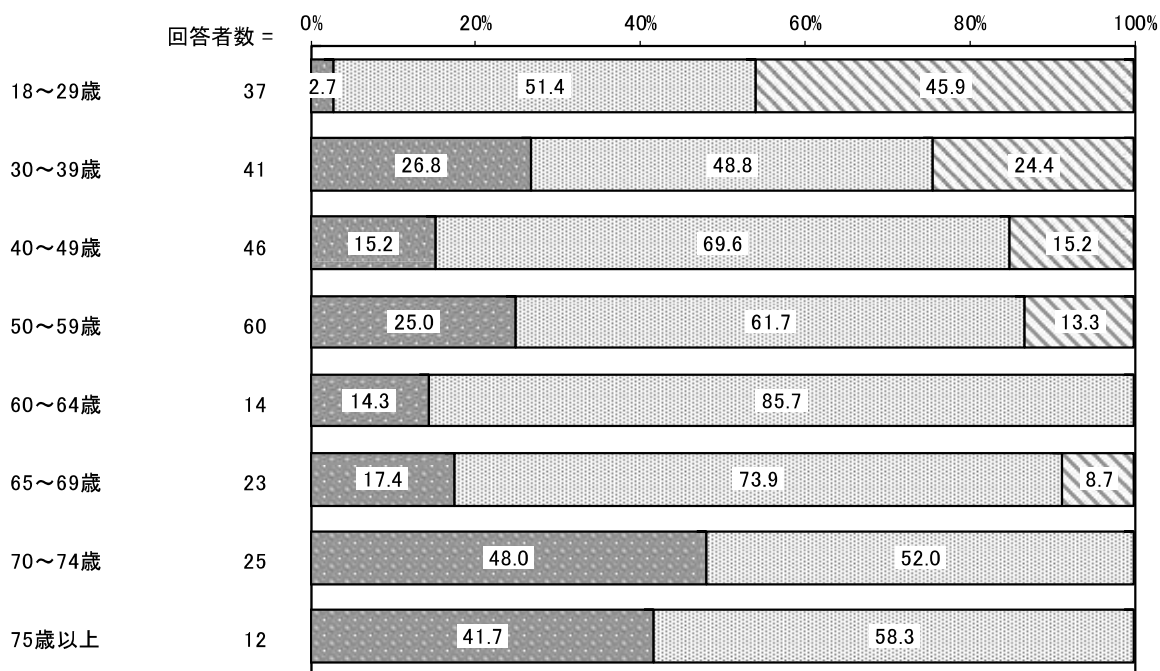
「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」の割合が60.7%と最も高く、次いで「名前も活動内容もよく知っている」の割合が22.1%、「名前も活動の内容も知らない」の割合が16.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」「名前も活動の内容も知らない」の割合が増加し、「名前も活動内容もよく知っている」の割合が減少しています。



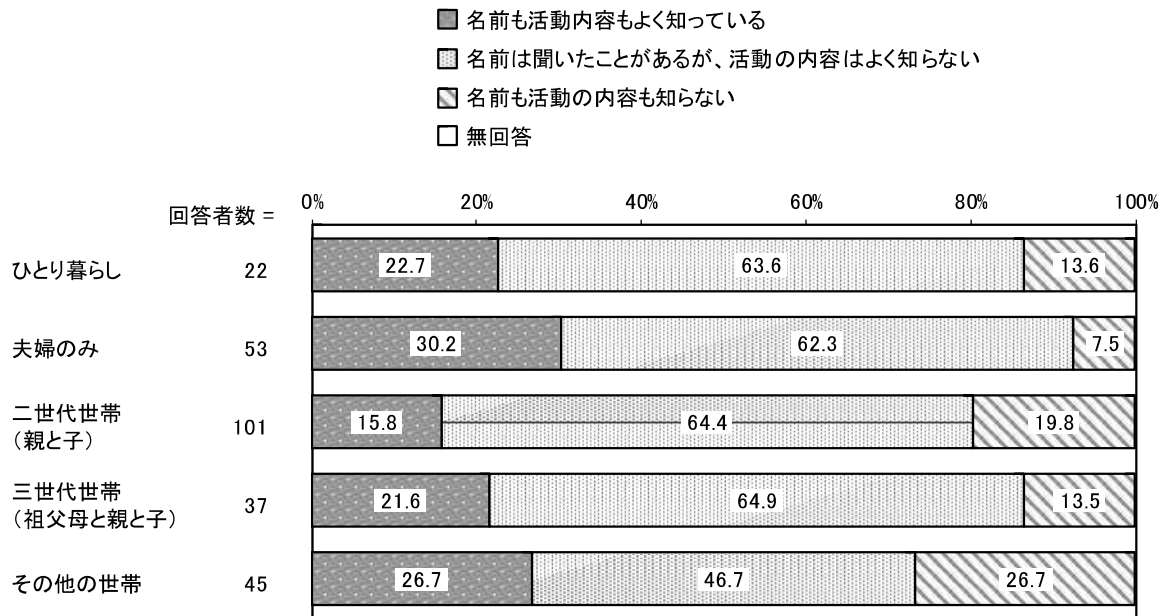
### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、70～74歳で「名前も活動内容もよく知っている」の割合が、60～64歳で「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」の割合が高くなっています。また、18～29歳で「名前も活動の内容も知らない」の割合が高くなっています。



### 【世帯構成別】

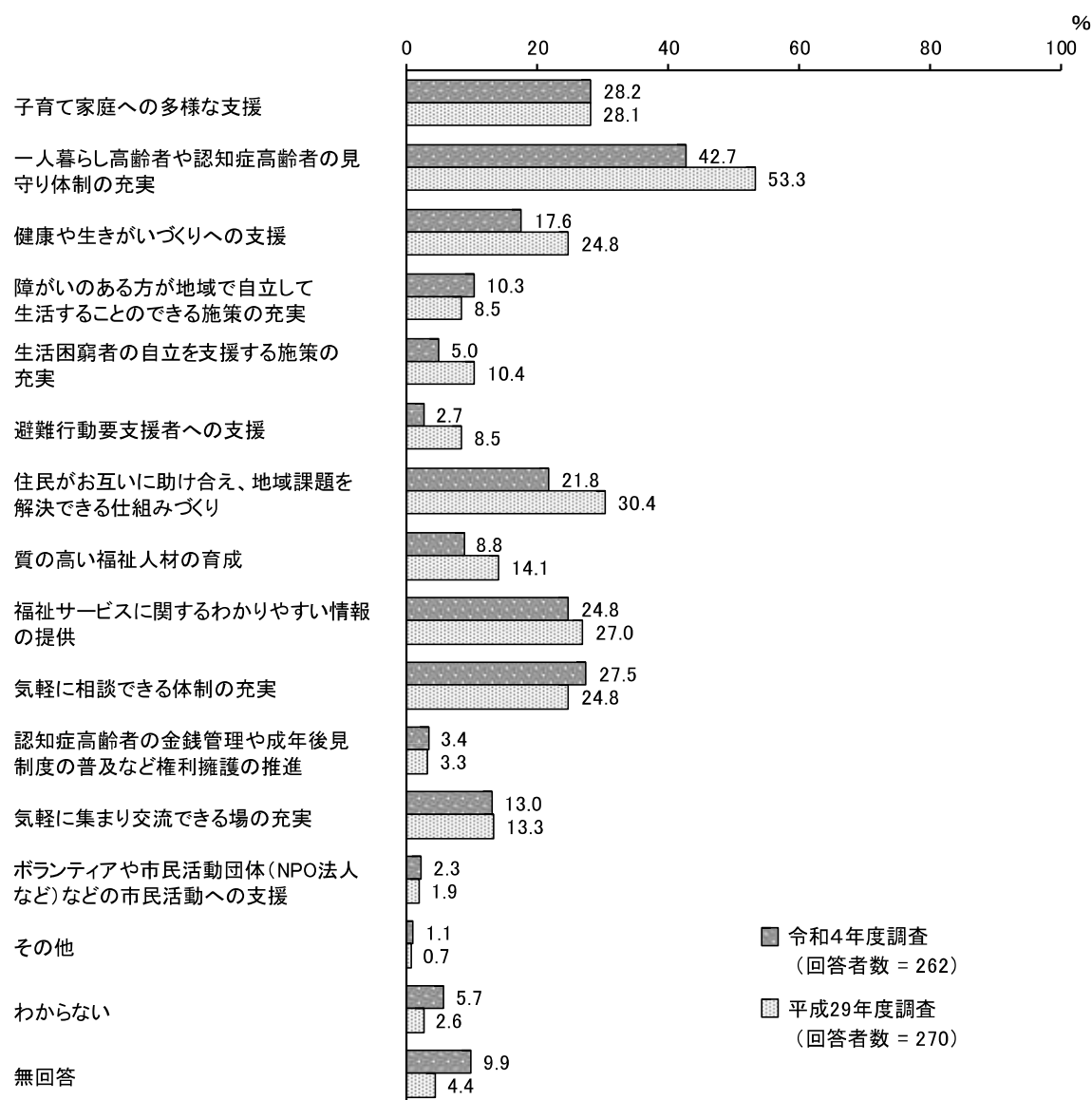
世帯構成別で見ると、他に比べ、夫婦のみで「名前も活動内容もよく知っている」の割合が高くなっています。また、二世帯世帯（親と子）で「名前も活動の内容も知らない」の割合が高くなっています。



問 28 これからの明日香村の地域福祉は何を重点にすべきと思いますか。重点にすべきと思う内容に○をつけてください。(あてはまるもの3つまで○)

「一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り体制の充実」の割合が42.7%と最も高く、次いで「子育て家庭への多様な支援」の割合が28.2%、「気軽に相談できる体制の充実」の割合が27.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り体制の充実」「健康や生きがいがづくりへの支援」「生活困窮者の自立を支援する施策の充実」「避難行動要支援者への支援」「住民がお互いに助け合え、地域課題を解決できる仕組みづくり」「質の高い福祉人材の育成」の割合が減少しています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、70～74歳で「質の高い福祉人材の育成」「福祉サービスに関するわかりやすい情報の提供」の割合が、75歳以上で「住民がお互いに助け合え、地域課題を解決できる仕組みづくり」「気軽に相談できる体制の充実」の割合が高くなっています。また、60～64歳、75歳以上で「一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り体制の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	子育て家庭への多様な支援	一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り体制の充実	健康や生きがいづくりへの支援	障がいのある方が地域で自立して生活することのできる施策の充実	生活困窮者の自立を支援する施策の充実	避難行動要支援者への支援	住民がお互いに助け合え、地域課題を解決できる仕組みづくり	質の高い福祉人材の育成
18～29歳	37	24.3	24.3	13.5	8.1	2.7	—	13.5	8.1
30～39歳	41	56.1	39.0	9.8	9.8	7.3	2.4	19.5	—
40～49歳	46	37.0	41.3	6.5	10.9	4.3	2.2	15.2	6.5
50～59歳	60	21.7	50.0	18.3	13.3	8.3	5.0	21.7	6.7
60～64歳	14	7.1	57.1	21.4	—	—	14.3	28.6	7.1
65～69歳	23	26.1	26.1	39.1	4.3	4.3	—	13.0	17.4
70～74歳	25	8.0	56.0	32.0	20.0	—	—	36.0	28.0
75歳以上	12	16.7	58.3	16.7	8.3	—	—	41.7	8.3

区分	福祉サービスに関するわかりやすい情報の提供	気軽に相談できる体制の充実	認知症高齢者の金銭管理や成年後見制度の普及など権利擁護の推進	気軽に集まり交流できる場の充実	ボランティアや市民活動団体（NPO法人など）などの市民活動への支援	その他	わからない	無回答
18～29歳	24.3	27.0	8.1	5.4	2.7	—	21.6	5.4
30～39歳	17.1	22.0	2.4	24.4	2.4	2.4	—	9.8
40～49歳	17.4	23.9	4.3	6.5	4.3	2.2	6.5	15.2
50～59歳	16.7	28.3	1.7	15.0	—	—	5.0	13.3
60～64歳	28.6	21.4	7.1	14.3	—	—	7.1	14.3
65～69歳	39.1	26.1	—	21.7	—	4.3	—	13.0
70～74歳	60.0	24.0	—	—	—	—	—	—
75歳以上	16.7	66.7	8.3	25.0	16.7	—	—	—



## 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、ひとり暮らしで「一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り体制の充実」「障がいのある方が地域で自立して生活することのできる施策の充実」の割合が、夫婦のみで「質の高い福祉人材の育成」「福祉サービスに関するわかりやすい情報の提供」「気軽に相談できる体制の充実」の割合が高くなっています。また、二世帯世帯（親と子）、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「子育て家庭への多様な支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	子育て家庭への多様な支援	一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り体制の充実	健康や生きがいづくりへの支援	障がいのある方が地域で自立して生活することのできる施策の充実	生活困窮者の自立を支援する施策の充実	避難行動要支援者への支援	住民がお互いに助け合え、地域課題を解決できる仕組みづくり	質の高い福祉人材の育成
ひとり暮らし	22	18.2	59.1	27.3	22.7	4.5	—	18.2	—
夫婦のみ	53	13.2	49.1	28.3	5.7	—	3.8	26.4	22.6
二世帯世帯（親と子）	101	38.6	41.6	12.9	8.9	5.9	5.0	20.8	6.9
三世帯世帯（祖父母と親と子）	37	37.8	35.1	16.2	10.8	8.1	—	18.9	2.7
その他の世帯	45	20.0	33.3	11.1	13.3	4.4	—	17.8	6.7

区分	福祉サービスに関するわかりやすい情報の提供	気軽に相談できる体制の充実	認知症高齢者の金銭管理や成年後見制度の普及など権利擁護の推進	気軽に集まり交流できる場の充実	ボランティアや市民活動団体（NPO法人など）などの市民活動への支援	その他	わからない	無回答
ひとり暮らし	22.7	13.6	9.1	13.6	—	—	4.5	13.6
夫婦のみ	43.4	37.7	—	9.4	3.8	3.8	3.8	1.9
二世帯世帯（親と子）	19.8	28.7	3.0	9.9	3.0	1.0	3.0	11.9
三世帯世帯（祖父母と親と子）	13.5	18.9	8.1	21.6	2.7	—	13.5	10.8
その他の世帯	24.4	24.4	2.2	17.8	—	—	8.9	13.3



明日香村地域福祉計画・地域福祉活動計画  
中間評価報告書  
令和5年3月

発 行

明日香村

〒634-0111 奈良県高市郡明日香村大字岡 55 番地  
TEL 0744-54-2001 FAX 0744-54-2440

社会福祉法人明日香村社会福祉協議会

〒634-0143 奈良県高市郡明日香村大字立部 745 番地  
TEL 0744-54-2740 FAX 0744-54-2740